

## 【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書  
【提出先】 関東財務局長殿  
【提出日】 2021年1月12日提出  
【計算期間】 第22特定期間(自 2020年4月14日至 2020年10月12日)  
【ファンド名】 米国ハイイールド債券ファンド 円コース  
米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース  
米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース  
米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース  
米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース  
【発行者名】 アセットマネジメントOne株式会社  
【代表者の役職氏名】 取締役社長 菅野 暁  
【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号  
【事務連絡者氏名】 酒井 隆  
【連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号  
【電話番号】 03-6774-5100  
【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 第一部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

「米国ハイイールド債券ファンド 円コース」、「米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース」、「米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース」、「米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース」、「米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース」は、投資信託を通じて実質的な投資対象へ投資するファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。なお、各ファンドは、それぞれ主として為替取引により異なる為替変動の影響を受ける円建ての外国投資信託「L A U Sハイイールドボンドファンド」(米ドル建ての高利回り事業債(以下「ハイイールド債」といいます。))を主要投資対象とします。)各クラス受益証券および円建ての国内籍の投資信託である「M H A M短期金融資産マザーファンド」(わが国の短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。)受益証券に投資を行います。

以下「マザーファンド」という場合があります。

##### <ファンドの特色>

米ドル建てのハイイールド債を実質的な主要投資対象とします。

主要投資対象とする外国投資信託において行う為替取引が異なる、5本のファンドから構成されています。

毎月12日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に、安定した収益分配を継続的に行うことを目指します。

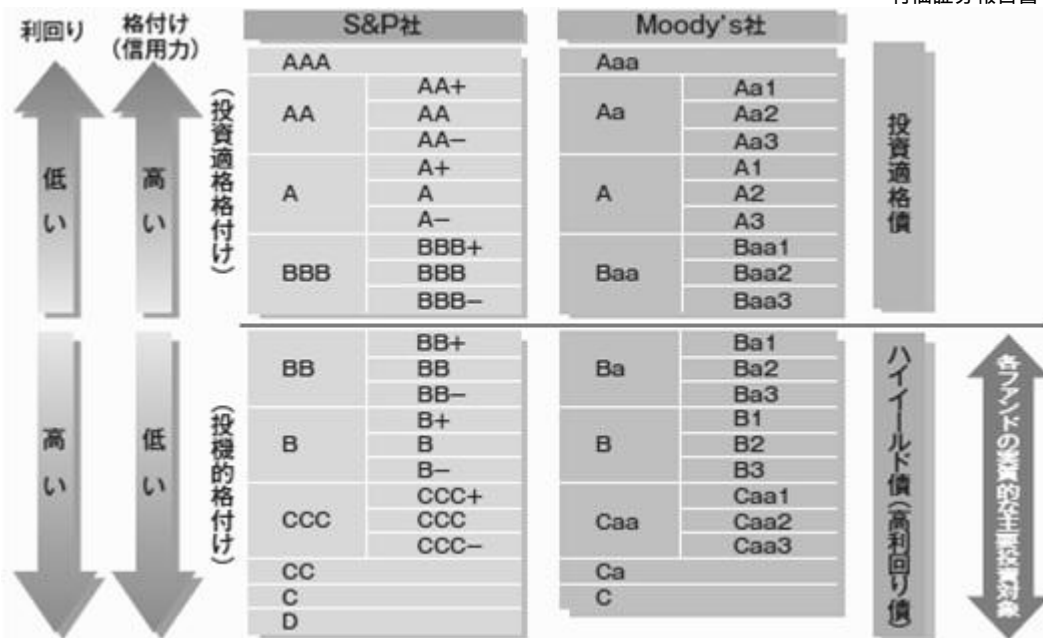
「原則として、安定した収益分配を継続的に行うことを目指す」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

米ドル建てのハイイールド債の運用は、ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー(ロード・アベット社)が行います。

##### [ハイイールド債とは]

一般に債券(社債)には、格付け会社から発行体(企業など)の信用力に応じて、A A A、A A等の格付けが付与されます。

S&Pグローバル・レーティング(S&P社)においてはBB+以下、ムーディーズ・インベスターズ・サービス(Moody's社)においてはBa1以下の格付けを付与されている公社債を、一般的に「ハイイールド債」といいます。ハイイールド債は、「投資適格債(BBB-(Baa3)以上の格付けを付与されている公社債をいい、高格付債ともいいます。)と比べて、信用力が低く、債務不履行(デフォルト)に陥る可能性が高い」と評価されている分、その見返りとして、満期償還までの期間が同じ投資適格債よりも、一般に高い利回りで発行・取引されます。



[各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託における為替取引の概要]

米ドルコースを除く各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託「LA USハイイールドボンドファンド」では、各クラスについてそれぞれ異なった為替取引(原則として米ドル売り、各クラスの取引対象通貨買い)を行います。

外国投資信託の主要投資対象は米ドル建てのハイイールド債です。

ファンド	主要投資対象とする 外国投資信託	為替取引		為替変動の影響
		取引対象通貨	為替取引の手法	
円コース	LA USハイイールドボンドファンド (円クラス)	円	保有資産に対し、原則として対円での為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い)を行います。	米ドルの対円での為替変動の影響が低減されることが見込まれます。
米ドルコース	LA USハイイールドボンドファンド (米ドルクラス)	-	保有資産に対し、原則として、為替取引(為替管理)を行いません。	米ドルの対円での為替変動の影響を受けません。
豪ドルコース	LA USハイイールドボンドファンド (豪ドルクラス)	豪ドル	保有資産に対し、原則として対豪ドルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い)を行います。	豪ドルの対円での為替変動の影響を受けません。
南アフリカ ランドコース	LA USハイイールドボンドファンド (南アフリカランド クラス)	南アフリカ ランド	保有資産に対し、原則として対南アフリカランドでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い)を行います。	南アフリカランドの対円での為替変動の影響を受けません。
ブラジル リアルコース	LA USハイイールドボンドファンド (ブラジルリアル クラス)	ブラジル リアル	保有資産に対し、原則として対ブラジルリアルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い)を行います。	ブラジルリアルの対円での為替変動の影響を受けません。

各ファンドは、それぞれ4,000億円を上限に信託金を追加することができます。なお、信託金の上  
 限額については、受託会社と合意のうえ、変更することができます。

一般社団法人投資信託協会が定める分類方法において、以下のように分類・区分されます。

< 商品分類 >

・ 商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉となる資産)
単位型  追加型	国内 海外 内外	株式 債券 不動産投信 その他資産 ( ) 資産複合

(注) 各ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

・ 商品分類定義

追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
海外	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
債券	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

## &lt; 属性区分 &gt;

## ・ 属性区分表

[米国ハイイールド債券ファンド 円コース]

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリーファンド
	年2回	日本 北米	ファンド・オブ・ファンズ
債券 一般	年4回	欧州	為替ヘッジ <sup>2</sup>
公債	年6回 (隔月)	アジア	
社債		オセアニア	
その他債券		中南米	あり <sup>3</sup>
クレジット属性 ( )	年12回 (毎月)	アフリカ	(フルヘッジ)
不動産投信	日々	中近東 (中東)	なし
その他資産 (投資信託証券) <sup>1</sup>	その他 ( )	エマージング	
資産複合 ( )			
資産配分固定型			
資産配分変更型			

1 投資信託証券への投資を通じて実質的な投資対象とする主たる資産は、「債券・社債・クレジット属性(低格付債)」です。

2 「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

3 投資信託証券への投資を通じて実質的に保有する外貨建資産については、投資対象とする投資信託において原則として対円での為替ヘッジを行います。

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

[米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース]

[米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース]

[米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース]

[米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース]

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリーファンド
	年2回	日本	ファンド・オブ・ファンズ
	年4回	北米	
債券 一般	年6回 (隔月)	欧州	為替ヘッジ <sup>2</sup>
公債	年12回 (毎月)	アジア	あり ( )
社債		オセアニア	
その他債券		中南米	
クレジット属性 ( )		アフリカ	なし <sup>3</sup>
不動産投信	日々	中近東 (中東)	
その他資産 (投資信託証券) <sup>1</sup>	その他 ( )	エマージング	
資産複合 ( )			
資産配分固定型			
資産配分変更型			

1 投資信託証券への投資を通じて実質的な投資対象とする主たる資産は、「債券・社債・クレジット属性(低格付債)」です。

2 「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

3 投資信託証券への投資を通じて実質的に保有する外貨建資産については、投資対象とする投資信託において対円での為替ヘッジは行いません。

(注) 各ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

## ・属性区分定義

その他資産 (投資信託証券)	目論見書又は投資信託約款において、主として「株式」、「債券」及び「不動産投信」以外の資産に投資する旨の記載があるものをいい、括弧内の記載はその該当資産を表す。
債券・社債	目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。 各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、債券に投資を行います。
クレジット属性 (低格付債)	目論見書又は投資信託約款において、一般、公債、社債、その他債券の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものをいう。 低格付債とは、投資対象とする債券の格付けについてBB格相当以下を基準とするものをいい、委託会社独自の基準によるものです。なお、ハイイールド債と称する場合があります。
年12回(毎月)	目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
北米	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファンド・オブ・ファンズ	「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。
為替ヘッジあり	目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
為替ヘッジなし	目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

(注1) 商品分類および属性区分は、委託会社が目論見書または約款の記載内容等に基づいて分類しています。

(注2) 各ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

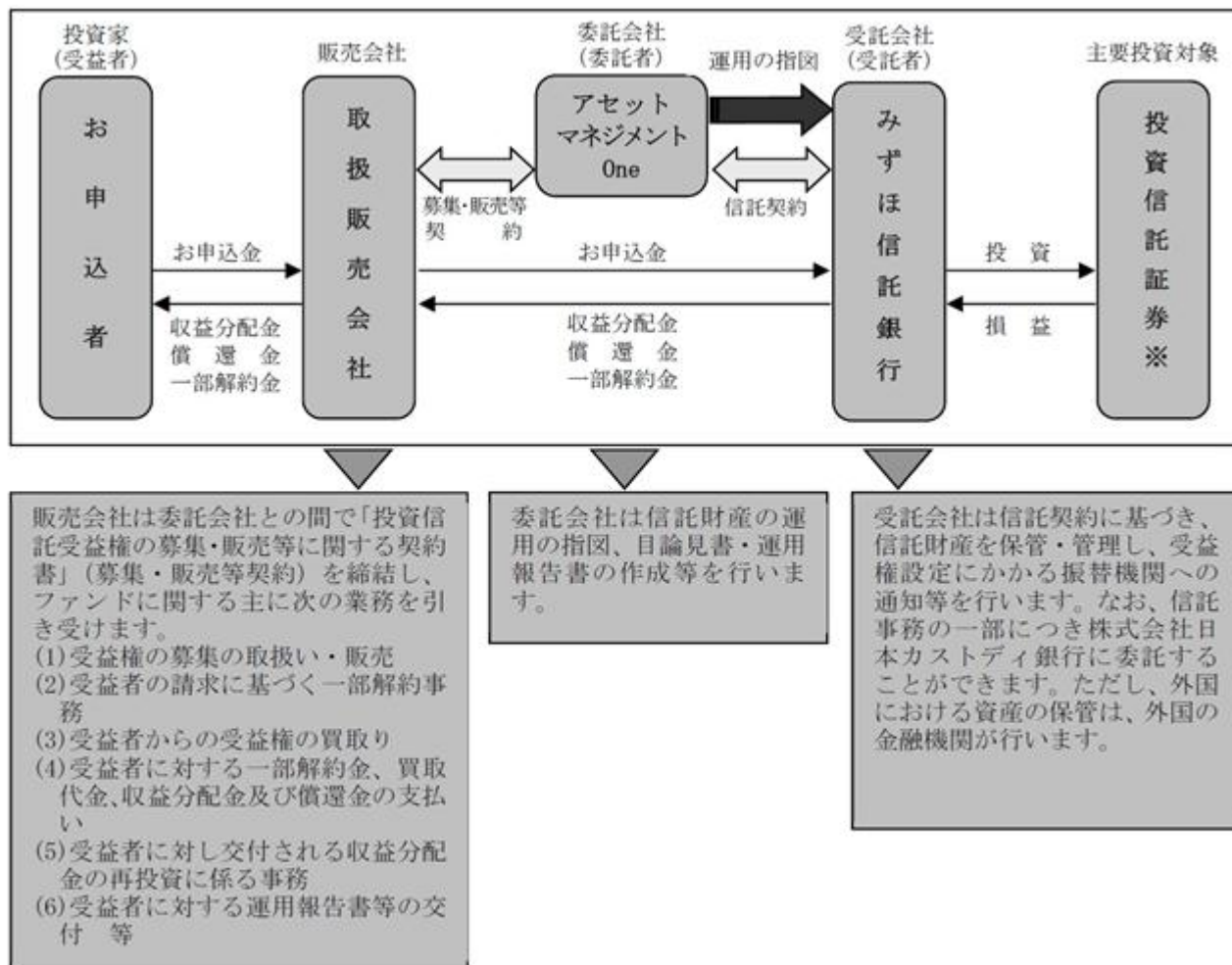
(注3) 各ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式により投資信託証券への投資を通じて、債券を主要投資対象とします。したがって、「商品分類」における投資対象資産と、「属性区分」における投資対象資産の分類・区分は異なります。

## (2) 【ファンドの沿革】

2009年10月30日	信託契約締結、各ファンドの設定・運用開始
2011年7月12日	信託終了日を変更し、各ファンドの信託期間を5年間延長
2016年10月1日	ファンドの委託会社としての業務をみずほ投信投資顧問株式会社からアセットマネジメントOne株式会社に承継
2019年1月12日	信託終了日を変更し、各ファンドの信託期間を5年間延長

## (3) 【ファンドの仕組み】

## 各ファンドの運営の仕組み



各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的な投資対象へ投資を行うファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

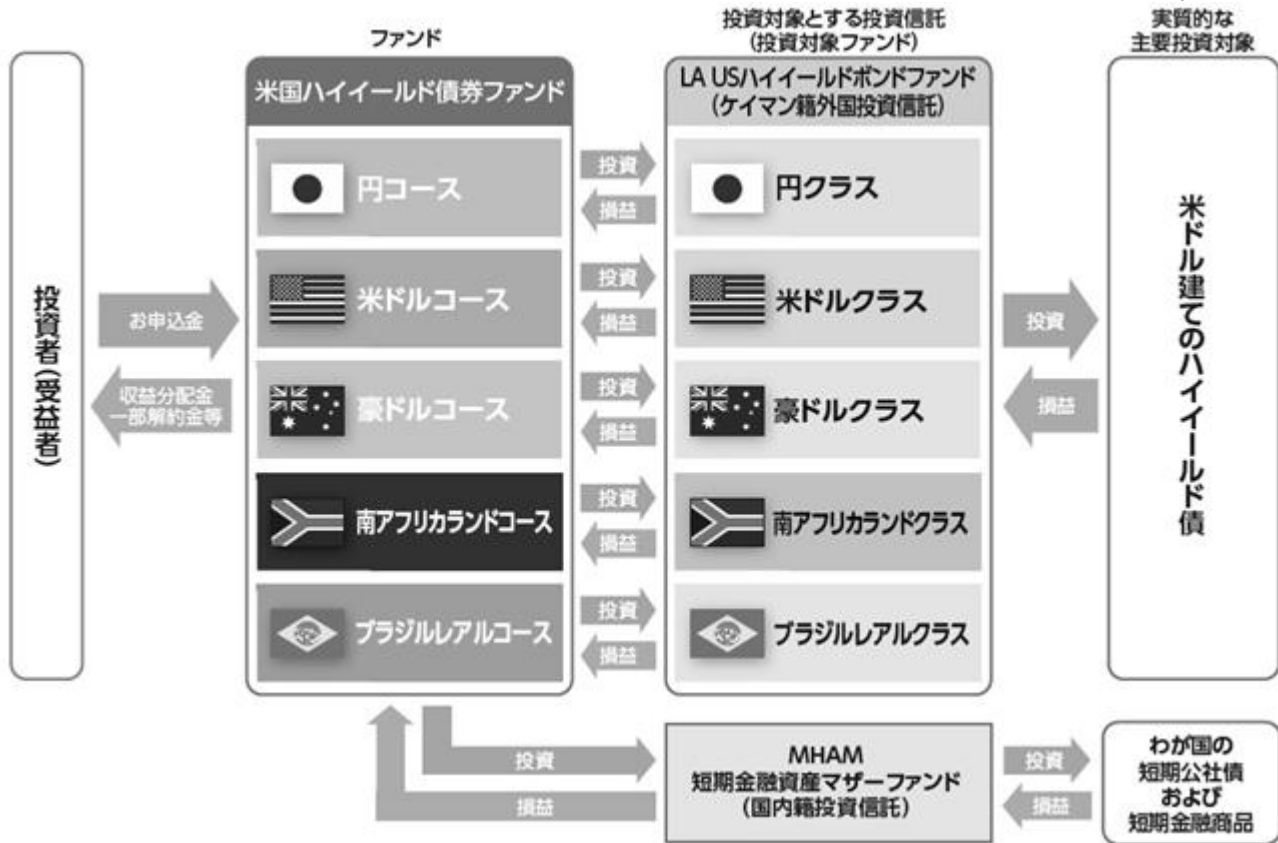
## ファンド・オブ・ファンズ方式について

ファンド・オブ・ファンズとは、各ファンドが直接株式や債券などの資産に投資するのではなく、株式や債券などに投資を行っている投資信託（ファンド）に投資することにより運用を行う仕組みです。

各ファンドは、「L A U Sハイイールドボンドファンド（各クラス）」および「MHAM短期金融資産マザーファンド」を通じて主要投資対象となる資産への投資を行います。なお「L A U Sハイイールドボンドファンド」を以下「外国投資信託」、「L A U Sハイイールドボンドファンド（各クラス）」の受益証券を「外国投資信託証券」または「外国投資信託受益証券」ということがあります。

各クラスの受益証券は円建てです。





各ファンドは、上記の投資対象ファンドの受益証券に主として投資を行いますが、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。

各ファンドが投資対象とする投資信託（投資対象ファンド）およびその主要投資対象は以下のとおりです。

ファンド名	投資対象とする投資信託	主要投資対象
米国ハイイールド債券ファンド 円コース	LA USハイイールドボンドファンド (円クラス)	米ドル建てのハイイールド債
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品
米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース	LA USハイイールドボンドファンド (米ドルクラス)	米ドル建てのハイイールド債
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品
米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース	LA USハイイールドボンドファンド (豪ドルクラス)	米ドル建てのハイイールド債
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品
米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース	LA USハイイールドボンドファンド (南アフリカランドクラス)	米ドル建てのハイイールド債
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品
米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース	LA USハイイールドボンドファンド (ブラジルリアルクラス)	米ドル建てのハイイールド債
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品

## 委託会社の概況

名称：アセットマネジメントOne株式会社

本店の所在の場所：東京都千代田区丸の内一丁目8番2号

## 資本金の額

20億円（2020年10月30日現在）

## 委託会社の沿革

1985年7月1日	会社設立
1998年3月31日	「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得
1998年12月1日	証券投資信託法の改正に伴う証券投資信託委託業のみなし認可
1999年10月1日	第一ライフ投信投資顧問株式会社を存続会社として興銀エヌダブリュ・アセットマネジメント株式会社および日本興業投信株式会社と合併し、社名を興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社とする。
2008年1月1日	「興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社」から「DIAMアセットマネジメント株式会社」に商号変更
2016年10月1日	DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社（資産運用部門）が統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更

## 大株主の状況

(2020年10月30日現在)

株主名	住所	所有株数	所有比率
株式会社みずほフィナンシャルグループ	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	28,000株 <sup>1</sup>	70.0% <sub>2</sub>
第一生命ホールディングス株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	12,000株	30.0% <sub>2</sub>

1：A種種類株式（15,510株）を含みます。

2：普通株式のみの場合の所有比率は、株式会社みずほフィナンシャルグループ51.0%、第一生命ホールディングス株式会社49.0%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 基本方針

安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

#### 運用方法

[米国ハイイールド債券ファンド 円コース]

##### 1. 主要投資対象

主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(円クラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。

##### 2. 投資態度

- a. 主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(円クラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。
- b. 各投資信託証券への投資にあたっては、通常の状態においては、L A U Sハイイールドボンドファンド(円クラス)受益証券への投資を中心に行いますが、各投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにこの投資信託の資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
- c. 投資信託証券の合計組入比率は、高位を維持することを基本とします。
- d. 市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用が行われないことがあります。
  - ・L A U Sハイイールドボンドファンド(円クラス)は、保有資産に対し、原則として対円で為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い)を行います。そのため、円コースの基準価額は、米ドルの対円で為替変動の影響が低減されることが見込まれます。

運用目標など詳しくは後述の「(参考)投資対象ファンドについて」をご参照ください。(以下同じ。)

[米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース]

##### 1. 主要投資対象

主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。

##### 2. 投資態度

- a. 主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。
- b. 各投資信託証券への投資にあたっては、通常の状態においては、L A U Sハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)受益証券への投資を中心に行いますが、各投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにこの投資信託の資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
- c. 投資信託証券の合計組入比率は、高位を維持することを基本とします。

- d. 市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用が行われないことがあります。
- ・ L A U Sハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)は、保有資産に対し、原則として為替取引(為替管理)は行いません。そのため、米ドルコースの基準価額は、米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。

#### [米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース]

##### 1. 主要投資対象

主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。

##### 2. 投資態度

- a. 主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。
- b. 各投資信託証券への投資にあたっては、通常の状態においては、L A U Sハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)受益証券への投資を中心に行いますが、各投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにこの投資信託の資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
- c. 投資信託証券の合計組入比率は、高位を維持することを基本とします。
- d. 市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用が行われないことがあります。
- ・ L A U Sハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)は、保有資産に対し、原則として対豪ドルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い)を行います。そのため、豪ドルコースの基準価額は、豪ドルの対円での為替変動の影響を受けます。

#### [米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース]

##### 1. 主要投資対象

主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。

##### 2. 投資態度

- a. 主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。
- b. 各投資信託証券への投資にあたっては、通常の状態においては、L A U Sハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)受益証券への投資を中心に行いますが、各投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにこの投資信託の資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
- c. 投資信託証券の合計組入比率は、高位を維持することを基本とします。

- d. 市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用が行われないことがあります。
- ・ L A U Sハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)は、保有資産に対し、原則として対南アフリカランドでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い)を行います。そのため、南アフリカランドコースの基準価額は、南アフリカランドの対円での為替変動の影響を受けます。

#### [米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース]

##### 1. 主要投資対象

主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。

##### 2. 投資態度

- a. 主として、L A U Sハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)受益証券およびM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券に投資を行います。
- b. 各投資信託証券への投資にあたっては、通常の状態においては、L A U Sハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)受益証券への投資を中心にいきますが、各投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにこの投資信託の資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
- c. 投資信託証券の合計組入比率は、高位を維持することを基本とします。
- d. 市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用が行われないことがあります。
- ・ L A U Sハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)は、保有資産に対し、原則として対ブラジルリアルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い)を行います。そのため、ブラジルリアルコースの基準価額は、ブラジルリアルの対円での為替変動の影響を受けます。

#### ファンドの投資プロセス

各ファンドの信託財産の運用管理については、委託会社が、投資信託証券の合計組入比率を高位に保つことを基本としつつ、原則として外国投資信託の各受益証券を中心に投資を行うとともに、各ファンドの信託財産の資金動向等を勘案しながらM H A M短期金融資産マザーファンド受益証券への投資比率を決定します。

## (参考)投資対象ファンドについて

## 1. LA USハイイールドボンドファンド

ファンド名 (クラス)	LA USハイイールドボンドファンド(円クラス) LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス) LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス) LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス) LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)
形態	ケイマン籍外国投資信託/オープン・エンド型
信託期間	2159年12月31日まで
運用目標	<p>[ LA USハイイールドボンドファンド(円クラス) ] 主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行い、高いインカムゲインの確保とキャピタルゲインを追求するとともに、保有資産に対して対円での為替取引を行うことで保有資産の通貨(主として米ドル)と円の短期金利差の獲得を目指します。</p> <p>[ LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス) ] 主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行い、高いインカムゲインの確保とキャピタルゲインを追求することを旨とします。なお、保有資産に対する為替取引(為替管理)は行いません。</p> <p>[ LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス) ] 主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行い、高いインカムゲインの確保とキャピタルゲインを追求するとともに、保有資産に対して対豪ドルでの為替取引を行うことで保有資産の通貨(主として米ドル)と豪ドルの短期金利差の獲得を目指します。</p> <p>[ LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス) ] 主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行い、高いインカムゲインの確保とキャピタルゲインを追求するとともに、保有資産に対して対南アフリカランドでの為替取引を行うことで保有資産の通貨(主として米ドル)と南アフリカランドの短期金利差の獲得を目指します。</p> <p>[ LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス) ] 主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行い、高いインカムゲインの確保とキャピタルゲインを追求するとともに、保有資産に対して対ブラジルリアルでの為替取引を行うことで保有資産の通貨(主として米ドル)とブラジルリアルの短期金利差の獲得を目指します。</p>
投資対象	<p>主として米ドル建てのハイイールド債を主要投資対象とします。</p> <p>また、外国為替予約取引、為替先渡取引、直物為替先渡取引(NDF)等を活用します。(米ドルクラスを除きます。)</p>

投資態度	<p>主として米ドル建てのハイイールド債に分散投資を行います。</p> <p>投資するハイイールド債については、主としてBB+格(S&amp;Pグローバル・レーティング)以下またはBa1格(ムーディーズ・インベスターズ・サービス)以下の格付けが付与されている債券に投資を行います。</p> <p>CCC+格(S&amp;Pグローバル・レーティング)以下またはCa a1格(ムーディーズ・インベスターズ・サービス)以下の格付けが付与されている債券への投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の35%以内とします。</p> <p>一部格付けをもたない債券に投資する場合があります。なお、その投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の10%以内とします。</p> <p>格付けについては、S&amp;Pグローバル・レーティングまたはムーディーズ・インベスターズ・サービスの格付けを基準とし、同一銘柄で格付けが異なる場合はどちらか低い方の格付けを採用します。</p> <p>銘柄選定にあたっては、個別銘柄の徹底した信用リスク分析と銘柄分散を基本に行います。</p> <p>投資対象には米国以外の企業等が発行する債券等が含まれます。なお、債務証券、転換社債、優先証券などへ投資を行う場合があります。</p> <p>各外国投資信託(クラス)ごとに、保有資産に対し、原則として以下の為替管理を行います。</p> <p>各外国投資信託(クラス)の為替管理(為替取引の手法)について</p> <table border="1" data-bbox="331 680 1378 1155"> <tr> <td data-bbox="331 680 786 779">LA USハイイールドボンドファンド(円クラス)</td> <td data-bbox="786 680 1378 779">保有資産に対し、対円での為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い)を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 779 786 846">LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)</td> <td data-bbox="786 779 1378 846">保有資産に対し、為替取引(為替管理)を行いません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 846 786 945">LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)</td> <td data-bbox="786 846 1378 945">保有資産に対し、対豪ドルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い)を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 945 786 1043">LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)</td> <td data-bbox="786 945 1378 1043">保有資産に対し、対南アフリカランドでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い)を行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 1043 786 1155">LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)</td> <td data-bbox="786 1043 1378 1155">保有資産に対し、対ブラジルリアルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い)を行います。</td> </tr> </table> <p>市況動向や外国投資信託の資金事情等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>	LA USハイイールドボンドファンド(円クラス)	保有資産に対し、対円での為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い)を行います。	LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)	保有資産に対し、為替取引(為替管理)を行いません。	LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)	保有資産に対し、対豪ドルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い)を行います。	LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)	保有資産に対し、対南アフリカランドでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い)を行います。	LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)	保有資産に対し、対ブラジルリアルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い)を行います。
LA USハイイールドボンドファンド(円クラス)	保有資産に対し、対円での為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い)を行います。										
LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)	保有資産に対し、為替取引(為替管理)を行いません。										
LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)	保有資産に対し、対豪ドルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い)を行います。										
LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)	保有資産に対し、対南アフリカランドでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い)を行います。										
LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)	保有資産に対し、対ブラジルリアルでの為替取引(保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い)を行います。										
決算日	年1回(12月31日)										
収益分配	毎月、原則として経費控除後の利子収益および売買益(評価益を含みます。)より分配を行う予定です。ただし、分配水準を維持するために必要と認められる場合は、分配原資をこれに限定しませ										
主な投資制限	<p>有価証券の空売りは行いません。</p> <p>純資産総額の10%を超える資金借入を行うことはできません。(ただし、合併等により、一時的に10%を超える場合を除きます。)</p> <p>株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権の行使により取得したものならびに社債権者割当等により取得したものに限り行うことができるものとし、その投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>流動性の乏しい資産へ投資する場合は、価格の透明性を確保する方法が取られているものとし、その投資割合は純資産総額の15%以下とします。</p> <p>デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定しません。</p>										
費用等	<p>信託報酬(運用報酬等): 信託財産の純資産総額に対し年率0.695%程度</p> <p>その他費用等: 信託財産に関する租税、組入有価証券売買の際に発生する売買手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、借入金の利息および立替金の利息、法律関係の費用およびファンド組成に係る費用 等</p> <p>信託報酬(運用報酬等)には、年次による最低報酬等が設定されているものがあります。</p>										
申込手数料	ありません。										
換金時手数料	ありません。										
信託財産留保額	ありません。										
受託会社	CIBCバンク・アンド・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド										

運用会社	ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー
為替管理会社	ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー
事務管理会社 保管会社	ミズホ・バンク(USA)

LAUSハイイールドボンドファンドにおける米国ハイイールド債への投資等は米国の運用会社である“ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー”(Lord, Abnett & Co. LLC)(以下「ロード・アベット社」といいます。)が担当し、為替取引を含む為替の管理は“ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー”(State Street Bank and Trust Company)(以下「ステート・ストリート社」といいます。)が担当します。なお、MHAM短期金融資産マザーファンドの運用はアセットマネジメントOneが担当します。

(LAUSハイイールドボンドファンドの投資顧問会社の概要)

<ロード・アベット社(Lord, Abnett & Co. LLC)>

ロード・アベット社は、米国の独立系資産運用会社で、株式から債券まで多様な投資信託を提供しています。運用資産は2,101億米ドル(2020年9月末現在)にのびります。



## &lt; ステート・ストリート社（State Street Bank and Trust Company） &gt;

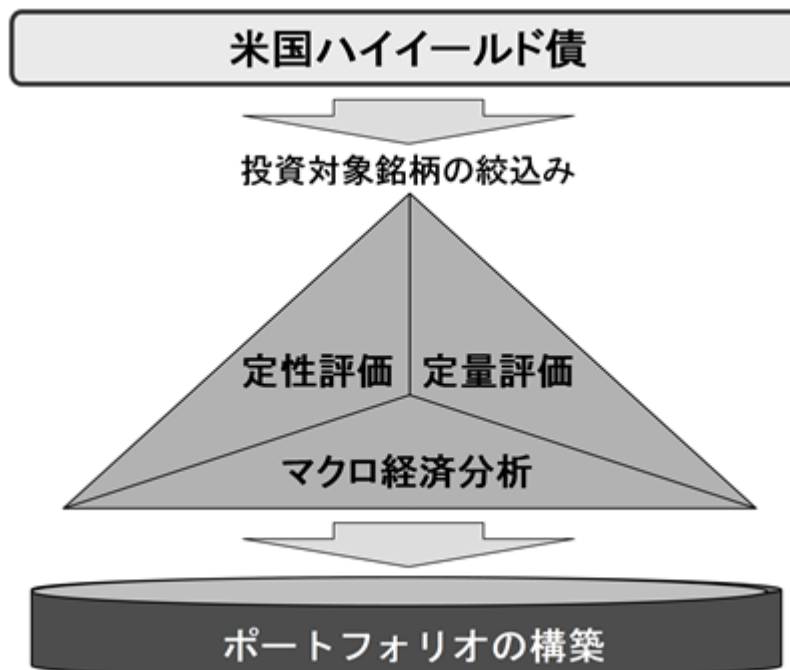
ステート・ストリート社は、米国を本拠とし、機関投資家向けに様々な金融サービスを提供する世界を代表する金融機関です。総管理資産は、36.6兆米ドル（2020年9月末現在）にのびります。

## &lt; 各外国投資信託の投資プロセス &gt;

ハイイールド債への投資にあたっては、ロード・アベット社が企業訪問で得た情報や決算情報等をもとに相対的に良質な資産と優良な経営陣を持つ企業に重点を置き、個別企業に対する徹底した定性・定量分析を行います。加えて、マクロ経済分析等を投資判断に加味することで相対的に魅力的な銘柄を選び出し、ポートフォリオを構築します。

## ・ 各分析における着眼点

定性評価	経営陣の質 / 競争優位性
定量評価	資産 キャッシュフロー 業績
マクロ経済分析	資本市場・信用リスク環境 企業業績 金融当局の政策スタンス



市況動向やファンドの資金事情等によっては高格付債等を組入れることもあります。また、各分析における着眼点の項目については変更される可能性があります。

各外国投資信託の為替管理については、ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーが各外国投資信託の取得申込みおよび一部解約動向、保有資産の価格変動に合わせて為替取引の対応・管理を行います。

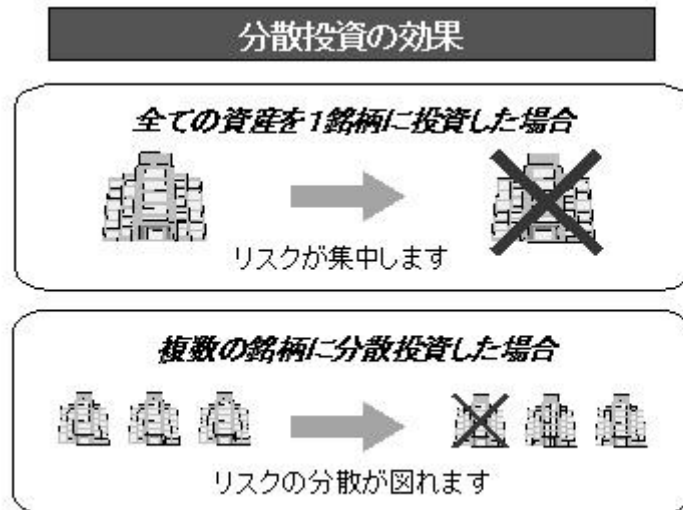
## <ロード・アベットのリスク管理方法>

各外国投資信託は、高格付債と比べて信用リスクの高いハイイールド債を主要投資対象としていますが、以下の手法でその信用リスクの管理を行います。

### 1.分散投資

1 銘柄の債券に集中して投資すると、デフォルトが発生した場合、投資した資金は、大きく毀損してしまいます。

一方で、複数の銘柄に分散投資すれば、1 銘柄がデフォルトを起こした場合の損失は、1 銘柄の債券に投資した場合に比べ、限定的となります。



### 2.銘柄選択

同等の信用リスクを有すると市場において判断されている銘柄であっても、発行体の保有資産や経営陣の質が相対的に高い銘柄に投資した場合の信用リスクは、それらが相対的に低い銘柄に投資した場合と比べ、限定的となります。

ロード・アベット社は、綿密な企業調査に基づき、相対的に良質な資産と優良な経営陣を持ち、より安定性の高いと判断される銘柄を抽出することで、信用リスク等をコントロールすることを目指します。

### 3.モニタリング

債券の発行体の保有資産や経営陣の質等の、信用リスクに影響を与える要素は常に変化しているため、債券の価格もその変化を反映し、大きく変動する場合があります。

ロード・アベット社では、保有銘柄の信用リスク状況を常時モニタリングするとともに、信用リスクが増加したと判断された銘柄に対する重点的調査・分析等を実施することで、信用リスクをコントロールすることを目指します。

## 2. MHAM短期金融資産マザーファンド

ファンド名	MHAM短期金融資産マザーファンド
形態	親投資信託
信託期間	無期限
投資対象	わが国の短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用目標	わが国の短期公社債および短期金融商品を中心に投資を行い、わが国の無担保コール翌日物金利を指数化した収益率を上回る運用成果を目指します。
決算日	年1回（6月30日（休業日の場合は翌営業日））
収益分配	収益分配は行いません。
主な投資制限	外貨建資産への投資は行いません。 株式への投資は行いません。
設定日	2000年7月28日
信託報酬	ありません。
その他費用等	信託財産に関する租税 / 組入有価証券の売買時の売買委託手数料 / 信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息 等
申込手数料	ありません。
換金時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
委託会社	アセットマネジメントOne株式会社
受託会社	みずほ信託銀行株式会社

## (2) 【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

各ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - a. 有価証券
  - b. 金銭債権
  - c. 約束手形（a.に該当するものを除きます。）
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
  - a. 為替手形

有価証券の指図範囲

（以下の（ ）については下記の表より、各ファンドの名称の「米国ハイイールド債券ファンド \*コース」の「\*」に対応し、ファンドごとにそれぞれあてはめてご覧ください。）

各ファンドにおいて、委託会社は、信託金を、円建ての外国投資信託であるL A U Sハイイールドボンドファンド（ ）の受益証券およびアセットマネジメントOne株式会社を委託会社とし、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結された親投資信託であるMHAM短期金融資産マザーファンドの受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除き、かつ本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1.の証券の性質を有するもの
3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人が発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）

4. 外国法人が発行する譲渡性預金証書

5. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

なお、L A U Sハイイールドボンドファンド( )の受益証券およびMHAM短期金融資産マザーファンドの受益証券を以下「投資信託証券」といい、3.の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は買い現先取引(売戻し条件付きの買い入れ)および債券貸借取引(現金担保付き債券借入れ)に限り行うことができるものとします。

ファンド (*コース)	円コース	米ドルコース	豪ドルコース	南アフリカ ランドコース	ブラジルレ アルコース
にあてはめる 語句	円クラス	米ドルクラス	豪ドルクラス	南アフリカ ランドクラス	ブラジルレ アルクラス

金融商品の指図範囲

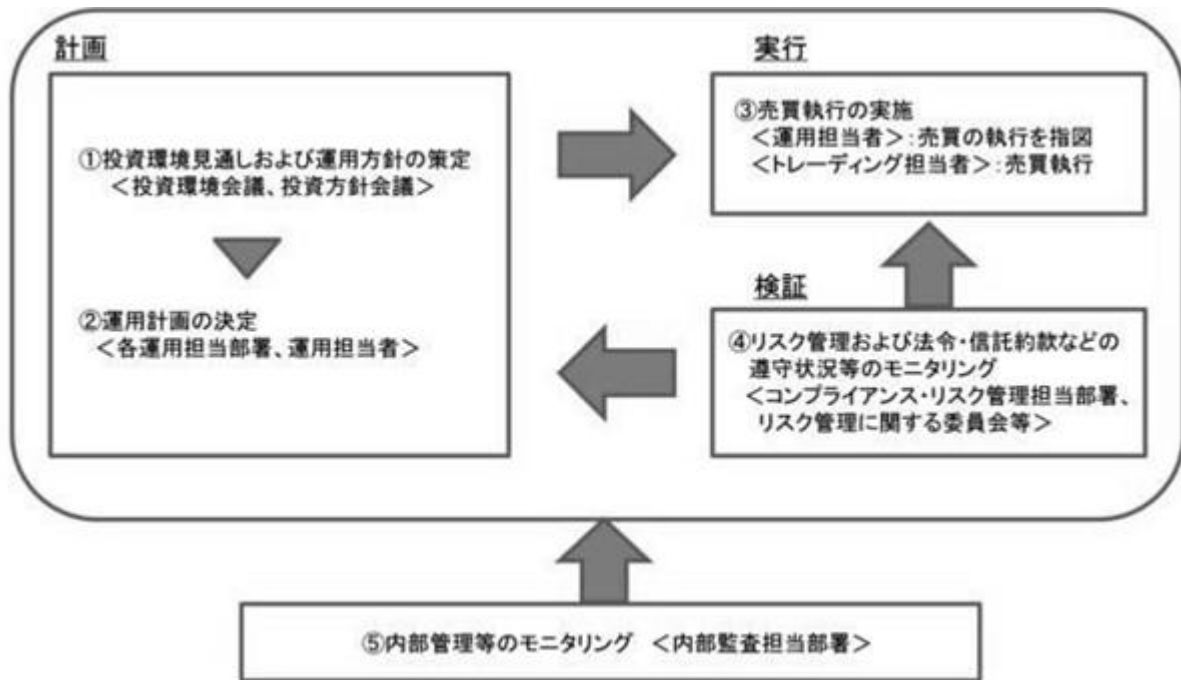
委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

各ファンドが投資対象とする投資信託(投資対象ファンド)の内容は、前記「(1)投資方針(参考)投資対象ファンドについて」をご参照ください。

## (3) 【運用体制】

## a. ファンドの運用体制



## 投資環境見通しおよび運用方針の策定

経済環境見通し、資産別市場見通し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

## 運用計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

## 売買執行の実施

運用担当者は、売買計画に基づいて売買の執行を指図します。トレーディング担当者は、最良執行をめざして売買の執行を行います。

## モニタリング

運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署（60～70人程度）は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施し、必要に応じて対応を指示します。

定期的で開催されるリスク管理に関する委員会等において運用リスク管理状況、運用実績、法令・信託約款などの遵守状況等について検証・報告を行います。

## 内部管理等のモニタリング

内部監査担当部署（10～20人程度）が運用、管理等に関する業務執行の適正性・妥当性・効率性等の観点からモニタリングを実施します。

b. ファンドの関係法人に関する管理

ファンドの関係法人である受託会社に対して、その業務に関する委託会社の管理担当部署は、内部統制に関する外部監査人による報告書等の定期的な提出を求め、必要に応じて具体的な事項に関するヒアリングを行う等の方法により、適切な業務執行体制にあることを確認します。

c. 運用体制に関する社内規則

運用体制に関する社内規則として運用管理規程および職務責任権限規程等を設けており、運用担当者の任務と権限の範囲を明示するほか、各投資対象の取り扱いに関して基準を設け、ファンドの商品性に則った適切な運用の実現を図ります。

また、売買執行、投資信託財産管理および法令遵守チェック等に関する各々の規程・内規を定めています。

運用体制は2020年10月30日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

収益分配方針

第3期以降の毎計算期末(原則として毎月12日。ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

1. 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みません。)等の全額とします。
2. 分配金額は、原則として安定した収益分配を継続的に行うことを目指し、配当等収益の水準、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
3. 収益分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

「原則として、安定した収益分配を継続的に行うことを目指す」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

収益分配金の支払い

1. 収益分配金は、原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日までに販売会社において支払いが開始されます。
2. 収益分配金の再投資に関する契約に基づいて収益分配金を再投資することにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に対し、お支払いします。

## 収益分配金に関する留意事項

◆投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



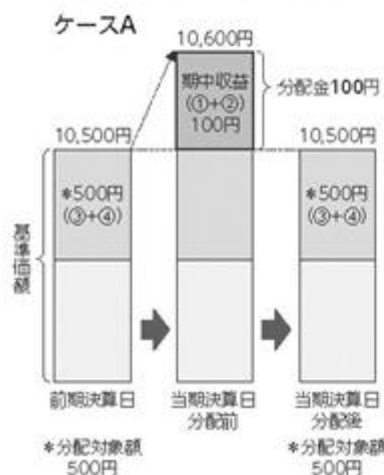
◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

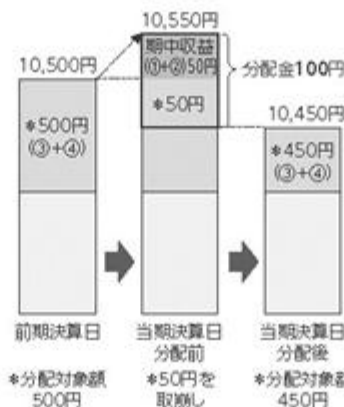
①配当等収益（経費控除後）、②有価証券売買益・評価益（経費控除後）、③分配準備積立金、④収益調整金

#### 計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

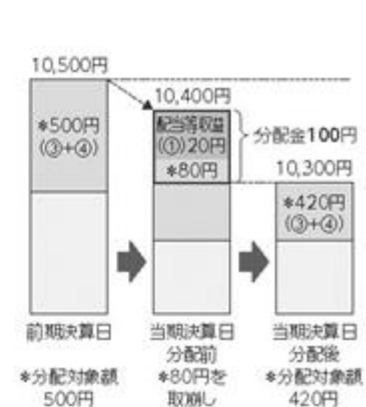


#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

ケースB  
<前期決算日から基準価額が上昇した場合>



ケースC  
<前期決算日から基準価額が下落した場合>



上記のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

ケースA：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円=100円  
 ケースB：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円=50円  
 ケースC：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円=▲100円

★A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。  
 ※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

◆投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は、非課税扱いとなります。

#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(5) 【投資制限】

a. 約款で定める投資制限

投資信託証券(約款 運用の基本方針 運用方法 (3)投資制限)

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。また、同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産(約款 運用の基本方針 運用方法(3)投資制限)

外貨建資産への直接投資は行いません。

株式(約款 運用の基本方針 運用方法(3)投資制限)

株式への直接投資は行いません。

公社債(約款第17条)

買い現先取引(売戻し条件付きの買い入れ)および債券貸借取引(現金担保付き債券借入れ)に限り行うことができるものとします。

信用リスク集中回避のための投資制限(約款第19条の1の2)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

デリバティブ取引等(約款第19条の2)

委託会社は、デリバティブ取引等(この信託財産に属する投資信託証券に係る投資信託において取引されるデリバティブ取引等(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引、選択権付債券売買および商品投資等取引(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条第10号に規定するものをいう。))を含みます。以下同じ。))について、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的方法により算出した額が信託財産の純資産総額を原則として超えることとならないよう管理します。

公社債の借入れ(約款第20条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
2. 前記1.の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、前記2.の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
4. 前記1.の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。



#### 資金の借入れ(約款第26条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金等および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を上回らない範囲内とします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

### 3【投資リスク】

#### (1) 各ファンドにおける主として想定されるリスクと収益性に与える影響度合い

- ・各ファンドは、主として投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券等（実質的に投資する外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、元本や一定の投資成果が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。
- ・運用により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者の皆様に帰属します。
- ・投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ・投資信託は預貯金とは異なります。
- ・各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

各ファンドにおいて主として想定されるリスクは以下の通りですが、基準価額の変動要因はこれらに限定されるものではありません。

#### 信用リスク

投資する有価証券の発行者の財政難・経営不安・倒産等の発生は、基準価額の下落要因となります。

信用リスクとは、公社債等の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金を予め決められた条件で支払うことができなくなる（債務不履行）リスクをいいます。

一般に債務不履行が生じた場合、またはその可能性が高まった場合には、当該発行体が発行する公社債および短期金融商品（コマーシャル・ペーパー等）の価格に影響を及ぼし、各投資信託証券の価格の変動を通じて各ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

特に、各ファンドが実質的に主要投資対象とするハイイールド債は、信用度が高い高格付けの債券と比較して、相対的に高い利回りを享受することが期待できる一方で、発行体の業績や財務内容等の変化（格付けの格下げ・格上げ）により、債券価格が大きく変動する傾向があり、かつ発行体が債務不履行に陥る可能性も高いと考えられます。各ファンドが実質的に投資を行うハイイールド債等の発行体がこうした状況に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

#### 金利変動リスク

金利の上昇（公社債の価格の下落）は、基準価額の下落要因となります。

金利変動リスクとは、金利変動により公社債の価格が下落するリスクをいいます。

一般に金利が上昇した場合には、既に発行されて流通している公社債の価格は下落します。金利上昇は、各ファンドが実質的に投資する公社債の価格に影響を及ぼし、各投資信託証券の価格の変動を通じて各ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

## 為替変動リスク

為替変動リスクとは、為替変動により外貨建資産の円換算価格が下落するリスクをいいます。各ファンドは、実質的に外貨建資産に投資を行うとともに、各クラスごとに取引対象通貨の買いポジションを有する外国投資信託の受益証券に主として投資を行いますので、為替変動の影響を受けます。なお、為替変動リスクは各ファンドによって以下のとおりです。

### [米国ハイイールド債券ファンド 円コース]

為替取引を行っても、円高による影響を完全には排除できません。

円コースが主要投資対象とする外国投資信託は保有資産に対し、原則として対円での為替取引（保有資産が米ドル建て資産の場合は、米ドル売り、円買い）を行い為替変動リスクの低減を図りますが、外国投資信託において、保有する資産の額と為替取引額を完全に一致させることはできないため、米ドルとの為替相場の変動の影響を受ける場合があります。なお、円の短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、円の短期金利と米ドルの短期金利の金利差相当分の為替取引のコストがかかることにご留意ください。

### [米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース]

為替相場の円高は、基準価額の下落要因となります。

米ドルコースが主要投資対象とする外国投資信託は保有資産に対し、原則として為替取引（為替管理）を行いません。そのため、為替相場が米ドルに対して円高となった場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

### [米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース]

為替相場の円高等は、基準価額の下落要因となります。

豪ドルコースが主要投資対象とする外国投資信託は保有資産に対し、原則として対豪ドルでの為替取引（保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、豪ドル買い）を行いますので、豪ドルの対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が豪ドルに対して円高となった場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、外国投資信託において、保有する資産の額と為替取引額を完全に一致させることはできないため、米ドルとの為替相場の変動の影響を受ける場合があります。なお、豪ドルの短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、豪ドルの短期金利と米ドルの短期金利の金利差相当分の為替取引のコストがかかることにご留意ください。

### [米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース]

為替相場の円高等は、基準価額の下落要因となります。

南アフリカランドコースが主要投資対象とする外国投資信託は保有資産に対し、原則として対南アフリカランドでの為替取引（保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、南アフリカランド買い）を行いますので、南アフリカランドの対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が南アフリカランドに対して円高となった場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、外国投資信託において、保有する資産の額と為替取引額を完全に一致させることはできないため、米ドルとの為替相場の変動の影響を受ける場合があります。なお、南アフリカランドの短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、南アフリカランドの短期金利と米ドルの短期金利の金利差相当分の為替取引のコストがかかることにご留意ください。

## [米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース]

為替相場の円高等は、基準価額の下落要因となります。

ブラジルリアルコースが主要投資対象とする外国投資信託は保有資産に対し、原則として対ブラジルリアルでの為替取引（保有資産が米ドル建て資産の場合は、実質的な米ドル売り、ブラジルリアル買い）を行いますので、ブラジルレアルの対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場がブラジルレアルに対して円高となった場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、外国投資信託において、保有する資産の額と為替取引額を完全に一致させることはできないため、米ドルとの為替相場の変動の影響を受ける場合があります。なお、ブラジルレアルの短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、ブラジルレアルの短期金利と米ドルの短期金利の金利差相当分のが為替取引のコストがかかることにご留意ください。

## 《 為替取引による各ファンドへの影響 》

米ドルコースを除く各ファンドは、主要投資対象とする外国投資信託において行う為替取引により、それぞれ異なる為替変動の影響および為替取引通貨間の短期金利差による影響（為替取引によるプレミアム/コスト）を受けます。

米ドルコースは、米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。

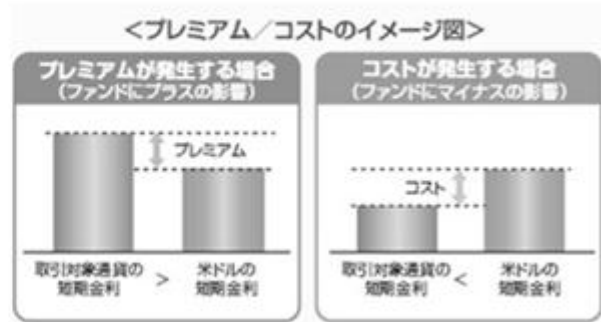
外国投資信託が行う為替取引のイメージ（ブラジルリアルコースの場合）



① 為替取引通貨間の短期金利差による影響を受けます。（為替取引によるプレミアム／コストの発生）

■外国投資信託が行う為替取引によって、為替取引時の取引対象通貨と米ドル間の短期金利差相当分が、プレミアム（収益）／コスト（費用）となり、ファンドに影響を与えます。

※一部の新興国の取引対象通貨では、原則として直物為替先渡取引（NDF）を活用しますが、NDFを用いた場合の為替取引によるプレミアム／コストは、通貨間の短期金利差から想定されるものと大きく異なる場合があります。NDFに関する留意点については、後述の〈その他留意点〉をご参照ください。



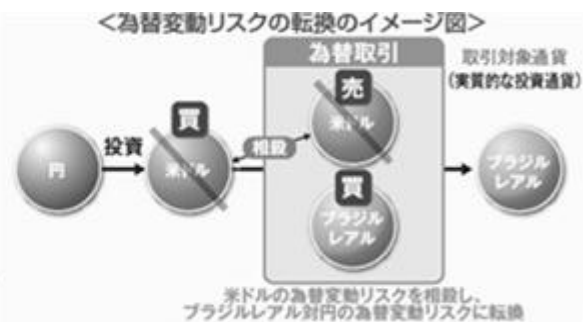
米ドルの金利がプレミアム／コストの基準になるのは、外国投資信託が米ドル建てのハイイールド債を主要投資対象とし、米ドル建て資産について、原則として米ドル売り、取引対象通貨買いの為替取引を行うためです。

取引対象通貨の対円での為替変動の影響を受けます。（円コースを除きます。）

#### ブラジルレアルコースの場合

外国投資信託が行う為替取引によって、為替変動リスクは米ドルから取引対象通貨（ブラジルレアル）に転換されるため、ブラジルレアルの対円での為替変動の影響を受けます。（円コースの場合は、為替変動の影響が低減されることが見込まれます。）

※右記はイメージ図であり、実際の為替取引とは異なる場合があります。



#### カントリーリスク

投資（為替取引を含む）する国・地域の政治・経済の不安定化等は、基準価額の下落要因となります。

カントリーリスクとは、投資先となっている国（地域）の政治・経済・社会・国際関係等が不安定な状態、あるいは混乱した状態等に陥った場合に、当該国における資産価値や当該国通貨の価値が下落するリスクをいいます。

特に、新興国の市場は先進国の市場と比較して、経済、情報開示制度や決済システム等のインフラが未発達で、かつ市場規模も相対的に小さい市場が多く存在します。そのため、急激な金利や為替変動が起きた場合ならびに外国為替取引規制や資本規制などが実施された場合など市場に及ぼす影響は先進国以上に大きいことが予想されます。

各ファンドの実質的な主要投資先となっている米国および為替取引の対象国となっているオーストラリア、南アフリカおよびブラジルがこうした状態に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

## 流動性リスク

投資資産の市場規模が小さいことなどで希望する価格で売買できない場合は、基準価額の下落要因となります。

流動性リスクとは、有価証券を売却（または購入）しようとする際に、需要（または供給）がないため、有価証券を希望する時期に、希望する価格で売却（または購入）することができなくなるリスクをいいます。

一般に規模が小さい市場での売買や、取引量の少ない有価証券の売買にあたっては、流動性リスクへの留意が特に必要とされます。また、一般に市場を取り巻く外部環境の急変があった場合には、市場実勢価格での売買ができなくなる可能性が高まります。

各ファンドが実質的に主要投資対象とするハイイールド債は、一般的に信用度が高い高格付けの債券と比較して、市場規模や取引量が相対的に小さいため、投資環境によっては、機動的な売買ができない可能性があります。各ファンドが実質的に保有するハイイールド債等において流動性が損なわれた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

### <その他留意点>

- ・公社債の貸付等においては、取引相手先の倒産等による決済不履行リスクを伴います。
- ・各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託は、各クラスの資金をまとめて合同運用を行います。当該方式は、運用の効率化に資するものですが、一方で、あるクラスにより多額の追加設定・一部解約等がなされた場合やあるクラスの為替取引の損益状況等によっては、他のクラスの価格や運用が影響を受ける場合があり、そのため各ファンドの基準価額が影響を受ける場合があります。急激な為替や金利変動等があった場合には、ハイイールド債の実質的な組入比率が変動することや、あるクラスが債務超過に陥った場合に他のクラスの価格がその影響を受ける場合があります。したがって、このような事象が起きた際には、各外国投資信託証券の価格の変動を通じて各ファンドの基準価額が影響を受ける場合があります。また、外国投資信託を通じて各国の有価証券等に投資を行う場合、国内籍の投資信託から直接投資を行う場合に比べて、各国での源泉税率が高くなるなど税制が相対的に不利になることがあります。
- ・外国投資信託については、ファンドを管轄する国の法律、規制および税制の変更等により運用に制限が設けられる場合があります。このような場合、外国投資信託の運用成果を通じ、各ファンドの基準価額が影響を受ける可能性があります。
- ・各ファンド（米ドルコースを除きます。）が主要投資対象とする外国投資信託は、ハイイールド債に投資するとともに為替取引を行います。為替取引の結果、各ファンドは、米ドル以外の通貨の為替変動の影響を受けることとなります（対円での為替取引により、為替変動リスクの低減を図る円クラスを除きます。）。そのため、為替相場の変動によっては、為替取引を行わずハイイールド債にのみ投資を行う一般的なファンドに比べて、より大きく価格が変動することがありますので留意ください。
- ・各ファンド（米ドルコースを除きます。）が主要投資対象とする外国投資信託は外国為替予約取引などを活用し、主として米ドルと取引対象通貨間の短期金利差の獲得を目指しますが、外国為替予約取引などの需給関係等により短期金利差を十分に得られない場合や、外国為替予約取引などを行うタイミングにより、得られうる金利差が異なる場合があります。また、為替取引において行う外国為替予約取引などの取引の相手方の破綻などにより契約上の支払いが行われない場合や証拠金の回収ができない場合などには、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

なお、為替取引にあたり一部の新興国の取引対象通貨について、当局の規制などを背景として機動的に外国為替予約取引を行うことができないため、当該通貨については、原則として外国為替予約取引と類似する直物為替先渡取引(NDF)を活用しますが、NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待等により、短期金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、為替取引によるプレミアム/コストが通貨間の短期金利差から想定されるものと大きく異なる場合や、基準価額の値動きが実際の当該対象通貨の為替市場の値動きから想定されるものと大きく乖離する場合があります。

直物為替先渡取引(NDF)とは、ある通貨との間で、当該通貨の受け渡しを行わず、先物レートと期日が到来したときの直物レートの差を、元本に乗じた金額で差金決済するもので、米ドルまたはその他の主要な通貨によって決済する取引のことをいいます。

- ・各ファンドが投資する外国投資信託において行う為替取引による評価益が大きくなった場合には、その結果としてハイイールド債の組入比率が低下する場合があります。また、取引対象通貨における外国為替相場に急激な変化が生じた場合、または予想される場合等には、外国投資信託において信託財産を保全するため、取引対象通貨の買いポジションを縮小またはポジションをすべて解消することがあります。このような場合には、目標とする投資成果が十分に得られないことがあります。
- ・各ファンドの信託終了等(繰上償還する場合を含みます。)に伴い、外国投資信託の信託が終了する場合、外国投資信託は償還費用を確定させるため、各ファンドの償還日より一定期日前の日をもって実質的な運用(ハイイールド債への投資および為替取引)を止めること、および償還することがあります。この場合、各ファンドにおいては、償還日までの期間、ハイイールド債への投資および為替取引による投資成果を享受することができなくなります。
- ・各ファンドは、一部解約の請求金額が多額な場合や取引所等における取引の停止等があるときには、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことがあります。

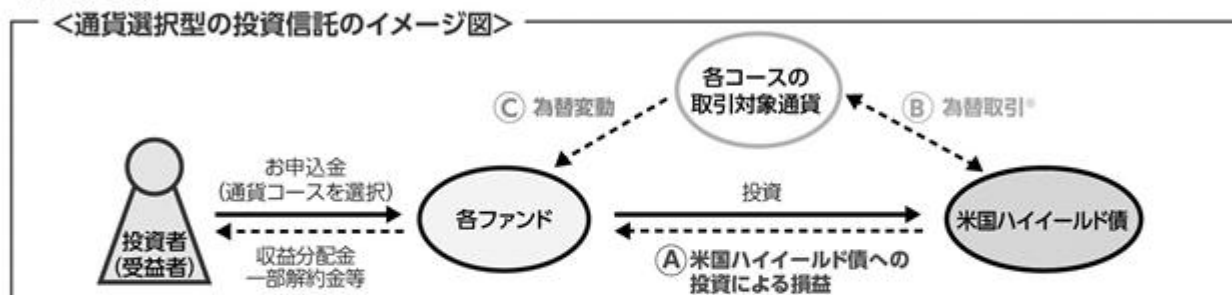
#### <収益分配金に関する留意点>

- ・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
  - ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。
- また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資家(受益者)のファンドの取得価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド取得後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## 【通貨選択型ファンドに関する留意事項】

### 各ファンドの運用のイメージ

- 各ファンドは、有価証券での運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行うもので、投資者が対象となる通貨について選択することができる投資信託です。なお、各ファンドの主要投資対象は、米ドル建てのハイイールド債です。

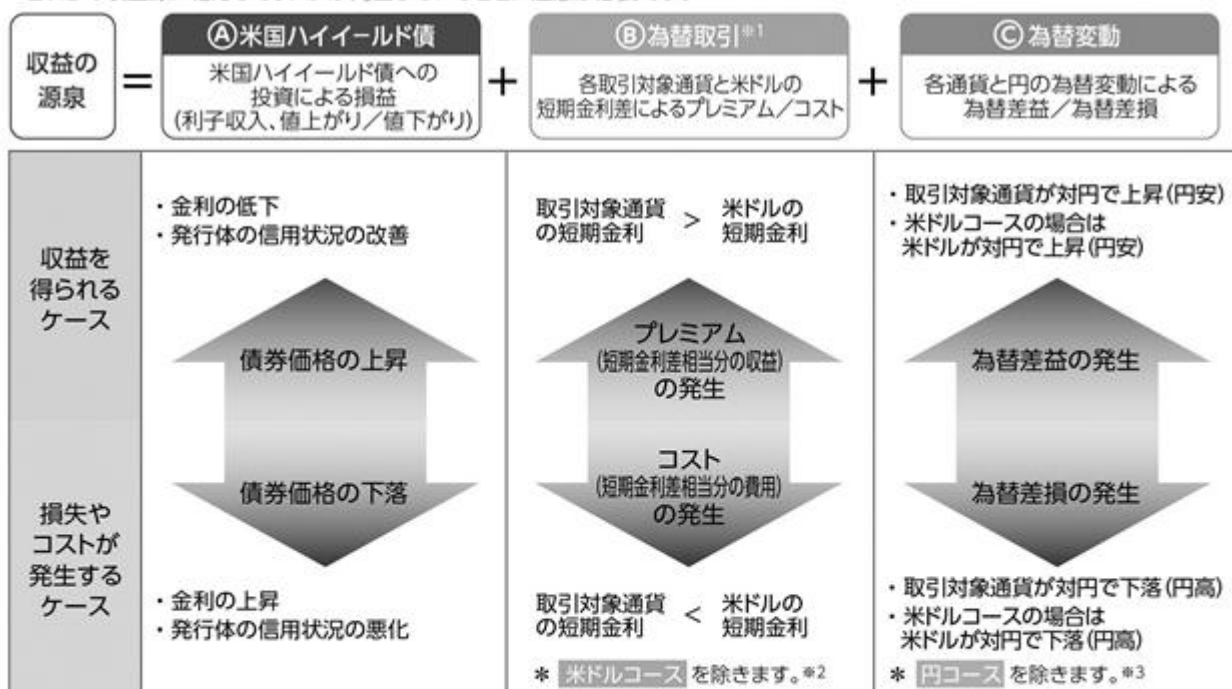


\*上記のイメージ図は、通貨選択型の投資信託の運用の仕組みを分かり易く表したものであり、実際の運用においては、ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。ファンド・オブ・ファンズ方式については、前掲の「運用の仕組み(ファンド・オブ・ファンズ方式)」をご参照ください。

※(B)の為替取引により、当該取引対象通貨の対円での為替変動リスクが発生することに留意が必要です(円コースは、対円での為替取引により、為替変動リスクの低減を図ります。)。また、米ドルコースは、原則として為替取引を行いませんので、米ドルの対円での為替変動リスクがあります。

### 各ファンドの収益源について

- 各ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



※1 為替取引の取引時点における短期金利差による影響を示しています。なお、一部の新興国の取引対象通貨では、当局の規制などを背景として機動的に外国為替予約取引を行うことができないため、原則として直物為替先渡取引(NDF)を活用しますが、NDFを用いた場合の為替取引によるプレミアム/コストは、通貨間の短期金利差から想定されるものと大きく異なる場合があります。

※2 米ドルコースが主要投資対象とする外国投資信託では、原則として為替取引(為替管理)を行いません。

※3 円コースが主要投資対象とする外国投資信託では、原則として対円での為替取引を行い為替変動リスクの低減を図りますが、保有資産額と為替取引額を完全に一致させることはできないため、米ドルとの為替相場の変動の影響を受ける場合があります。

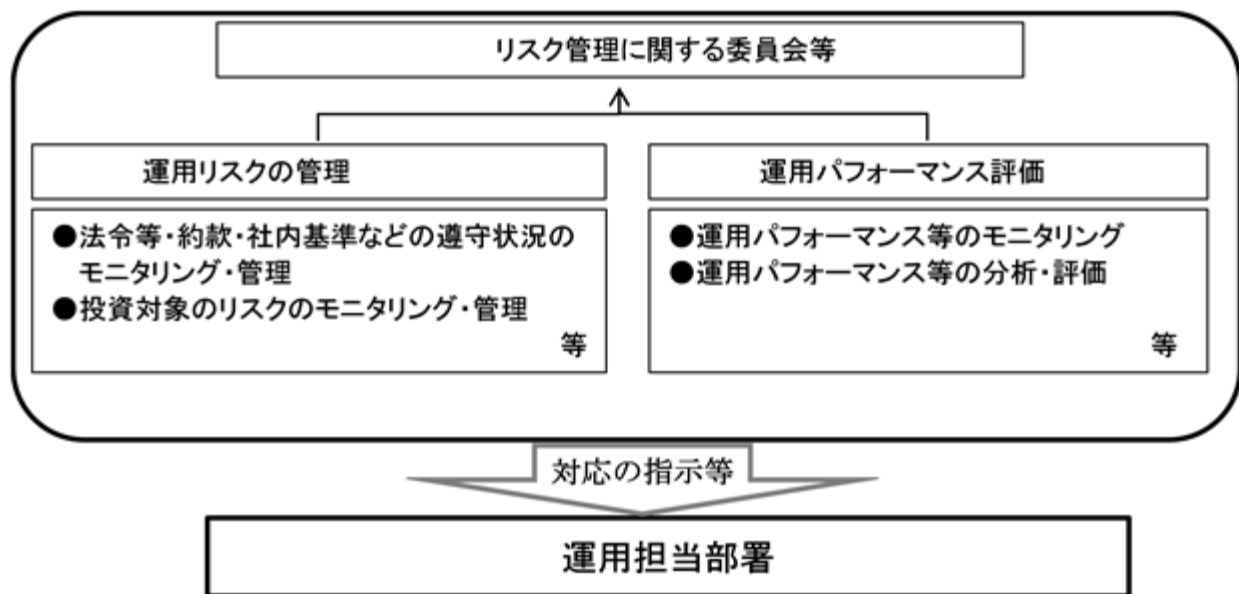
(注)市場動向等によっては、上記の通りにならない場合があります。



## (2) リスク管理体制

委託会社におけるファンドの投資リスクに対する管理体制については、以下のとおりです。

- ・運用リスクの管理：運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。
- ・運用パフォーマンス評価：運用担当部署から独立したリスク管理担当部署が、ファンドの運用パフォーマンスについて定期的に分析を行い、結果の評価を行います。
- ・リスク管理に関する委員会等：上記のとおり運用リスクの管理状況、運用パフォーマンス評価等の報告を受け、リスク管理に関する委員会等は総合的な見地から運用状況全般の管理・評価を行います。



リスク管理体制は2020年10月30日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## <参考情報>

### ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

#### 円 コース



#### 米ドルコース



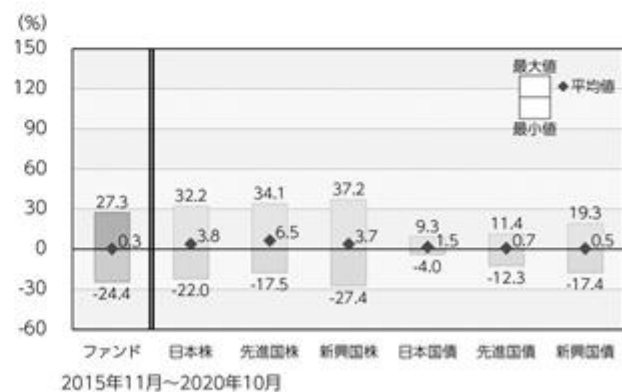
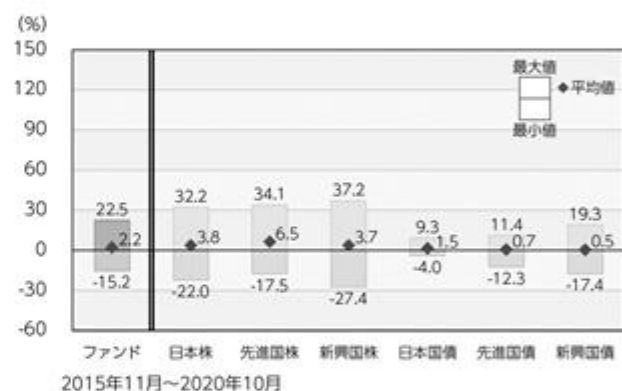
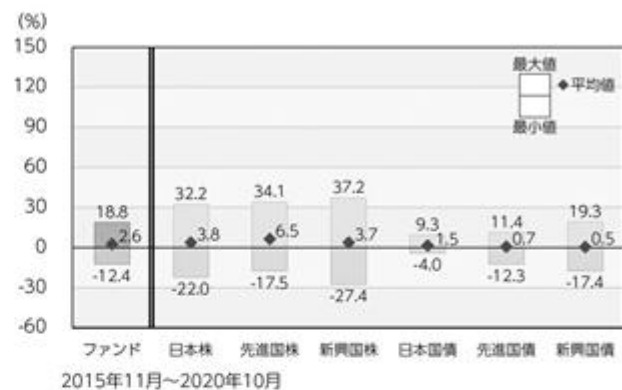
#### 豪ドルコース



\*ファンドの分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

\*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

### ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



\*上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

\*全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

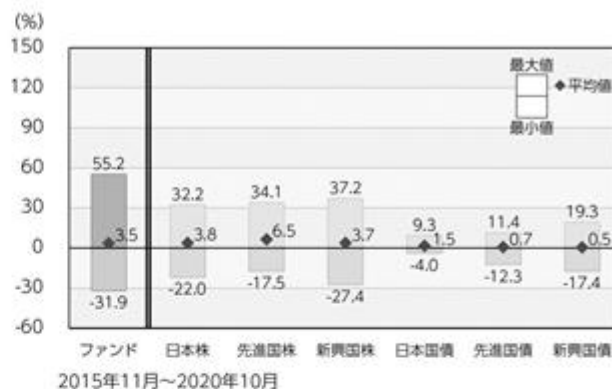
## &lt;参考情報&gt;

## ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

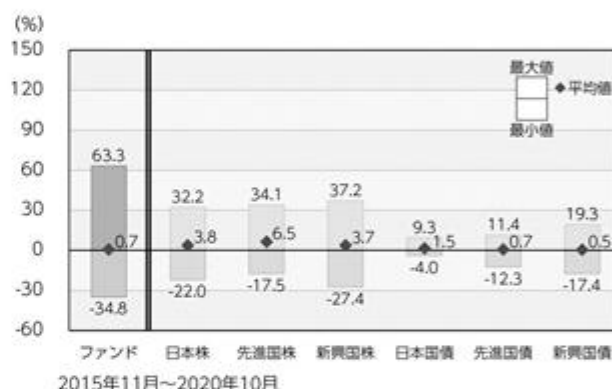
## 南アフリカランドコース



## ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



## ブラジルリアルコース



\*ファンドの分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

\*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

\*上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

\*全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株東京証券取引所が有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
日本国債	NOMURA-BPI国債	「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド(円ベース)	「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド」は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

#### 4【手数料等及び税金】

##### (1)【申込手数料】

申込手数料（受益権1口当たり）は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3%）を上限に各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。なお、申込手数料には消費税等相当額が課せられます。

申込手数料については、販売会社にお問い合わせください。

「分配金再投資コース」における収益分配金は、毎計算期末の翌営業日に原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

販売会社で支払いを受けた償還金をもって、各ファンドの受益権の取得申込みをする場合、販売会社によっては、取得申込口数のうち当該償還金額の範囲内で取得する口数についての申込手数料を上記に定める申込手数料の規定にかかわらず、販売会社が独自に定めることができます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、償還乗換えの際に償還金の支払いを受けたことを証する書類を提示いただくことがあります。

各ファンド間のスイッチングの場合、販売会社によっては申込手数料を別に定めることがあります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

##### < 申込手数料を対価とする役務の内容 >

商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価

##### (2)【換金（解約）手数料】

ありません。

##### (3)【信託報酬等】

各ファンドの信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年0.968%（税抜0.88%）の率を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分（税抜）は、次の通りとします。

委託会社	販売会社	受託会社
0.35%	0.50%	0.03%

信託報酬は、毎日計上（ファンドの基準価額に反映）され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとします。なお、信託報酬にかかる消費税等相当額は、信託報酬支弁の時に信託財産中から支弁します。

信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率

## (ご参考) 投資対象とする投資信託証券にかかる信託報酬等

## L A U Sハイイールドボンドファンド

信託報酬(運用報酬等): 純資産総額に対し年率0.695%程度(運用報酬: 年率0.45%、為替管理報酬: 年率0.08%、受託費用: 年率0.01%、事務管理費用: 年率0.14%、保管費用: 年率0.015%)

信託報酬(運用報酬等)のうち運用報酬以外の報酬、費用については、上記の率により計算される額を上限としますが、年次による最低報酬額等の定めがあるため、外国投信の純資産総額によっては、上記の率を実質的に超える場合があります。

## M H A M短期金融資産マザーファンド

信託報酬: かかりません。

各ファンドが純資産総額相当額の各外国投資信託証券を組入れたとした場合、全体として受益者が負担する実質的な信託報酬は、信託財産の純資産総額に対し年率1.663%程度(税込)となります。

なお、L A U Sハイイールドボンドファンドの信託報酬については、年次による最低報酬等が設定されているものがあり、L A U Sハイイールドボンドファンドの純資産総額によっては、上記の率を実質的に超える場合があります。(この数値は、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。実際には、この他に定率により計算されない「その他の費用等」がかかります。)

## &lt; 信託報酬等を対価とする役務の内容 &gt;

委託会社	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
販売会社	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
受託会社	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価

## (4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、特定資産の価格等の調査に要する費用および当該費用に係る消費税等相当額、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産の財務諸表の監査に要する費用および当該費用に係る消費税等相当額、外国における資産の保管等に要する費用、受託者の立替えた立替金の利息および資金の借入れを行った際の当該借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、当該費用にかかる消費税等相当額とともに毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

各ファンドの組入有価証券の売買時の売買委託手数料等およびこれら手数料にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

受益者が各ファンドを解約する際には、信託財産留保額(1口につき、解約請求受付日の翌営業日の基準価額の0.3%)をご負担いただきます。

「その他の費用等」については、各ファンドが投資対象とする投資信託(投資対象ファンド)において発生する場合、その信託財産中から支弁されます。これらはそのファンドの価格に反映されるため、結果として各ファンドの受益者が間接的に負担することとなります。

(ご参考)投資対象とする投資信託証券における、報酬の内訳等および、別途かかる費用等については、以下のとおりです。

#### L A U Sハイイールドボンドファンド

- (1) 申込手数料：ありません。
- (2) 換金(解約)手数料：ありません。
- (3) 信託財産留保額：ありません。
- (4) その他の費用：信託財産に関する租税、組入有価証券売買の際に発生する売買手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、借入金の利息および立替金の利息、法律関係の費用およびファンド組成に係る費用 等

#### M H A M短期金融資産マザーファンド

- (1) 申込手数料：ありません。
- (2) 換金(解約)手数料：ありません。
- (3) 信託財産留保額：ありません。
- (4) 信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息 等

#### (5) 【課税上の取扱い】

各ファンドは、課税上「株式投資信託」として取扱われます。

##### 個人の受益者に対する課税

###### 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率で源泉徴収による申告不要制度が適用されます。なお、確定申告により、申告分離課税または総合課税(配当控除の適用なし)のいずれかを選択することもできます。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

###### 解約時および償還時

解約時および償還時の差益(譲渡益)については、譲渡所得として、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率での申告分離課税が適用されます。

原則として確定申告が必要ですが、特定口座(源泉徴収口座)を利用する場合、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われます。

解約価額および償還価額から取得費用(申込手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を含みます。)を控除した利益。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

## 損益通算について

解約（換金）時および償還時の差損（譲渡損）については、確定申告を行うことにより上場株式等（上場株式、上場投資信託（ETF）、上場不動産投資信託（REIT）、公募株式投資信託および特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）など。以下同じ。）の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得および利子所得の金額（配当所得については申告分離課税を選択したものに限り、）との損益通算ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。また、特定口座（源泉徴収口座）をご利用の場合、その口座内において損益通算を行います（確定申告不要）。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合  
NISAおよびジュニアNISAは、上場株式や公募株式投資信託などにかかる非課税制度です。毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、同非課税口座内で少額上場株式等にかかる譲渡損失が生じた場合には、課税上譲渡損失はないものとみなされ、他の口座の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得等の金額との損益通算を行うことはできませんので、ご注意ください。

## 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。））の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収は行われません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記は、2020年10月末現在のものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 個別元本方式について

受益者毎の信託時の受益権の価額等を当該受益者の元本とする個別元本方式は次のとおりです。

### < 個別元本について >

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合には販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等毎に、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースで同一ファンドの受益権を取得する場合はコース別に個別元本の算出が行われる場合があります。

収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。  
(「元本払戻金(特別分配金)」については、下記の<収益分配金の課税について>を参照。)

<収益分配金の課税について>

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

収益分配の際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

税法が改正された場合等は、上記内容が変更になることがあります。



## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】

## 米国ハイイールド債券ファンド 円コース

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	4,557,606,659	98.72
内 ケイマン諸島	4,557,606,659	98.72
親投資信託受益証券	4,511,591	0.10
内 日本	4,511,591	0.10
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	54,447,593	1.18
純資産総額	4,616,565,843	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

## 米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	5,700,612,723	98.56
内 ケイマン諸島	5,700,612,723	98.56
親投資信託受益証券	5,900,160	0.10
内 日本	5,900,160	0.10
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	77,400,902	1.34
純資産総額	5,783,913,785	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

## 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	16,918,143,829	99.00
内 ケイマン諸島	16,918,143,829	99.00
親投資信託受益証券	15,714,350	0.09
内 日本	15,714,350	0.09
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	156,028,483	0.91
純資産総額	17,089,886,662	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

## 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	320,734,378	98.15
内 ケイマン諸島	320,734,378	98.15
親投資信託受益証券	331,696	0.10
内 日本	331,696	0.10
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	5,715,342	1.75
純資産総額	326,781,416	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

## 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	8,842,333,425	98.27
内 ケイマン諸島	8,842,333,425	98.27
親投資信託受益証券	10,851,401	0.12
内 日本	10,851,401	0.12
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	144,753,142	1.61
純資産総額	8,997,937,968	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

(参考)

MHAM短期金融資産マザーファンド

令和2年10月30日現在

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
地方債証券	115,700,528	65.31
内 日本	115,700,528	65.31
特殊債券	47,147,880	26.61
内 日本	47,147,880	26.61
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	14,312,820	8.08
純資産総額	177,161,228	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

## (2) 【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	L A U Sハイイールドボ ンドファンド(円クラス) ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	5,192,670,229	0.8902 4,622,525,353	0.8777 4,557,606,659	- -	98.72
2	M H A M短期金融資産マ ザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	4,409,727	1.0230 4,511,591	1.0231 4,511,591	- -	0.10

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.72
親投資信託受益証券	0.10
合計	98.82

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	L A U Sハイイールドボ ンドファンド(米ドルクラ ス) ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	5,423,473,241	1.0765	1.0511	-	98.56
				5,838,554,570	5,700,612,723	-	
2	M H A M短期金融資産マ ザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	5,766,944	1.0230	1.0231	-	0.10
				5,900,160	5,900,160	-	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## 投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.56
親投資信託受益証券	0.10
合計	98.66

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

## 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	L A U Sハイイールドボ ンドファンド(豪ドルクラ ス) ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	21,985,891,916	0.8127	0.7695	-	99.00
				17,868,780,480	16,918,143,829	-	
2	M H A M短期金融資産マ ザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	15,359,545	1.0230	1.0231	-	0.09
				15,714,350	15,714,350	-	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## 投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	99.00
親投資信託受益証券	0.09
合計	99.09

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

## 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	LA USハイイールドボ ンドファンド(南アフリカ ランドクラス) ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	686,797,384	0.4786 328,754,633	0.4670 320,734,378	- -	98.15
2	MHAM短期金融資産マ ザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	324,207	1.0230 331,696	1.0231 331,696	- -	0.10

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.15
親投資信託受益証券	0.10
合計	98.25

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

#### 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	LA USハイイールドボ ンドファンド(ブラジルレ アルクラス) ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	36,032,328,548	0.2633 9,489,542,401	0.2454 8,842,333,425	- -	98.27
2	MHAM短期金融資産マ ザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	10,606,394	1.0230 10,851,401	1.0231 10,851,401	- -	0.12

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.27
親投資信託受益証券	0.12
合計	98.39

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

(参考)

MHAM短期金融資産マザーファンド

令和2年10月30日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	23年度6回 大阪市公募 公債 日本	地方債 証券	27,000,000	100.88 27,240,030	100.91 27,248,130	1.071 2021/9/16	15.38
2	22年度8回 福岡県公募 公債 日本	地方債 証券	25,000,000	100.47 25,119,150	100.19 25,047,500	1.29 2020/12/24	14.14
3	691回 東京都公募公債 日本	地方債 証券	25,000,000	100.57 25,142,750	100.16 25,040,500	1.24 2020/12/18	14.13
4	139回 高速道路機構債 日本	特殊債 券	15,000,000	100.98 15,147,300	100.84 15,126,750	1.1 2021/7/30	8.54
5	34回 住宅金融支援機構 財形 日本	特殊債 券	15,000,000	99.98 14,997,600	99.98 14,998,050	0.01 2021/6/28	8.47
6	22年度11回 静岡県公 募公債 日本	地方債 証券	12,500,000	100.40 12,550,000	100.06 12,508,625	1.008 2020/11/25	7.06
7	27年度12回 京都府公 募公債 日本	地方債 証券	10,200,000	100.01 10,201,428	100.01 10,201,122	0.06 2021/3/17	5.76
8	314回 利附信金中金債 (5年) 日本	特殊債 券	10,000,000	100.10 10,010,900	100.03 10,003,900	0.2 2021/1/27	5.65
9	22年度15回 愛知県公 募公債 10年 日本	地方債 証券	8,700,000	100.30 8,726,274	100.19 8,716,791	1.316 2020/12/24	4.92
10	20回 政保地方公共団体 金融機構債券 日本	特殊債 券	7,000,000	100.36 7,025,340	100.27 7,019,180	1.2 2021/1/20	3.96
11	23年度2回 京都市公募 公債 日本	地方債 証券	6,880,000	100.93 6,944,465	100.84 6,937,860	1.049 2021/8/26	3.92

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資有価証券の種類別投資比率

令和2年10月30日現在

種類	投資比率(%)
地方債証券	65.31
特殊債券	26.61
合計	91.92

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

#### 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

#### 【投資不動産物件】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース

該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース  
該当事項はありません。

(参考)

MHAM短期金融資産マザーファンド  
該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース  
該当事項はありません。

米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース  
該当事項はありません。

(参考)

MHAM短期金融資産マザーファンド  
該当事項はありません。

### (3) 【運用実績】

#### 【純資産の推移】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース

直近日(令和2年10月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第3特定期間末 (平成23年 4月12日)	6,204	6,251	1.0640	1.0720
第4特定期間末 (平成23年10月12日)	6,138	6,203	0.9430	0.9530
第5特定期間末 (平成24年 4月12日)	20,131	20,316	0.9799	0.9889
第6特定期間末 (平成24年10月12日)	20,180	20,334	0.9879	0.9954

第7特定期間末 (平成25年 4月12日)	25,269	25,457	1.0102	1.0177
第8特定期間末 (平成25年10月15日)	21,318	21,483	0.9723	0.9798
第9特定期間末 (平成26年 4月14日)	18,011	18,149	0.9822	0.9897
第10特定期間末 (平成26年10月14日)	17,329	17,467	0.9417	0.9492
第11特定期間末 (平成27年 4月13日)	13,167	13,260	0.9175	0.9240
第12特定期間末 (平成27年10月13日)	9,353	9,425	0.8482	0.8547
第13特定期間末 (平成28年 4月12日)	6,908	6,964	0.8026	0.8091
第14特定期間末 (平成28年10月12日)	10,039	10,098	0.8468	0.8518
第15特定期間末 (平成29年 4月12日)	10,961	11,013	0.8482	0.8522
第16特定期間末 (平成29年10月12日)	12,317	12,375	0.8476	0.8516
第17特定期間末 (平成30年 4月12日)	8,449	8,485	0.8115	0.8150
第18特定期間末 (平成30年10月12日)	6,544	6,574	0.7828	0.7863
第19特定期間末 (平成31年 4月12日)	5,316	5,340	0.7749	0.7784
第20特定期間末 (令和1年10月15日)	5,257	5,281	0.7643	0.7678
第21特定期間末 (令和2年4月13日)	4,510	4,524	0.6596	0.6616
第22特定期間末 (令和2年10月12日)	4,696	4,706	0.7637	0.7652
令和1年10月末日	5,284	-	0.7685	-
11月末日	5,320	-	0.7653	-
12月末日	5,326	-	0.7756	-
令和2年1月末日	5,378	-	0.7752	-
2月末日	5,294	-	0.7702	-
3月末日	4,406	-	0.6434	-
4月末日	4,496	-	0.6706	-
5月末日	4,716	-	0.7082	-
6月末日	4,639	-	0.7138	-
7月末日	4,741	-	0.7477	-
8月末日	4,775	-	0.7617	-
9月末日	4,640	-	0.7504	-
10月末日	4,616	-	0.7565	-

米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

直近日(令和2年10月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第3特定期間末 (平成23年 4月12日)	893	900	0.9952	1.0032
第4特定期間末 (平成23年10月12日)	1,151	1,162	0.8038	0.8118
第5特定期間末 (平成24年 4月12日)	3,417	3,447	0.8876	0.8956
第6特定期間末 (平成24年10月12日)	2,999	3,027	0.8646	0.8726
第7特定期間末 (平成25年 4月12日)	4,172	4,202	1.1148	1.1228
第8特定期間末 (平成25年10月15日)	7,822	7,881	1.0574	1.0654
第9特定期間末 (平成26年 4月14日)	14,257	14,414	1.0933	1.1053
第10特定期間末 (平成26年10月14日)	21,355	21,590	1.0910	1.1030
第11特定期間末 (平成27年 4月13日)	19,800	20,054	1.1671	1.1821
第12特定期間末 (平成27年10月13日)	17,183	17,430	1.0426	1.0576
第13特定期間末 (平成28年 4月12日)	12,648	12,872	0.8468	0.8618
第14特定期間末 (平成28年10月12日)	12,359	12,589	0.8072	0.8222
第15特定期間末 (平成29年 4月12日)	16,060	16,259	0.8078	0.8178
第16特定期間末 (平成29年10月12日)	16,146	16,350	0.7937	0.8037
第17特定期間末 (平成30年 4月12日)	12,915	13,045	0.6965	0.7035
第18特定期間末 (平成30年10月12日)	9,736	9,835	0.6900	0.6970
第19特定期間末 (平成31年 4月12日)	8,090	8,156	0.6726	0.6781
第20特定期間末 (令和1年10月15日)	7,407	7,470	0.6398	0.6453
第21特定期間末 (令和2年4月13日)	5,899	5,959	0.5421	0.5476
第22特定期間末 (令和2年10月12日)	5,977	6,012	0.5986	0.6021
令和1年10月末日	7,524	-	0.6456	-
11月末日	7,486	-	0.6447	-
12月末日	7,493	-	0.6522	-
令和2年1月末日	7,408	-	0.6441	-
2月末日	7,500	-	0.6440	-



3月末日	5,800	-	0.5299	-
4月末日	5,930	-	0.5438	-
5月末日	6,251	-	0.5757	-
6月末日	6,291	-	0.5787	-
7月末日	6,217	-	0.5891	-
8月末日	6,154	-	0.5996	-
9月末日	5,946	-	0.5906	-
10月末日	5,783	-	0.5878	-

## 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

直近日(令和2年10月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第3特定期間末 (平成23年 4月12日)	8,218	8,304	1.1507	1.1627
第4特定期間末 (平成23年10月12日)	19,863	20,232	0.8622	0.8782
第5特定期間末 (平成24年 4月12日)	41,229	41,830	0.9614	0.9754
第6特定期間末 (平成24年10月12日)	50,636	51,411	0.9147	0.9287
第7特定期間末 (平成25年 4月12日)	40,368	40,944	1.1902	1.2072
第8特定期間末 (平成25年10月15日)	50,551	51,439	0.9683	0.9853
第9特定期間末 (平成26年 4月14日)	100,168	101,952	0.9542	0.9712
第10特定期間末 (平成26年10月14日)	169,721	173,092	0.8560	0.8730
第11特定期間末 (平成27年 4月13日)	159,108	161,783	0.7733	0.7863
第12特定期間末 (平成27年10月13日)	108,592	110,777	0.6460	0.6590
第13特定期間末 (平成28年 4月12日)	76,169	78,058	0.5241	0.5371
第14特定期間末 (平成28年10月12日)	65,969	67,049	0.4885	0.4965
第15特定期間末 (平成29年 4月12日)	59,799	60,654	0.4894	0.4964
第16特定期間末 (平成29年10月12日)	53,614	54,151	0.4986	0.5036
第17特定期間末 (平成30年 4月12日)	39,322	39,767	0.4427	0.4477
第18特定期間末 (平成30年10月12日)	30,879	31,267	0.3979	0.4029
第19特定期間末 (平成31年 4月12日)	25,624	25,787	0.3925	0.3950

第20特定期間末 (令和1年10月15日)	21,930	22,084	0.3575	0.3600
第21特定期間末 (令和2年4月13日)	15,711	15,851	0.2801	0.2826
第22特定期間末 (令和2年10月12日)	18,250	18,327	0.3545	0.3560
令和1年10月末日	22,164	-	0.3646	-
11月末日	21,457	-	0.3596	-
12月末日	21,858	-	0.3748	-
令和2年1月末日	20,498	-	0.3559	-
2月末日	19,925	-	0.3491	-
3月末日	15,001	-	0.2669	-
4月末日	16,083	-	0.2883	-
5月末日	17,394	-	0.3132	-
6月末日	17,717	-	0.3239	-
7月末日	18,440	-	0.3431	-
8月末日	19,027	-	0.3600	-
9月末日	17,764	-	0.3441	-
10月末日	17,089	-	0.3376	-

## 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

直近日(令和2年10月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第3特定期間末 (平成23年 4月12日)	2,013	2,040	1.1473	1.1623
第4特定期間末 (平成23年10月12日)	3,107	3,182	0.7492	0.7672
第5特定期間末 (平成24年 4月12日)	3,958	4,023	0.7939	0.8069
第6特定期間末 (平成24年10月12日)	3,259	3,320	0.6925	0.7055
第7特定期間末 (平成25年 4月12日)	3,081	3,120	0.8643	0.8753
第8特定期間末 (平成25年10月15日)	2,326	2,362	0.7218	0.7328
第9特定期間末 (平成26年 4月14日)	1,887	1,917	0.7003	0.7113
第10特定期間末 (平成26年10月14日)	1,760	1,790	0.6569	0.6679
第11特定期間末 (平成27年 4月13日)	1,248	1,263	0.6549	0.6629
第12特定期間末 (平成27年10月13日)	893	906	0.5454	0.5534
第13特定期間末 (平成28年 4月12日)	629	642	0.4073	0.4153
第14特定期間末 (平成28年10月12日)	667	676	0.4110	0.4165

第15特定期間末 (平成29年 4月12日)	768	778	0.4520	0.4575
第16特定期間末 (平成29年10月12日)	750	758	0.4707	0.4762
第17特定期間末 (平成30年 4月12日)	655	663	0.4834	0.4889
第18特定期間末 (平成30年10月12日)	520	527	0.3990	0.4045
第19特定期間末 (平成31年 4月12日)	513	518	0.4103	0.4143
第20特定期間末 (令和1年10月15日)	465	470	0.3719	0.3759
第21特定期間末 (令和2年4月13日)	331	336	0.2644	0.2684
第22特定期間末 (令和2年10月12日)	336	339	0.3179	0.3204
令和1年10月末日	460	-	0.3720	-
11月末日	469	-	0.3779	-
12月末日	498	-	0.4020	-
令和2年1月末日	469	-	0.3774	-
2月末日	451	-	0.3629	-
3月末日	321	-	0.2585	-
4月末日	320	-	0.2552	-
5月末日	360	-	0.2885	-
6月末日	318	-	0.2920	-
7月末日	326	-	0.3045	-
8月末日	335	-	0.3149	-
9月末日	321	-	0.3041	-
10月末日	326	-	0.3128	-

## 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

直近日(令和2年10月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第3特定期間末 (平成23年 4月12日)	93,079	94,396	1.0600	1.0750
第4特定期間末 (平成23年10月12日)	119,234	122,160	0.7334	0.7514
第5特定期間末 (平成24年 4月12日)	134,168	136,655	0.7553	0.7693
第6特定期間末 (平成24年10月12日)	118,592	121,217	0.6324	0.6464
第7特定期間末 (平成25年 4月12日)	130,014	131,571	0.8349	0.8449
第8特定期間末 (平成25年10月15日)	84,655	85,849	0.7089	0.7189
第9特定期間末 (平成26年 4月14日)	66,087	66,988	0.7333	0.7433

第10特定期間末 (平成26年10月14日)	48,725	49,430	0.6911	0.7011
第11特定期間末 (平成27年 4月13日)	35,517	36,120	0.5896	0.5996
第12特定期間末 (平成27年10月13日)	23,943	24,477	0.4491	0.4591
第13特定期間末 (平成28年 4月12日)	19,276	19,779	0.3836	0.3936
第14特定期間末 (平成28年10月12日)	25,153	25,781	0.4006	0.4106
第15特定期間末 (平成29年 4月12日)	46,451	47,355	0.4109	0.4189
第16特定期間末 (平成29年10月12日)	52,289	53,075	0.3991	0.4051
第17特定期間末 (平成30年 4月12日)	36,033	36,527	0.3281	0.3326
第18特定期間末 (平成30年10月12日)	25,037	25,428	0.2878	0.2923
第19特定期間末 (平成31年 4月12日)	20,533	20,759	0.2733	0.2763
第20特定期間末 (令和1年10月15日)	17,086	17,298	0.2415	0.2445
第21特定期間末 (令和2年4月13日)	10,849	11,014	0.1650	0.1675
第22特定期間末 (令和2年10月12日)	9,696	9,754	0.1673	0.1683
令和1年10月末日	17,536	-	0.2493	-
11月末日	16,403	-	0.2343	-
12月末日	17,028	-	0.2490	-
令和2年1月末日	15,766	-	0.2334	-
2月末日	14,920	-	0.2225	-
3月末日	10,516	-	0.1594	-
4月末日	9,849	-	0.1504	-
5月末日	10,655	-	0.1669	-
6月末日	10,204	-	0.1642	-
7月末日	10,650	-	0.1754	-
8月末日	10,173	-	0.1701	-
9月末日	9,488	-	0.1618	-
10月末日	8,997	-	0.1572	-

## 【分配の推移】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース

	1口当たりの分配金(円)
第3特定期間	0.0480
第4特定期間	0.0600
第5特定期間	0.0560
第6特定期間	0.0480
第7特定期間	0.0450
第8特定期間	0.0450

第9特定期間	0.0450
第10特定期間	0.0450
第11特定期間	0.0440
第12特定期間	0.0390
第13特定期間	0.0390
第14特定期間	0.0345
第15特定期間	0.0290
第16特定期間	0.0240
第17特定期間	0.0235
第18特定期間	0.0210
第19特定期間	0.0210
第20特定期間	0.0210
第21特定期間	0.0135
第22特定期間	0.0090

## 米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

	1口当たりの分配金（円）
第3特定期間	0.0480
第4特定期間	0.0480
第5特定期間	0.0480
第6特定期間	0.0480
第7特定期間	0.0480
第8特定期間	0.0480
第9特定期間	0.0640
第10特定期間	0.0720
第11特定期間	0.0750
第12特定期間	0.0900
第13特定期間	0.0900
第14特定期間	0.0900
第15特定期間	0.0850
第16特定期間	0.0600
第17特定期間	0.0570
第18特定期間	0.0420
第19特定期間	0.0330
第20特定期間	0.0330
第21特定期間	0.0330
第22特定期間	0.0210

## 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

	1口当たりの分配金（円）
第3特定期間	0.0720
第4特定期間	0.0960
第5特定期間	0.0880
第6特定期間	0.0840
第7特定期間	0.0870
第8特定期間	0.1020
第9特定期間	0.1020
第10特定期間	0.1020
第11特定期間	0.0980
第12特定期間	0.0780

第13特定期間	0.0780
第14特定期間	0.0630
第15特定期間	0.0470
第16特定期間	0.0400
第17特定期間	0.0300
第18特定期間	0.0300
第19特定期間	0.0150
第20特定期間	0.0150
第21特定期間	0.0150
第22特定期間	0.0090

## 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

	1口当たりの分配金（円）
第3特定期間	0.0900
第4特定期間	0.1080
第5特定期間	0.0880
第6特定期間	0.0780
第7特定期間	0.0660
第8特定期間	0.0660
第9特定期間	0.0660
第10特定期間	0.0660
第11特定期間	0.0630
第12特定期間	0.0480
第13特定期間	0.0480
第14特定期間	0.0405
第15特定期間	0.0330
第16特定期間	0.0330
第17特定期間	0.0330
第18特定期間	0.0330
第19特定期間	0.0240
第20特定期間	0.0240
第21特定期間	0.0240
第22特定期間	0.0150

## 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

	1口当たりの分配金（円）
第3特定期間	0.0900
第4特定期間	0.1080
第5特定期間	0.0920
第6特定期間	0.0840
第7特定期間	0.0600
第8特定期間	0.0600
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0600
第11特定期間	0.0600
第12特定期間	0.0600
第13特定期間	0.0600
第14特定期間	0.0600
第15特定期間	0.0580
第16特定期間	0.0460

第17特定期間	0.0345
第18特定期間	0.0270
第19特定期間	0.0180
第20特定期間	0.0180
第21特定期間	0.0155
第22特定期間	0.0060

## 【収益率の推移】

## 米国ハイイールド債券ファンド 円コース

	収益率(%)
第3特定期間	6.18
第4特定期間	5.73
第5特定期間	9.85
第6特定期間	5.71
第7特定期間	6.81
第8特定期間	0.70
第9特定期間	5.65
第10特定期間	0.46
第11特定期間	2.10
第12特定期間	3.30
第13特定期間	0.78
第14特定期間	9.81
第15特定期間	3.59
第16特定期間	2.76
第17特定期間	1.49
第18特定期間	0.95
第19特定期間	1.67
第20特定期間	1.3
第21特定期間	11.9
第22特定期間	17.1

(注1) 収益率は期間騰落率です。

(注2) 各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

(注3) 特定期間末が令和1年8月29日以前の収益率については、小数点第2位で表示しています。

## 米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

	収益率(%)
第3特定期間	9.52
第4特定期間	14.41
第5特定期間	16.40
第6特定期間	2.82
第7特定期間	34.49
第8特定期間	0.84
第9特定期間	9.45
第10特定期間	6.38
第11特定期間	13.85
第12特定期間	2.96
第13特定期間	10.15
第14特定期間	5.95
第15特定期間	10.60
第16特定期間	5.68

第17特定期間	5.06
第18特定期間	5.10
第19特定期間	2.26
第20特定期間	0.0
第21特定期間	10.1
第22特定期間	14.3

（注1）収益率は期間騰落率です。

（注2）各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

（注3）特定期間末が令和1年8月29日以前の収益率については、小数点第2位で表示しています。

#### 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

	収益率（％）
第3特定期間	20.71
第4特定期間	16.73
第5特定期間	21.71
第6特定期間	3.88
第7特定期間	39.63
第8特定期間	10.07
第9特定期間	9.08
第10特定期間	0.40
第11特定期間	1.79
第12特定期間	6.38
第13特定期間	6.80
第14特定期間	5.23
第15特定期間	9.81
第16特定期間	10.05
第17特定期間	5.19
第18特定期間	3.34
第19特定期間	2.41
第20特定期間	5.1
第21特定期間	17.5
第22特定期間	29.8

（注1）収益率は期間騰落率です。

（注2）各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

（注3）特定期間末が令和1年8月29日以前の収益率については、小数点第2位で表示しています。

#### 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

	収益率（％）
第3特定期間	15.40
第4特定期間	25.29
第5特定期間	17.71
第6特定期間	2.95
第7特定期間	34.34
第8特定期間	8.85
第9特定期間	6.17
第10特定期間	3.23
第11特定期間	9.29
第12特定期間	9.39
第13特定期間	16.52
第14特定期間	10.85



第15特定期間	18.00
第16特定期間	11.44
第17特定期間	9.71
第18特定期間	10.63
第19特定期間	8.85
第20特定期間	3.5
第21特定期間	22.5
第22特定期間	25.9

(注1) 収益率は期間騰落率です。

(注2) 各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

(注3) 特定期間末が令和1年8月29日以前の収益率については、小数点第2位で表示しています。

#### 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

	収益率(%)
第3特定期間	20.56
第4特定期間	20.62
第5特定期間	15.53
第6特定期間	5.15
第7特定期間	41.51
第8特定期間	7.91
第9特定期間	11.91
第10特定期間	2.43
第11特定期間	6.00
第12特定期間	13.65
第13特定期間	1.22
第14特定期間	20.07
第15特定期間	17.05
第16特定期間	8.32
第17特定期間	9.15
第18特定期間	4.05
第19特定期間	1.22
第20特定期間	5.0
第21特定期間	25.3
第22特定期間	5.0

(注1) 収益率は期間騰落率です。

(注2) 各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

(注3) 特定期間末が令和1年8月29日以前の収益率については、小数点第2位で表示しています。

#### (4) 【設定及び解約の実績】

##### 米国ハイイールド債券ファンド 円コース

	設定口数	解約口数
第3特定期間	2,958,617,101	3,275,719,523
第4特定期間	4,028,185,898	3,349,881,224
第5特定期間	17,337,521,659	3,302,241,657
第6特定期間	11,049,230,336	11,165,484,003
第7特定期間	13,677,217,437	9,092,379,813
第8特定期間	4,844,707,356	7,931,495,858
第9特定期間	3,037,017,876	6,626,707,291
第10特定期間	4,098,651,404	4,032,840,324
第11特定期間	852,205,605	4,902,864,756

第12特定期間	234,745,644	3,559,897,656
第13特定期間	152,300,349	2,571,828,773
第14特定期間	4,558,384,130	1,310,168,295
第15特定期間	1,951,473,236	883,537,384
第16特定期間	2,902,803,512	1,294,761,395
第17特定期間	802,252,369	4,921,848,248
第18特定期間	138,916,897	2,190,396,169
第19特定期間	90,271,182	1,590,696,057
第20特定期間	578,528,641	560,489,894
第21特定期間	440,929,933	480,815,439
第22特定期間	43,604,708	731,753,531

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

#### 米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

	設定口数	解約口数
第3特定期間	767,925,891	419,600,546
第4特定期間	1,214,238,945	679,803,457
第5特定期間	3,452,464,750	1,035,293,463
第6特定期間	1,196,902,561	1,576,642,200
第7特定期間	2,837,811,710	2,564,933,518
第8特定期間	4,849,321,947	1,194,229,654
第9特定期間	8,030,395,753	2,387,299,205
第10特定期間	10,422,253,128	3,889,440,315
第11特定期間	4,717,151,614	7,325,119,134
第12特定期間	3,577,195,699	4,060,818,184
第13特定期間	1,483,820,716	3,028,222,534
第14特定期間	2,289,775,890	1,915,109,272
第15特定期間	7,589,524,687	3,020,375,474
第16特定期間	3,835,895,475	3,373,194,996
第17特定期間	1,380,089,374	3,180,219,055
第18特定期間	990,103,096	5,423,517,952
第19特定期間	587,431,467	2,670,447,503
第20特定期間	1,076,914,634	1,527,204,958
第21特定期間	1,237,907,313	1,932,517,300
第22特定期間	357,578,941	1,254,466,401

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

#### 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

	設定口数	解約口数
第3特定期間	4,424,531,262	6,911,543,787
第4特定期間	18,403,102,083	2,507,180,799
第5特定期間	46,938,101,280	27,091,093,207
第6特定期間	29,641,716,040	17,166,023,802
第7特定期間	15,141,491,329	36,584,292,555
第8特定期間	25,573,203,334	7,283,380,180
第9特定期間	60,507,336,009	7,737,993,741
第10特定期間	111,781,061,858	18,486,593,172
第11特定期間	44,016,915,342	36,525,189,815
第12特定期間	8,745,438,831	46,421,521,864
第13特定期間	5,361,923,981	28,118,938,155

第14特定期間	9,559,400,941	19,856,627,906
第15特定期間	4,591,756,017	17,441,726,644
第16特定期間	4,675,914,580	19,327,673,393
第17特定期間	1,424,015,019	20,122,186,222
第18特定期間	1,125,576,120	12,348,110,146
第19特定期間	611,872,000	12,934,490,989
第20特定期間	634,318,107	4,580,199,622
第21特定期間	610,399,319	5,854,999,626
第22特定期間	377,820,386	4,997,243,565

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

#### 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

	設定口数	解約口数
第3特定期間	1,037,082,605	1,781,519,754
第4特定期間	2,992,389,082	599,590,166
第5特定期間	2,496,872,575	1,658,313,110
第6特定期間	962,802,856	1,243,229,777
第7特定期間	1,313,522,969	2,454,865,625
第8特定期間	677,934,384	1,019,566,483
第9特定期間	179,029,092	706,346,414
第10特定期間	580,650,399	596,179,874
第11特定期間	125,877,862	899,792,208
第12特定期間	110,731,035	378,940,587
第13特定期間	55,082,402	147,094,690
第14特定期間	149,050,774	71,442,911
第15特定期間	257,372,424	180,034,640
第16特定期間	146,896,758	254,254,093
第17特定期間	92,355,830	329,277,748
第18特定期間	90,936,752	142,646,315
第19特定期間	30,700,447	85,634,019
第20特定期間	65,937,506	65,511,613
第21特定期間	80,254,331	78,060,946
第22特定期間	36,790,675	231,193,468

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

#### 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

	設定口数	解約口数
第3特定期間	35,543,891,503	47,610,908,694
第4特定期間	105,301,407,831	30,524,802,633
第5特定期間	70,889,352,757	55,826,667,299
第6特定期間	47,447,321,799	37,578,389,490
第7特定期間	55,609,872,169	87,397,814,193
第8特定期間	9,381,210,823	45,689,750,464
第9特定期間	4,006,517,892	33,299,591,651
第10特定期間	2,800,267,854	22,423,367,790
第11特定期間	2,770,693,278	13,036,722,286
第12特定期間	2,625,948,906	9,551,621,443
第13特定期間	3,322,501,671	6,379,077,781
第14特定期間	16,696,850,019	4,164,166,703
第15特定期間	60,112,227,641	9,837,379,974

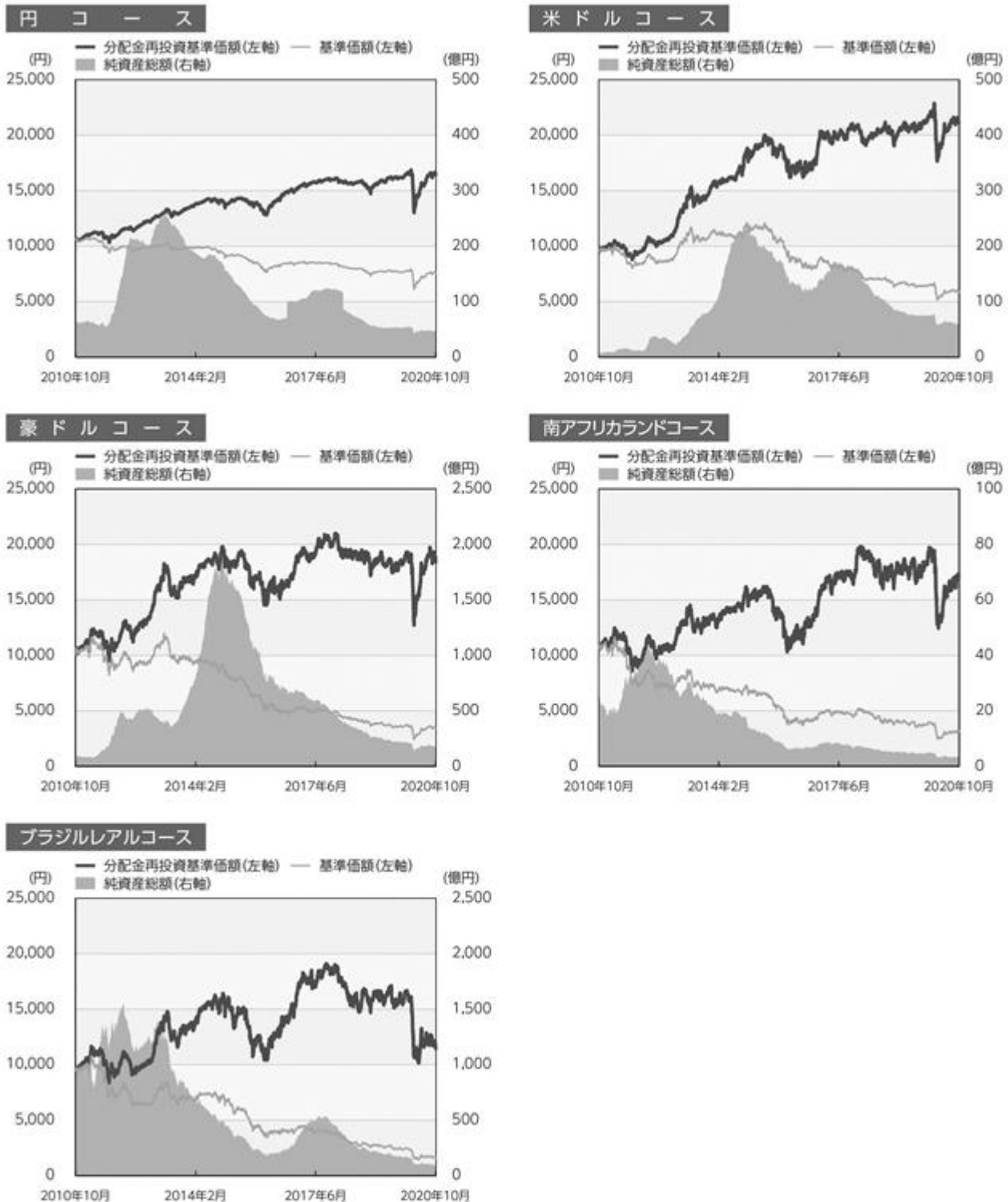
第16特定期間	32,382,481,077	14,410,697,210
第17特定期間	7,243,342,446	28,466,436,999
第18特定期間	3,182,248,693	26,009,130,325
第19特定期間	1,557,348,240	13,403,102,157
第20特定期間	2,003,585,258	6,402,450,117
第21特定期間	1,430,788,628	6,396,831,953
第22特定期間	766,540,876	8,576,208,483

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

## 参考情報

データの基準日:2020年10月30日

## 基準価額・純資産の推移 (2010年10月29日~2020年10月30日)



※基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。

※分配金再投資基準価額は、グラフの起点における基準価額に合わせて指数化しています。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。(設定日:2009年10月30日)

○掲載データ等はいくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

## 分配の推移(税引前)

※分配金は1万口当たりです。

	円 コ ー ス	米ドルコース	豪ドルコース	南アフリカランドコース	ブラジルリアルコース
2020年6月	15円	35円	15円	25円	10円
2020年7月	15円	35円	15円	25円	10円
2020年8月	15円	35円	15円	25円	10円
2020年9月	15円	35円	15円	25円	10円
2020年10月	15円	35円	15円	25円	10円
直近1年間累計	225円	540円	240円	390円	215円
設定来累計	7,905円	12,130円	13,710円	11,965円	12,270円

## 主要な資産の状況

### ■米国ハイイールド債券ファンド

※比率(%)は、各ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率です。

#### 円 コ ー ス

##### 組入銘柄

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USハイイールドボンドファンド(円クラス)	98.72
2	MHAM短期金融資産マザーファンド	0.10

#### 米ドルコース

##### 組入銘柄

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USハイイールドボンドファンド(米ドルクラス)	98.56
2	MHAM短期金融資産マザーファンド	0.10

#### 豪ドルコース

##### 組入銘柄

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USハイイールドボンドファンド(豪ドルクラス)	99.00
2	MHAM短期金融資産マザーファンド	0.09

#### 南アフリカランドコース

##### 組入銘柄

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USハイイールドボンドファンド(南アフリカランドクラス)	98.15
2	MHAM短期金融資産マザーファンド	0.10

#### ブラジルリアルコース

##### 組入銘柄

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USハイイールドボンドファンド(ブラジルリアルクラス)	98.27
2	MHAM短期金融資産マザーファンド	0.12

○掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

データの基準日:2020年10月30日

## ■LA USハイイールドボンドファンド

※データの基準日:2020年10月29日

※比率(%)は、当該外国投資信託の債券ポートフォリオに対する当該資産の時価比率です。

## 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	業種	比率(%)
1	スプリント キャピタル	通信	1.5
2	ディッシュ DBS	メディア	1.3
3	ネットフリックス	メディア	1.3
4	CCOホールディングス	メディア	1.0
5	フォード・モーター	自動車	0.9
6	ナビエント	金融サービス	0.9
7	テネット・ヘルスケア	ヘルスケア	0.8
8	ネットフリックス	メディア	0.7
9	クラフト・ハイツ・フーズ	消費財	0.6
10	トランスダイム	資本財	0.6

## ■MHAM短期金融資産マザーファンド

※比率(%)は、当該マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率です。

## 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	種類	比率(%)
1	23年度6回 大阪市公募公債	地方債証券	15.38
2	22年度8回 福岡県公募公債	地方債証券	14.14
3	691回 東京都公募公債	地方債証券	14.13
4	139回 高速道路機構債	特殊債券	8.54
5	34回 住宅金融支援機構財形	特殊債券	8.47
6	22年度11回 静岡県公募公債	地方債証券	7.06
7	27年度12回 京都府公募公債	地方債証券	5.76
8	314回 利附信金中金債(5年)	特殊債券	5.65
9	22年度15回 愛知県公募公債 10年	地方債証券	4.92
10	20回 政保地方公共団体金融機構債券	特殊債券	3.96

○掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

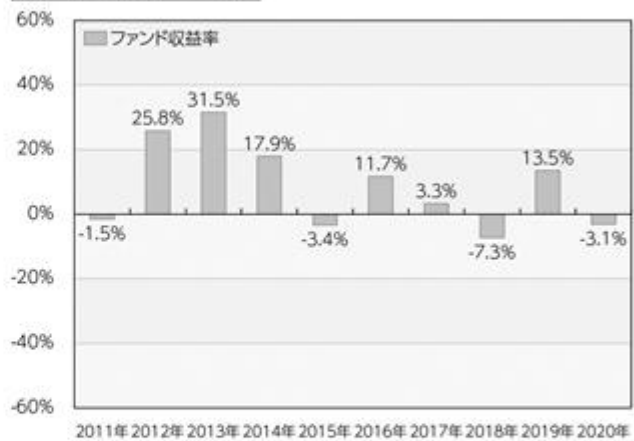
データの基準日:2020年10月30日

## 年間収益率の推移(暦年ベース)

## 円コース



## 米ドルコース



## 豪ドルコース



## 南アフリカランドコース



## ブラジルリアルコース



※年間収益率は、分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。  
 ※2020年については年初から基準日までの収益率を表示しています。  
 ※各ファンドにはベンチマークはありません。

○掲載データ等はいくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。  
 ○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。



## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

- (1) 各ファンドのお申込みは、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までにお買付けのお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みといたします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については翌営業日のお取扱いとなります。ただし、取得申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日にあたる場合には、お申込み（スイッチングのお申込みを含みます。）の受付はいたしません。
- (2) 取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとしします。
- (3) お申込みには、収益の分配がなされた場合に分配金を受領する「分配金受取コース」と、分配金は原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資される「分配金再投資コース」の2つの申込方法があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (4) 申込単位は、各販売会社が定める単位とします。申込単位については、販売会社にお問い合わせください。
- (5) 取得申込者と販売会社との間であらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (6) 取得申込みにかかる受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、販売会社が別に定める申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を加算した価額とします。
- (7) 販売会社において金額買付（申込単位が金額にて表示されている場合）によるお申込みをされた場合、申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額はお申込代金の中から差し引かれます。
- (8) 各コース間の乗換え（スイッチング）による受益権の取得申込みにかかる受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、販売会社が別に定めるスイッチングにかかる申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を加算した価額とします。

スイッチングとは、「米国ハイイールド債券ファンド」を構成するいずれかのファンドを換金（解約請求）すると同時に「米国ハイイールド債券ファンド」を構成する他のファンドの取得申込みを行う取引をいい、ファンドの換金代金そのまま取得申込代金に充当されます。

販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合、スイッチングの取扱いに一定の制限を設ける場合、スイッチングの申込単位等を別に定める場合、スイッチングの際に「分配金受取コース」、「分配金再投資コース」間の変更は受付られない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

スイッチングの際には、解約請求時と同様の費用および税金（課税対象者の場合）がかかりますのでご注意ください。

  - ・換金の際には信託財産留保額（1口につき、解約請求受付日の翌営業日の基準価額の0.3%）が差し引かれます。
- (9) 販売会社によっては米国ハイイールド債券ファンドを構成するいずれかのファンドを取扱っていない場合があります。詳しくは販売会社または委託会社にお問い合わせください。
- (10) 収益分配金の再投資に関する契約に基づき、収益分配金を再投資する際は、1口単位で購入できるものとしします。なお、その際の受益権の価額は、原則として各計算期間終了日の基準価額とします。

- (11) 取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および同法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。)等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、非常事態(金融危機、重大な政策変更や資産凍結等を含む規制導入、クーデター等)による市場の閉鎖等その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、受益権の取得申込み(スイッチングのお申込みを含みます。)の受付けを中止すること、およびすでに受け付けた取得申込み(スイッチングのお申込みを含みます。)の受付けを取り消すことができます。

## 2【換金(解約)手続等】

- (1) 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に各販売会社が定める単位をもって解約を請求することができます。

解約単位は、販売会社にお問い合わせください。

- (2) 解約の請求を行う受益者は、振替制度にかかる口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。なお、解約の請求を受益者が行う際は、販売会社に対し振替受益権をもって行うものとしします。

- (3) 解約請求受付けについては、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までには解約のお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付けにかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みとします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については、翌営業日のお取扱いとなります。ただし、解約請求受付日が、ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日にあたる場合には、解約請求の受付けはいたしません。

- (4) 解約の価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額(「解約価額」といいます。)とします。詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。

「信託財産留保額」とは、運用の安定性を高めるとともに、信託期間の途中で換金する受益者と保有を継続する受益者との公平を確保するために、換金する受益者が負担する金額で、信託財産に組入れられます。

照会先の名称	電話番号
アセットマネジメントOne株式会社	0120-104-694

電話によるお問い合わせは、営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。(以下同じ。)

- (5) 解約代金は、受益者の解約請求を受付けた日から起算して、原則として、7営業日目から販売会社において受益者に支払われます。
- (6) 信託財産の資金管理を円滑に行うために、大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

(7) 委託会社は、一部解約の請求金額が多額な場合、各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託の解約請求の受付の停止・取消または延期、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、非常事態（金融危機、重大な政策変更や資産凍結等を含む規制導入、クーデター等）による市場の閉鎖等その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止すること、およびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この日が前記(3)に規定する一部解約の請求を受付けない日であるときは、この計算日以降の最初の一部解約の請求を受付けることが出来る日とします。）に一部解約の実行の請求を受付けたものとして、前記(4)の規定に準じた価額とします。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

<主な投資対象の時価評価方法の原則>

投資対象	評価方法
外国投資信託証券	計算日に入手し得る直近の純資産価格（基準価額）
マザーファンド受益証券	計算日の基準価額

各ファンドの基準価額は、委託会社の毎営業日（土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日ならびに12月31日、1月2日および1月3日以外の日とします。）に計算されます。基準価額については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。

照会先の名称	ホームページアドレス	電話番号
アセットマネジメントOne株式会社	<a href="http://www.am-one.co.jp/">http://www.am-one.co.jp/</a>	0120-104-694

#### (2)【保管】

該当事項はありません。

#### (3)【信託期間】

2009年10月30日から2024年10月15日までとします。

ただし、委託会社が、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。なお、信託期間の延長については、「米国ハイイールド債券ファンド」を構成する一部のファンドのみにおいて実施される場合もあります。

(4) 【計算期間】

原則として毎月13日から翌月12日までとします。ただし、第1計算期間は2009年10月30日から2009年11月12日までとします。

上記の規定にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「当該日」といいます。)が休業日のとき、計算期間終了日は、当該日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5) 【その他】

信託契約の解約

1. 委託会社は、各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託受益証券が存続しないこととなる場合(外国投資信託が繰上償還する場合をいいます。)には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させます。
2. 委託会社は、次のいずれかに該当する場合、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることがあります。この場合、委託会社は書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。ただし、当該信託契約の解約についての委託会社による提案につき、信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには書面決議は行いません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、書面決議の手続きを行うことが困難な場合にも書面決議は行いません。
  - a. 信託終了前に、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき。
  - b. やむを得ない事情が発生したとき。
  - c. 信託契約の一部解約により、受益権の口数が10億口を下回ることとなる時、または各ファンドの受益権の口数を合計した口数が50億口を下回ることとなる時。
3. 前記1.または2.により信託契約を解約する場合には、委託会社はあらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
4. 委託会社は、次の事象が起きた場合、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。
  - a. 委託会社が監督官庁より該当するファンドの信託契約の解約の命令を受けたとき。
  - b. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したとき、または業務を廃止したとき。ただし、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、「信託約款の変更等」の書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
  - c. 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないとき。

信託約款の変更等

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は「信託約款の変更等」および「書面決議」に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

2. 委託会社は、前記1.の事項(前記1.の変更事項にあつては、その変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、前記1.の併合事項にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。ただし、当該重大な約款の変更等についての委託会社による提案につき、信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには書面決議は行いません。
3. 投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。
4. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、上記の規定にしたがいます。

#### 書面決議

1. 委託会社は、信託契約の解約または重大な約款の変更等に係る書面決議を行う場合には、あらかじめ、書面決議の日および当該決議の内容に応じて次の事項をそれぞれ定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約または信託約款に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
  - a. 信託契約の解約の場合 信託契約の解約の理由など
  - b. 重大な約款の変更等の場合 重大な約款の変更等の内容およびその理由など
2. 書面決議において、受益者(委託会社および該当する信託の信託財産に信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下この2.において同じ。)は受益権の口数に応じて議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
3. 書面決議は、議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
4. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
5. 信託は、受益者が一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

#### 償還金の支払い

償還金は、原則として償還日(償還日が休業日の場合には当該償還日の翌営業日)から起算して5営業日までに、販売会社において支払いが開始されます。

償還金は、償還日に振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に対し、お支払いします。

#### 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

1. 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴ない、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
2. 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴ない、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

#### 関係法人との契約の更改および受託会社の辞任または解任に伴う取扱い

1. 委託会社と販売会社との間の募集・販売等契約は、締結日から原則1年間とし、期間終了の3ヵ月前までに別段の意思表示のない時は、同一条件にて継続されます。
2. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、「信託約款の変更等」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### 信託事務処理の再信託

受託会社は、各ファンドにかかる信託事務処理の一部について、株式会社日本カストディ銀行と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

#### 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.am-one.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

#### 運用報告書

委託会社は、4月と10月の決算時および信託終了時に期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「運用報告書」を作成します。

- ・ 交付運用報告書は、販売会社を通じて交付いたします。
- ・ 運用報告書（全体版）は、次のアドレスに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、交付いたします。

<http://www.am-one.co.jp/>

#### 4【受益者の権利等】

##### (1) 収益分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

受益者が収益分配金支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

なお、「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は受託会社から受けた収益分配金を、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に販売会社に交付します。販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

##### (2) 償還金請求権

受益者は、持ち分に応じて償還金を請求する権利を有します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため、販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

##### (3) 一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行の請求をすることができます。

##### (4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース  
米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース  
米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース  
米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース  
米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(令和2年4月14日から令和2年10月12日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。



## 1【財務諸表】

## 【米国ハイイールド債券ファンド 円コース】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	103,721,499	47,684,400
投資信託受益証券	4,423,940,487	4,668,426,022
親投資信託受益証券	8,084,710	4,511,591
流動資産合計	4,535,746,696	4,720,622,013
資産合計	4,535,746,696	4,720,622,013
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	13,676,992	9,225,521
未払解約金	7,498,531	11,109,490
未払受託者報酬	128,812	118,464
未払委託者報酬	3,649,888	3,356,719
その他未払費用	11,621	10,618
流動負債合計	24,965,844	23,820,812
負債合計	24,965,844	23,820,812
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	6,838,496,253	6,150,347,430
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2,327,715,401	1,453,546,229
（分配準備積立金）	24,593,974	69,763,811
元本等合計	4,510,780,852	4,696,801,201
純資産合計	4,510,780,852	4,696,801,201
負債純資産合計	4,535,746,696	4,720,622,013

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	当期 自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	129,668,822	115,398,633
有価証券売買等損益	732,248,980	646,486,416
営業収益合計	602,580,158	761,885,049
<b>営業費用</b>		
支払利息	16,575	10,677
受託者報酬	843,607	772,331
委託者報酬	23,903,523	21,884,140
その他費用	77,974	69,613
営業費用合計	24,841,679	22,736,761
営業利益又は営業損失( )	627,421,837	739,148,288
経常利益又は経常損失( )	627,421,837	739,148,288
当期純利益又は当期純損失( )	627,421,837	739,148,288
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	5,859,277	4,121,423
期首剰余金又は期首欠損金( )	1,621,271,640	2,327,715,401
剰余金増加額又は欠損金減少額	113,579,644	209,734,683
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	113,579,644	209,734,683
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	105,582,160	12,826,146
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	105,582,160	12,826,146
分配金	92,878,685	57,766,230
期末剰余金又は期末欠損金( )	2,327,715,401	1,453,546,229

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 令和2年4月14日	至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年4月12日及び10月12日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、前特定期間末日を令和2年4月13日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在
1. 期首元本額	6,878,381,759円	6,838,496,253円
期中追加設定元本額	440,929,933円	43,604,708円
期中一部解約元本額	480,815,439円	731,753,531円
2. 受益権の総数	6,838,496,253口	6,150,347,430口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は2,327,715,401円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は1,453,546,229円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日

<p>1. 分配金の計算過程</p>	<p>(自令和1年10月16日 至令和1年11月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(17,004,531円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(29,138,330円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は46,142,861円(1万口当たり67.22円)であり、うち24,022,026円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和1年11月13日 至令和1年12月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(20,682,450円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,435,045円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は43,117,495円(1万口当たり62.22円)であり、うち13,859,339円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和1年12月13日 至令和2年1月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,131,540円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,331,217円)及び分配準備積立金(6,748,402円)より分配対象収益は48,211,159円(1万口当たり70.10円)であり、うち13,753,270円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年4月14日 至令和2年5月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,723,689円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,540,081円)及び分配準備積立金(24,037,187円)より分配対象収益は66,300,957円(1万口当たり99.02円)であり、うち10,043,086円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年5月13日 至令和2年6月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,428,536円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,572,858円)及び分配準備積立金(33,497,842円)より分配対象収益は75,499,236円(1万口当たり113.21円)であり、うち10,003,297円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年6月13日 至令和2年7月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(17,617,411円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(21,853,622円)及び分配準備積立金(41,463,969円)より分配対象収益は80,935,002円(1万口当たり125.54円)であり、うち9,670,010円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>
--------------------	---	--

<p>(自令和2年1月15日 至令和2年2月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,376,570円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,636,988円)及び分配準備積立金(11,912,649円)より分配対象収益は53,926,207円(1万口当たり78.31円)であり、うち13,771,907円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年7月14日 至令和2年8月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,555,194円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(21,457,208円)及び分配準備積立金(48,395,192円)より分配対象収益は88,407,594円(1万口当たり139.91円)であり、うち9,478,163円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年2月13日 至令和2年3月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,814,443円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(23,098,954円)及び分配準備積立金(17,318,300円)より分配対象収益は59,231,697円(1万口当たり85.87円)であり、うち13,795,151円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年8月13日 至令和2年9月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(15,235,186円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(21,181,711円)及び分配準備積立金(56,648,637円)より分配対象収益は93,065,534円(1万口当たり149.36円)であり、うち9,346,153円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和2年3月13日 至令和2年4月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(16,174,801円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(22,978,664円)及び分配準備積立金(22,096,165円)より分配対象収益は61,249,630円(1万口当たり89.56円)であり、うち13,676,992円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年9月15日 至令和2年10月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(17,283,746円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(20,933,532円)及び分配準備積立金(61,705,586円)より分配対象収益は99,922,864円(1万口当たり162.46円)であり、うち9,225,521円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>		

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	同左

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
----------------------------	---	----

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）
投資信託受益証券	411,010,881	38,622,441
親投資信託受益証券	1,580	441
合計	411,012,461	38,622,882

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.6596円 (6,596円)	0.7637円 (7,637円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

（2）株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 （円）	評価額 （円）	備考
投資信託受益証券	LAUSハイイールドボンド ファンド（円クラス）	5,244,244,015	4,668,426,022	
投資信託受益証券	合計	5,244,244,015	4,668,426,022	
親投資信託受益証券	MHAM短期金融資産マザー ファンド	4,409,727	4,511,591	
親投資信託受益証券	合計	4,409,727	4,511,591	
合計			4,672,937,613	

（注）投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

### 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。



## 【米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	152,245,749	82,992,849
投資信託受益証券	5,809,813,023	5,960,262,519
親投資信託受益証券	8,339,007	5,900,160
流動資産合計	5,970,397,779	6,049,155,528
資産合計	5,970,397,779	6,049,155,528
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	59,855,522	34,950,771
未払解約金	6,149,196	31,942,420
未払受託者報酬	169,432	151,519
未払委託者報酬	4,800,844	4,293,205
その他未払費用	15,289	13,589
流動負債合計	70,990,283	71,351,504
負債合計	70,990,283	71,351,504
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	10,882,822,182	9,985,934,722
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	4,983,414,686	4,008,130,698
(分配準備積立金)	-	-
元本等合計	5,899,407,496	5,977,804,024
純資産合計	5,899,407,496	5,977,804,024
負債純資産合計	5,970,397,779	6,049,155,528

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	当期 自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	249,027,769	228,858,044
有価証券売買等損益	926,900,349	630,450,649
営業収益合計	677,872,580	859,308,693
<b>営業費用</b>		
支払利息	34,032	20,834
受託者報酬	1,171,909	1,015,309
委託者報酬	33,205,293	28,768,026
その他費用	108,371	91,547
営業費用合計	34,519,605	29,895,716
営業利益又は営業損失( )	712,392,185	829,412,977
経常利益又は経常損失( )	712,392,185	829,412,977
当期純利益又は当期純損失( )	712,392,185	829,412,977
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	22,830,267	4,995,962
期首剰余金又は期首欠損金( )	4,170,117,003	4,983,414,686
剰余金増加額又は欠損金減少額	700,554,933	523,510,543
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	700,554,933	523,510,543
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	450,001,213	151,714,810
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	450,001,213	151,714,810
分配金	374,289,485	220,928,760
期末剰余金又は期末欠損金( )	4,983,414,686	4,008,130,698

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 令和2年4月14日	至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年4月12日及び10月12日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、前特定期間末日を令和2年4月13日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在
1. 期首元本額	11,577,432,169円	10,882,822,182円
期中追加設定元本額	1,237,907,313円	357,578,941円
期中一部解約元本額	1,932,517,300円	1,254,466,401円
2. 受益権の総数	10,882,822,182口	9,985,934,722口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は4,983,414,686円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は4,008,130,698円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 分配金の計算過程	<p>(自令和1年10月16日 至令和1年11月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(39,659,135円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(742,181,943円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は781,841,078円(1万口当たり674.98円)であり、うち63,706,889円(1万口当たり55円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年4月14日 至令和2年5月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(37,821,858円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(552,572,104円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は590,393,962円(1万口当たり540.42円)であり、うち38,236,330円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>

(自令和1年11月13日 至令和1年12月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(35,964,560円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(716,563,442円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は752,528,002円(1万口当たり651.22円)であり、うち63,555,976円(1万口当たり55円)を分配金額としております。

(自令和1年12月13日 至令和2年1月14日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(40,253,466円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(685,158,386円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は725,411,852円(1万口当たり631.30円)であり、うち63,198,769円(1万口当たり55円)を分配金額としております。

(自令和2年1月15日 至令和2年2月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(37,290,749円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(668,500,571円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は705,791,320円(1万口当たり608.86円)であり、うち63,755,906円(1万口当たり55円)を分配金額としております。

(自令和2年2月13日 至令和2年3月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(33,715,125円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(606,507,279円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は640,222,404円(1万口当たり584.76円)であり、うち60,216,423円(1万口当たり55円)を分配金額としております。

(自令和2年5月13日 至令和2年6月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(38,038,958円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(549,726,742円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は587,765,700円(1万口当たり540.59円)であり、うち38,054,333円(1万口当たり35円)を分配金額としております。

(自令和2年6月13日 至令和2年7月13日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(35,654,921円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(542,295,823円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は577,950,744円(1万口当たり538.93円)であり、うち37,533,737円(1万口当たり35円)を分配金額としております。

(自令和2年7月14日 至令和2年8月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(37,052,029円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(527,655,438円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は564,707,467円(1万口当たり539.33円)であり、うち36,646,771円(1万口当たり35円)を分配金額としております。

(自令和2年8月13日 至令和2年9月14日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(31,410,116円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(511,245,064円)及び分配準備積立金(392,109円)より分配対象収益は543,047,289円(1万口当たり535.29円)であり、うち35,506,818円(1万口当たり35円)を分配金額としております。

	(自令和2年3月13日 至令和2年4月13日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(33,638,967円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(576,608,838円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は610,247,805円(1万口当たり560.74円)であり、うち59,855,522円(1万口当たり55円)を分配金額としております。	(自令和2年9月15日 至令和2年10月12日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(32,473,720円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(499,593,756円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は532,067,476円(1万口当たり532.81円)であり、うち34,950,771円(1万口当たり35円)を分配金額としております。
--	--	---

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務）は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）
投資信託受益証券	308,300,228	9,513,558
親投資信託受益証券	1,630	577
合計	308,301,858	9,514,135

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額	0.5421円	0.5986円
（1万口当たり純資産額）	（5,421円）	（5,986円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	L A U Sハイールドボンド ファンド(米ドルクラス)	5,537,218,989	5,960,262,519	
投資信託受益証券 合計		5,537,218,989	5,960,262,519	
親投資信託受益証券	M H A M短期金融資産マザー ファンド	5,766,944	5,900,160	
親投資信託受益証券 合計		5,766,944	5,900,160	
合計			5,966,162,679	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	382,550,909	229,520,300
投資信託受益証券	15,460,942,644	18,122,616,171
親投資信託受益証券	40,569,278	15,714,350
流動資産合計	15,884,062,831	18,367,850,821
資産合計	15,884,062,831	18,367,850,821
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	140,244,189	77,217,379
未払解約金	19,390,209	26,715,454
未払受託者報酬	434,649	457,215
未払委託者報酬	12,315,362	12,954,631
その他未払費用	39,248	41,031
流動負債合計	172,423,657	117,385,710
負債合計	172,423,657	117,385,710
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	56,097,675,978	51,478,252,799
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	40,386,036,804	33,227,787,688
(分配準備積立金)	-	48,099,297
元本等合計	15,711,639,174	18,250,465,111
純資産合計	15,711,639,174	18,250,465,111
負債純資産合計	15,884,062,831	18,367,850,821



## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期		当期	
	自 至	令和1年10月16日 令和2年4月13日	自 至	令和2年4月14日 令和2年10月12日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		624,903,629		562,834,476
有価証券売買等損益		4,050,819,416		4,100,676,599
営業収益合計		3,425,915,787		4,663,511,075
<b>営業費用</b>				
支払利息		52,755		46,222
受託者報酬		3,292,549		2,932,244
委託者報酬		93,290,556		83,081,451
その他費用		296,508		264,532
営業費用合計		96,932,368		86,324,449
営業利益又は営業損失( )		3,522,848,155		4,577,186,626
経常利益又は経常損失( )		3,522,848,155		4,577,186,626
当期純利益又は当期純損失( )		3,522,848,155		4,577,186,626
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )		39,047,445		26,747,418
期首剰余金又は期首欠損金( )		39,411,344,238		40,386,036,804
剰余金増加額又は欠損金減少額		3,782,906,194		3,350,054,414
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		3,782,906,194		3,350,054,414
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		403,742,725		258,634,369
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		403,742,725		258,634,369
分配金		870,055,325		483,610,137
期末剰余金又は期末欠損金( )		40,386,036,804		33,227,787,688

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 令和2年4月14日	至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年4月12日及び10月12日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、前特定期間末日を令和2年4月13日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在
1. 期首元本額	61,342,276,285円	56,097,675,978円
期中追加設定元本額	610,399,319円	377,820,386円
期中一部解約元本額	5,854,999,626円	4,997,243,565円
2. 受益権の総数	56,097,675,978口	51,478,252,799口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は40,386,036,804円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は33,227,787,688円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 分配金の計算過程	<p>(自令和1年10月16日 至令和1年11月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(103,202,280円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,390,034,021円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,493,236,301円(1万口当たり412.85円)であり、うち150,976,072円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年4月14日 至令和2年5月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(95,055,881円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,901,996,263円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は1,997,052,144円(1万口当たり358.20円)であり、うち83,628,340円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>

(自令和1年11月13日 至令和1年12月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(87,253,990円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,295,519,166円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,382,773,156円(1万口当たり402.60円)であり、うち147,961,324円(1万口当たり25円)を分配金額としております。

(自令和1年12月13日 至令和2年1月14日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(99,548,627円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,195,487,793円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,295,036,420円(1万口当たり394.72円)であり、うち145,357,472円(1万口当たり25円)を分配金額としております。

(自令和2年1月15日 至令和2年2月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(96,654,289円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,124,916,654円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,221,570,943円(1万口当たり386.54円)であり、うち143,682,147円(1万口当たり25円)を分配金額としております。

(自令和2年5月13日 至令和2年6月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(95,350,229円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,886,187,186円)及び分配準備積立金(11,304,415円)より分配対象収益は1,992,841,830円(1万口当たり360.44円)であり、うち82,931,850円(1万口当たり15円)を分配金額としております。

(自令和2年6月13日 至令和2年7月13日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(90,394,108円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,851,014,820円)及び分配準備積立金(23,262,755円)より分配対象収益は1,964,671,683円(1万口当たり362.10円)であり、うち81,384,478円(1万口当たり15円)を分配金額としております。

(自令和2年7月14日 至令和2年8月12日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(91,839,679円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,822,158,648円)及び分配準備積立金(31,745,274円)より分配対象収益は1,945,743,601円(1万口当たり364.30円)であり、うち80,114,595円(1万口当たり15円)を分配金額としております。

	<p>(自令和2年2月13日 至令和2年3月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(83,441,594円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,051,234,645円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,134,676,239円(1万口当たり376.26円)であり、うち141,834,121円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年3月13日 至令和2年4月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(83,387,802円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,970,630,529円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は2,054,018,331円(1万口当たり366.15円)であり、うち140,244,189円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年8月13日 至令和2年9月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(86,200,205円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,781,696,959円)及び分配準備積立金(42,468,696円)より分配対象収益は1,910,365,860円(1万口当たり365.81円)であり、うち78,333,495円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年9月15日 至令和2年10月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(75,731,511円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,756,346,063円)及び分配準備積立金(49,585,165円)より分配対象収益は1,881,662,739円(1万口当たり365.52円)であり、うち77,217,379円(1万口当たり15円)を分配金額としております。</p>
--	---	--

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	当期 自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左
-------------------	---	----

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	1,407,319,344	96,073,245
親投資信託受益証券	7,933	1,536
合計	1,407,327,277	96,071,709

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

( 関連当事者との取引に関する注記 )

該当事項はありません。

( 1口当たり情報に関する注記 )

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額 ( 1万口当たり純資産額 )	0.2801円 (2,801円)	0.3545円 (3,545円)

#### ( 4 ) 【附属明細表】

##### 第1 有価証券明細表

###### ( 1 ) 株式

該当事項はありません。

###### ( 2 ) 株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 ( 円 )	評価額 ( 円 )	備考
投資信託受益証券	L A U Sハイイールドボンド ファンド(豪ドルクラス)	22,299,269,314	18,122,616,171	
投資信託受益証券	合計	22,299,269,314	18,122,616,171	
親投資信託受益証券	M H A M短期金融資産マザー ファンド	15,359,545	15,714,350	
親投資信託受益証券	合計	15,359,545	15,714,350	
合計			18,138,330,521	

( 注 ) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

##### 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

##### 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	19,276,784	7,542,089
投資信託受益証券	316,687,635	331,673,283
親投資信託受益証券	942,632	331,696
流動資産合計	336,907,051	339,547,068
資産合計	336,907,051	339,547,068
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	5,011,382	2,646,107
未払解約金	406,574	204,358
未払受託者報酬	9,632	8,345
未払委託者報酬	273,108	236,556
その他未払費用	855	734
流動負債合計	5,701,551	3,096,100
負債合計	5,701,551	3,096,100
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,252,845,645	1,058,442,852
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	921,640,145	721,991,884
(分配準備積立金)	-	6,039,216
元本等合計	331,205,500	336,450,968
純資産合計	331,205,500	336,450,968
負債純資産合計	336,907,051	339,547,068

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	当期 自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	28,206,576	24,883,864
有価証券売買等損益	130,508,275	55,985,712
営業収益合計	102,301,699	80,869,576
<b>営業費用</b>		
支払利息	1,793	1,486
受託者報酬	73,042	55,335
委託者報酬	2,070,673	1,569,050
その他費用	6,674	4,906
営業費用合計	2,152,182	1,630,777
営業利益又は営業損失( )	104,453,881	79,238,799
経常利益又は経常損失( )	104,453,881	79,238,799
当期純利益又は当期純損失( )	104,453,881	79,238,799
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	850,746	1,219
期首剰余金又は期首欠損金( )	785,589,417	921,640,145
剰余金増加額又は欠損金減少額	49,823,606	163,609,546
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	49,823,606	163,609,546
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	52,428,955	26,272,153
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	52,428,955	26,272,153
分配金	29,842,244	16,929,150
期末剰余金又は期末欠損金( )	921,640,145	721,991,884



## （３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	当期	
	自 令和2年4月14日	至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年4月12日及び10月12日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、前特定期間末日を令和2年4月13日としております。</p>	

（貸借対照表に関する注記）

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在
1. 期首元本額	1,250,652,260円	1,252,845,645円
期中追加設定元本額	80,254,331円	36,790,675円
期中一部解約元本額	78,060,946円	231,193,468円
2. 受益権の総数	1,252,845,645口	1,058,442,852口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は921,640,145円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は721,991,884円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 分配金の計算過程	<p>（自令和1年10月16日 至令和1年11月12日） 計算期間末における費用控除後の配当等収益（4,204,082円）、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益（0円）、信託約款に規定される収益調整金（16,726,047円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象収益は20,930,129円（1万口当たり169.15円）であり、うち4,949,442円（1万口当たり40円）を分配金額としております。</p>	<p>（自令和2年4月14日 至令和2年5月12日） 計算期間末における費用控除後の配当等収益（4,175,201円）、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益（0円）、信託約款に規定される収益調整金（13,700,564円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象収益は17,875,765円（1万口当たり143.38円）であり、うち3,116,752円（1万口当たり25円）を分配金額としております。</p>

<p>(自令和1年11月13日 至令和1年12月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,502,603円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(16,014,570円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は20,517,173円(1万口当たり165.49円)であり、うち4,958,930円(1万口当たり40円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年5月13日 至令和2年6月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,418,152円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(13,742,218円)及び分配準備積立金(1,050,275円)より分配対象収益は19,210,645円(1万口当たり153.83円)であり、うち3,121,886円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和1年12月13日 至令和2年1月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,727,995円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(15,556,623円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は20,284,618円(1万口当たり163.64円)であり、うち4,958,307円(1万口当たり40円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年6月13日 至令和2年7月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,800,978円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,983,298円)及び分配準備積立金(2,036,826円)より分配対象収益は17,821,102円(1万口当たり163.80円)であり、うち2,719,898円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和2年1月15日 至令和2年2月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,803,603円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(15,407,994円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は20,211,597円(1万口当たり162.21円)であり、うち4,983,856円(1万口当たり40円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年7月14日 至令和2年8月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,609,089円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,828,563円)及び分配準備積立金(3,062,878円)より分配対象収益は18,500,530円(1万口当たり172.46円)であり、うち2,681,842円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和2年2月13日 至令和2年3月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,340,062円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(15,268,935円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は19,608,997円(1万口当たり157.49円)であり、うち4,980,327円(1万口当たり40円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年8月13日 至令和2年9月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,725,513円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,675,371円)及び分配準備積立金(3,915,028円)より分配対象収益は19,315,912円(1万口当たり182.73円)であり、うち2,642,665円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>

	(自令和2年3月13日 至令和2年4月13日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,003,735円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(14,773,332円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は18,777,067円(1万口当たり149.87円)であり、うち5,011,382円(1万口当たり40円)を分配金額としております。	(自令和2年9月15日 至令和2年10月12日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,705,267円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,716,472円)及び分配準備積立金(4,980,056円)より分配対象収益は20,401,795円(1万口当たり192.75円)であり、うち2,646,107円(1万口当たり25円)を分配金額としております。
--	--	---

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	55,351,832	5,197,555
親投資信託受益証券	184	33
合計	55,352,016	5,197,588

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (1口当たり情報に関する注記)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額	0.2644円	0.3179円
(1万口当たり純資産額)	(2,644円)	(3,179円)

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	LA USハイールドボンド ファンド(南アフリカランドク ラス)	693,007,278	331,673,283	
投資信託受益証券 合計		693,007,278	331,673,283	
親投資信託受益証券	MHAM短期金融資産マザー ファンド	324,207	331,696	
親投資信託受益証券 合計		324,207	331,696	
合計			332,004,979	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	469,247,491	166,231,802
投資信託受益証券	10,551,296,092	9,665,262,473
親投資信託受益証券	20,077,280	10,851,401
流動資産合計	11,040,620,863	9,842,345,676
資産合計	11,040,620,863	9,842,345,676
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	164,432,232	57,963,225
未払解約金	17,165,755	80,486,714
未払受託者報酬	312,083	248,675
未払委託者報酬	8,842,676	7,045,985
その他未払費用	28,174	22,314
流動負債合計	190,780,920	145,766,913
負債合計	190,780,920	145,766,913
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	65,772,893,057	57,963,225,450
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	54,923,053,114	48,266,646,687
(分配準備積立金)	-	270,978,523
元本等合計	10,849,839,943	9,696,578,763
純資産合計	10,849,839,943	9,696,578,763
負債純資産合計	11,040,620,863	9,842,345,676

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期		当期	
	自	令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自	令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		800,482,265		692,844,052
有価証券売買等損益		4,789,861,293		129,031,498
営業収益合計		3,989,379,028		563,812,554
<b>営業費用</b>				
支払利息		56,888		31,626
受託者報酬		2,518,559		1,700,932
委託者報酬		71,360,722		48,194,372
その他費用		233,342		153,423
営業費用合計		74,169,511		50,080,353
営業利益又は営業損失( )		4,063,548,539		513,732,201
経常利益又は経常損失( )		4,063,548,539		513,732,201
当期純利益又は当期純損失( )		4,063,548,539		513,732,201
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )		37,895,023		4,830,018
期首剰余金又は期首欠損金( )		53,652,927,493		54,923,053,114
剰余金増加額又は欠損金減少額		4,911,268,015		7,153,657,681
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		4,911,268,015		7,153,657,681
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		1,101,098,213		638,498,012
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		1,101,098,213		638,498,012
分配金		1,054,641,907		367,655,425
期末剰余金又は期末欠損金( )		54,923,053,114		48,266,646,687

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。  親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年4月12日及び10月12日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、前特定期間末日を令和2年4月13日としております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和2年4月13日現在	令和2年10月12日現在
1. 期首元本額	70,738,936,382円	65,772,893,057円
期中追加設定元本額	1,430,788,628円	766,540,876円
期中一部解約元本額	6,396,831,953円	8,576,208,483円
2. 受益権の総数	65,772,893,057口	57,963,225,450口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は54,923,053,114円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は48,266,646,687円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 分配金の計算過程	(自令和1年10月16日 至令和1年11月12日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(140,131,954円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(649,472,419円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は789,604,373円(1万口当たり112.45円)であり、うち210,648,201円(1万口当たり30円)を分配金額としております。	(自令和2年4月14日 至令和2年5月12日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(112,670,971円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(299,995,618円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は412,666,589円(1万口当たり63.08円)であり、うち65,417,793円(1万口当たり10円)を分配金額としております。



<p>(自令和1年11月13日 至令和1年12月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(140,716,631円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(574,628,937円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は715,345,568円(1万口当たり102.65円)であり、うち174,208,307円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年5月13日 至令和2年6月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(116,302,397円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(289,724,801円)及び分配準備積立金(45,532,753円)より分配対象収益は451,559,951円(1万口当たり71.50円)であり、うち63,153,859円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和1年12月13日 至令和2年1月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(123,971,136円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(529,857,470円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は653,828,606円(1万口当たり95.83円)であり、うち170,567,484円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年6月13日 至令和2年7月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(106,341,736円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(282,361,761円)及び分配準備積立金(95,969,236円)より分配対象収益は484,672,733円(1万口当たり78.78円)であり、うち61,515,281円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>
<p>(自令和2年1月15日 至令和2年2月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(111,925,148円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(477,313,925円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は589,239,073円(1万口当たり87.44円)であり、うち168,461,170円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年7月14日 至令和2年8月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(110,910,941円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(278,053,488円)及び分配準備積立金(138,349,744円)より分配対象収益は527,314,173円(1万口当たり87.11円)であり、うち60,532,903円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>

<p>(自令和2年2月13日 至令和2年3月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(110,486,771円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(415,470,643円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は525,957,414円(1万口当たり79.05円)であり、うち166,324,513円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年3月13日 至令和2年4月13日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(110,415,528円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(355,628,820円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は466,044,348円(1万口当たり70.85円)であり、うち164,432,232円(1万口当たり25円)を分配金額としております。</p>	<p>(自令和2年8月13日 至令和2年9月14日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(107,380,171円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(271,686,561円)及び分配準備積立金(183,863,801円)より分配対象収益は562,930,533円(1万口当たり95.29円)であり、うち59,072,364円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p> <p>(自令和2年9月15日 至令和2年10月12日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(101,711,408円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(267,196,177円)及び分配準備積立金(227,230,340円)より分配対象収益は596,137,925円(1万口当たり102.84円)であり、うち57,963,225円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>	
---	---	--

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月13日	当期 自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左
-------------------	---	----

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	1,563,686,860	495,771,510
親投資信託受益証券	3,926	1,060
合計	1,563,690,786	495,770,450

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

( 関連当事者との取引に関する注記 )

該当事項はありません。

( 1口当たり情報に関する注記 )

	前期 令和2年4月13日現在	当期 令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額 ( 1万口当たり純資産額 )	0.1650円 ( 1,650円 )	0.1673円 ( 1,673円 )

#### ( 4 ) 【 附属明細表 】

##### 第 1 有価証券明細表

###### ( 1 ) 株式

該当事項はありません。

###### ( 2 ) 株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 ( 円 )	評価額 ( 円 )	備考
投資信託受益証券	L A U Sハイイールドボンド ファンド ( ブラジルリアルクラ ス )	36,708,174,985	9,665,262,473	
投資信託受益証券 合計		36,708,174,985	9,665,262,473	
親投資信託受益証券	M H A M短期金融資産マザー ファンド	10,606,394	10,851,401	
親投資信託受益証券 合計		10,606,394	10,851,401	
合計			9,676,113,874	

( 注 ) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

##### 第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

##### 第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

( 参考 )

「米国ハイイールド債券ファンド 円コース」、「米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース」、「米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース」、「米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース」、「米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース」は、「L A U Sハイイールドボンドファンド ( 円クラス ) 」投資信託証券、「L A U Sハイイールドボンドファンド ( 米ドルクラス ) 」投資信託証券、「L A U Sハイイールドボンドファンド ( 豪ドルクラス ) 」投資信託証券、「L A U Sハイイールドボンドファンド ( 南アフリカランドクラス ) 」投資信託証券、「L A U Sハイイールドボンドファンド ( ブラジルリアルクラス ) 」投資信託証券及び「M H A M短期金融資産マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」及び「親投資信託受益証券」は、すべてこれらの証券であります。

同投資信託の状況は以下の通りであります。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

## MHAM短期金融資産マザーファンド

## 貸借対照表

(単位:円)

		令和2年10月12日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		9,268,699
地方債証券		110,509,113
特殊債券		56,968,600
未収利息		317,455
前払費用		92,807
流動資産合計		177,156,674
資産合計		177,156,674
負債の部		
流動負債		
流動負債合計		-
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本		173,160,950
剰余金		
剰余金又は欠損金( )		3,995,724
元本等合計		177,156,674
純資産合計		177,156,674
負債純資産合計		177,156,674

## 注記表

## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	地方債証券及び特殊債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。

## （貸借対照表に関する注記）

項目	令和2年10月12日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	180,898,910円
同期中追加設定元本額	34,216,444円
同期中一部解約元本額	41,954,404円
元本の内訳	
ファンド名	
MHAMライフ ナビゲーション インカム	2,450,020円
MHAMライフ ナビゲーション 2020	69,422,006円
MHAMライフ ナビゲーション 2030	5,586,045円
MHAMライフ ナビゲーション 2040	2,450,020円
MHAMライフ ナビゲーション 2050	1,476,077円
米国厳選成長株集中投資ファンド Aコース（為替ヘッジあり）	314,857円
米国厳選成長株集中投資ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	7,777,756円
米国ハイイールド債券ファンド 円コース	4,409,727円
米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース	5,766,944円
米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース	15,359,545円
米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース	324,207円
米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース	10,606,394円
通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型） 円コース	3,534,263円
通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型） 米ドルコース	7,087,354円
通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型） 豪ドルコース	1,769,440円
通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型） ブラジルリアルコース	4,971,163円
インカムビルダー（毎月決算型）限定為替ヘッジ	1,269,315円
インカムビルダー（毎月決算型）為替ヘッジなし	7,349,478円
インカムビルダー（年1回決算型）限定為替ヘッジ	1,090,599円
インカムビルダー（年1回決算型）為替ヘッジなし	8,026,585円
インカムビルダー（毎月決算型）世界通貨分散コース	9,719,979円
インカムビルダー（年1回決算型）世界通貨分散コース	2,399,176円
計	173,160,950円
2. 受益権の総数	173,160,950口

## （金融商品に関する注記）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 令和2年4月14日 至 令和2年10月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。

2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	令和2年10月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」にて記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務）は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	令和2年10月12日現在
	当期の 損益に含まれた 評価差額（円）
地方債証券	241,394
特殊債券	43,606
合計	285,000

（注）「当期の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間（令和2年7月1日から令和2年10月12日まで）に対応する金額であります。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報に関する注記）

	令和2年10月12日現在
1口当たり純資産額	1.0231円

(1万口当たり純資産額)

(10,231円)

## 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

令和2年10月12日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
地方債証券	691回 東京都公募公債	25,000,000	25,055,750	
	27年度12回 京都府公募公債	10,200,000	10,201,632	
	22年度11回 静岡県公募公債	12,500,000	12,514,875	
	22年度15回 愛知県公募公債 10年	8,700,000	8,722,446	
	22年度8回 福岡県公募公債	25,000,000	25,063,250	
	23年度2回 京都市公募公債	6,880,000	6,941,920	
	22年度1回 福井県公募公債	22,000,000	22,009,240	
地方債証券 合計		110,280,000	110,509,113	
特殊債券	120回政保日本高速道路保有・債務返済機構	9,800,000	9,804,410	
	139回 高速道路機構債	15,000,000	15,136,200	
	20回 政保地方公共団体金融機構債券	7,000,000	7,023,590	
	314回 利附信金中金債(5年)	10,000,000	10,005,000	
	34回 住宅金融支援機構財形	15,000,000	14,999,400	
特殊債券 合計		56,800,000	56,968,600	
合計			167,477,713	

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。



## LA USハイイールドボンドファンドの状況

同ファンドは、計算期間終了後、同ファンドの有する国籍において、一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠した財務諸表が作成され、監査人による財務諸表監査を受けております。

なお、本書に添付した同ファンドの財政状態計算書および財務諸表注記は、2019年12月31日現在の財務諸表の原文の一部を委託会社が誠実に和訳したものでありますが、あくまで参考和訳であり、正確性を保証するものではありません。

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財政状態計算書

2019年12月31日現在

(日本円で表示)

	2019年12月31日	2018年12月31日
<b>資産</b>		
現金及び現金同等物	¥ 554,663,295	¥ 2,033,493,040
損益を通じて公正価値で測定する金融資産	49,107,025,848	57,987,255,307
為替予約にかかる未実現利益	2,192,578,832	3,947,432,206
経過利息	764,230,077	974,463,847
売却した投資にかかる未収金	51,355,221	67,237,718
<b>資産合計</b>	<u>¥ 52,669,853,273</u>	<u>¥ 65,009,882,118</u>
<b>負債</b>		
為替予約にかかる未実現損失	¥ 819,092,118	¥ 5,182,201,893
購入した投資にかかる未払金	2,541,239	-
未払分配金	296,029,414	453,164,102
未払投資運用報酬	58,799,612	78,196,525
未払管理報酬	17,041,335	22,024,309
未払為替取引報酬	8,868,651	11,858,067
未払監査報酬	9,509,063	6,308,613
未払保管報酬	1,941,043	2,568,277
未払受託報酬	1,294,025	1,752,468
その他未払費用	82,984	83,354
負債合計(ユニット保有者に帰属する純資産を除く)	<u>1,215,199,484</u>	<u>5,758,157,608</u>
ユニット保有者に帰属する純資産	51,454,653,789	59,251,724,510
<b>負債合計</b>	<u>¥ 52,669,853,273</u>	<u>¥ 65,009,882,118</u>

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

損益を通じて公正価値で測定する金融資産

損益を通じて公正価値で計上される金融資産は、以下の通りである。

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>普通株式</b>				
航空宇宙・防衛	-	-	¥ 42,358,683	¥ 38,079,937
乗用車・貨物自動車・部品及び機器	69,292,439	21,736,087	69,292,439	54,860,243
音楽	77,214,227	56,082,821	-	-
小売 - ディスカウント	40,877,532	12,025,918	-	-
小売 - 宝飾品	132,200,772	55,945,890	132,200,772	71,687,781
広域地方銀行	164,023,538	157,772,865	-	-
水	77,697,400	80,827,787	-	-
<b>普通株式合計</b>	561,305,908	384,391,368	243,851,894	164,627,961
<b>優先株式</b>				
化学薬品 - 特殊薬品	-	-	148,899,929	131,302,798
金融 - 投資銀行	-	5,245,664	-	5,295,864
食品 - 多様/多角的な製品	-	-	162,000,245	149,145,449
小売 - ディスカウント	20,847,544	6,133,219	-	-
<b>優先株式合計</b>	20,847,544	11,378,883	310,900,174	285,744,111

**LA米国ハイイールド債券ファンド**  
**MHAMアンブレラファンドのサブトラスト**

**財務諸表注記**

**2019年12月31日終了年度**

**損益を通じて公正価値で測定する金融資産(続き)**

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>転換社債</b>				
航空宇宙・防衛機器	¥ 74,419,535	¥ 93,445,462	¥ 149,548,129	¥ 152,807,666
アプリケーション・ソフト	74,536,670	73,152,707	207,047,850	206,519,613
乗用車 - 軽量貨物自動車及び機器	94,332,475	119,899,537	92,436,666	99,457,921
建物及び建設製品	65,123,963	72,486,388	-	-
コンピュータ・ソフト	-	-	127,326,015	121,347,047
データ処理・管理	148,933,941	160,656,154	-	-
診断機器	78,727,056	80,466,676	-	-
ドラッグデリバリーシステム	141,339,104	196,555,741	-	-
Eコマース/製品及びサービス	-	-	161,634,300	175,167,395
電気 - 総合	-	-	189,510,580	181,078,516
エネルギー - 代替エネルギー源	189,477,505	234,884,279	77,053,216	69,781,408
法人ソフトウェア	58,436,700	66,157,623	177,542,200	178,686,079
インターネット・コンテンツ	-	-	239,378,763	227,242,254
インターネット・セキュリティ	-	-	70,671,056	67,293,441
インターネット電話通信	-	-	113,786,229	108,445,802
医療 - 医療保険(HMO)	-	-	64,560,608	91,943,116
医療 - 生物医学・遺伝学	-	-	175,744,946	162,724,076
臨床検査・試験	75,784,509	78,365,070	-	-
医療用品	70,298,419	90,746,765	-	-
患者モニタリング装置	84,462,748	119,693,382	-	-
不動産	231,052,850	277,633,327	118,899,326	115,194,935
半導体機器	162,587,728	229,757,499	-	-
通信サービス	68,205,770	80,731,478	-	-
劇場	-	-	102,576,255	93,877,333
治療学	132,253,048	125,428,665	-	-
運送 - 海運	90,861,149	110,687,378	-	-
ビタミン・栄養学プログラム	-	-	104,823,076	103,983,069
<b>転換社債合計</b>	<b>1,840,833,170</b>	<b>2,210,748,131</b>	<b>2,172,539,215</b>	<b>2,155,549,671</b>
<b>社債</b>				
広告営業	-	-	92,112,770	89,421,291

航空宇宙・防衛	858,254,281	901,937,547	124,086,502	121,943,422
航空宇宙・防衛機器	-	-	138,744,651	130,376,462
農業化学薬品	345,151,050	362,771,533	499,276,288	437,063,554
農業	71,622,427	72,866,748	177,994,671	147,883,703
航空会社	401,966,440	416,433,415	354,027,401	344,775,255
空港開発/維持管理	62,075,848	65,751,780	-	-
衣料製造	172,897,143	183,799,258	195,168,953	183,852,567
アプリケーション・ソフト	-	-	146,861,667	142,296,173
オークションハウス/芸術	62,976,238	64,138,955	126,857,527	120,386,429
乗用車・貨物自動車 - 部品及び機器	771,392,727	813,384,891	355,036,906	326,338,216
乗用車 - 軽量貨物自動車	808,559,772	799,179,028	781,438,877	720,654,299
自動車 中型車・大型車	157,444,146	158,106,478	225,516,618	211,681,926
自動車 - トレーラー	141,488,358	136,615,716	195,871,344	177,711,557
電池	72,136,487	74,317,491	224,803,792	212,386,297
飲料 - ノンアルコール	95,972,981	98,062,151	95,975,625	91,939,799

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

損益を通じて公正価値で測定する金融資産(続き)

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>社債(続き)</b>				
飲料 - ワイン/蒸留酒	¥ 51,380,064	¥ 52,612,555	-	-
建設製品 - セメント	82,710,760	87,031,403	-	-
建設製品 - ドア及び窓	367,213,886	379,602,408	226,861,485	209,227,877
建設製品 - 木製品	60,011,715	60,281,702	75,159,685	70,704,269
建物及び建設製品	441,310,075	469,159,566	256,753,089	242,010,856
建物及び建設製品 - 機械	185,258,964	195,724,364	-	-
建物 - トレーラーハウス	108,524,136	110,568,125	213,225,207	202,330,917
建物 - 住宅用・商業用	1,510,790,036	1,592,898,263	1,983,565,051	1,740,558,203
放送サービス・番組	405,449,551	416,330,871	254,888,037	249,263,154
建物-重量構造物	64,415,497	67,574,769	297,236,190	272,106,640
有線・衛星テレビ	3,182,371,210	3,384,262,480	2,534,695,682	2,329,982,445
カジノ付きホテル	676,749,324	702,652,068	210,363,074	195,107,557
カジノサービス	134,391,879	131,495,631	254,453,108	242,794,266
セルラー通信	108,462,948	109,814,647	458,802,915	433,555,637
化学薬品 - 多角的	173,591,385	183,379,951	151,876,371	162,776,981
化学薬品 - その他	66,938,923	69,788,242	45,558,241	39,822,156
化学薬品 - プラスチック	-	-	59,623,936	54,843,598
化学薬品 - 特殊薬品	506,479,258	543,397,432	567,969,325	548,382,450
石炭	144,270,018	132,140,939	678,391,724	646,941,553
商業銀行	855,801,809	883,356,583	555,844,820	503,885,435
商業金融	283,006,903	300,551,871	391,653,442	359,125,310
商業サービス	311,895,716	322,583,666	454,539,268	427,743,951
コンピュータ	-	-	134,303,257	120,634,888
コンピュータサービス	61,618,827	62,213,623	182,108,097	165,390,151
コンピュータ・ソフト	86,641,442	87,848,594	105,848,290	99,260,532
コンピュータ - 多角的	193,063,418	203,112,076	96,668,304	89,519,211
コンピュータ - 記憶装置	230,361,224	247,197,453	120,071,865	109,258,448
コンサルティング・サービス	60,056,453	60,917,310	108,325,173	103,625,269
消費財 - 多種多様な製品	-	-	116,342,529	101,620,227
容器 - 紙・プラスチック	417,645,647	445,377,380	666,619,546	644,188,469

容器 - 金属	296,807,670	312,380,906	226,890,548	211,041,054
化粧品	110,479,890	119,928,965	203,237,660	86,709,959
客船運航	140,709,965	150,530,307	68,322,388	66,347,952
データ処理・管理	140,667,675	147,637,952	66,981,818	65,085,681
意思決定支援	-	-	241,842,731	227,500,224
診断機器	84,928,359	84,339,850	179,099,538	167,207,854
透析センター	104,820,660	107,903,534	279,897,355	264,134,199
販売 / 卸売	339,283,094	350,163,810	206,934,441	188,593,090
多角的銀行業	300,292,432	336,394,622	312,895,059	277,327,154
多角的金融サービス	123,712,194	131,316,645	67,717,660	69,007,735
多角的製造業	699,357,403	749,585,706	569,381,919	525,479,926
多角的鉱物	-	-	87,182,337	86,420,723
多角的事業	74,849,829	77,264,858	179,651,344	174,875,577
Eコマース / サービス	155,592,196	159,171,104	188,511,124	176,513,881
電気 - 配電	64,735,305	67,446,407	64,498,041	58,246,322
電気 - 発電	290,298,853	324,135,364	603,700,873	604,525,764
電気 - 総合	383,849,667	395,649,165	268,415,508	259,846,870
電子部品 - 半導体	194,921,649	212,561,031	109,500,607	103,266,227

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

損益を通じて公正価値で測定する金融資産(続き)

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>社債(続き)</b>				
電気測定	¥ 105,677,567	¥ 108,971,636	¥ 77,243,471	¥ 70,565,122
エネルギー - 代替エネルギー源	420,520,679	423,389,838	-	-
エンジニアリング / 研究開発サービス	-	-	11,234,231	9,246,780
金融 - 自動車ローン	52,999,240	55,205,648	-	-
金融 - 商業	108,220,380	113,213,942	-	-
金融 - 消費者ローン	1,034,358,724	1,092,312,829	830,896,110	701,017,684
金融 - 投資銀行	54,436,022	56,127,021	-	-
金融 - 住宅ローン	217,924,255	227,210,262	175,572,945	156,409,979
金融 - その他のサービス	307,927,515	331,375,473	608,415,530	573,734,531
財務保証	203,125,232	214,193,907	38,501,466	35,503,225
食品及び飲料	126,982,524	1,207,669	-	-
食品 - 缶詰	-	-	88,631,831	86,024,103
食品 - 菓子	78,667,854	87,337,294	-	-
食品 - 乳製品	356,853,346	354,131,868	245,229,033	208,767,074
食品 - 肉製品	234,036,807	250,921,513	112,523,218	110,730,412
食品 - 多様 / 多角的な製品	176,307,452	187,281,408	719,392,408	667,331,978
食品 - 小売	84,008,913	59,137,675	634,521,018	602,222,892
シューズ・関連ウェア	-	-	119,428,563	111,936,729
葬祭サービス	85,816,564	88,633,785	147,782,832	137,816,440
ギャンブル(ホテルに付属しない)	697,449,190	736,821,047	628,773,976	594,155,684
ガス - 配ガス	65,561,043	70,537,204	65,900,054	63,195,840
ガス - 輸送	49,326,406	48,725,939	103,693,204	99,637,129
金鉱採掘	127,382,019	131,967,434	-	-
有害廃棄物	56,580,851	59,479,594	68,377,485	60,192,392
家庭用雑貨	101,114,714	106,071,451	-	-
ホテル・モーテル	454,184,029	478,481,024	390,772,335	377,474,868
家庭用品	-	-	139,107,547	141,238,746
独立電力生産	554,396,724	572,509,169	774,669,031	805,859,665
工業用ガス	146,518,379	152,133,191	126,217,133	119,022,015
保険ブローカー	184,916,249	199,908,073	201,412,671	192,153,205
インターネット・セキュリティ	64,574,085	69,251,613	64,880,620	62,909,895



投資会社	243,985,984	248,192,160	154,603,574	150,610,169
投資運用・投資顧問	-	-	121,765,468	117,033,046
インターネット接続サービス	131,290,384	132,090,324	131,468,544	126,951,226
インターネット・コンテンツ - 娯楽	677,465,243	717,320,640	729,267,818	686,492,778
生命 / 健康保険	-	-	189,929,293	177,998,505
機械 - ポンプ	-	-	145,729,994	142,231,235
機械 - 損害保険	82,989,136	86,301,784	72,586,382	68,863,717
機械 - 材料	71,787,967	68,029,526	72,195,179	67,238,838
機械 - ポンプ	323,228,651	350,530,513	-	-
マリンサービス	75,832,357	74,553,426	195,578,893	184,088,741
臨床検査・試験	217,937,091	222,312,911	210,609,516	197,316,941
医療用品	57,231,357	57,462,765	319,198,224	301,896,182
医療 - 医薬品	550,519,243	580,022,521	1,451,139,395	1,375,897,844
医療 - 医療保険 (HMO)	528,274,721	558,344,603	984,459,571	925,665,847
医療 - 病院	1,679,424,187	1,913,879,538	3,065,612,305	3,082,085,942
医療 - 外来ホーム	186,579,049	189,884,545	177,675,116	160,507,834
金属加工	89,156,937	89,817,899	241,344,794	210,294,855

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

損益を通じて公正価値で測定する金融資産(続き)

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>社債(続き)</b>				
金属製品 - 加工	¥ 60,449,903	¥ 63,134,266	¥ 27,427,420	¥ 25,962,958
各種金属	-	-	279,524,354	213,415,800
金属 - アルミ	-	-	128,271,428	122,093,046
金属 - 銅	370,143,610	380,646,332	419,772,673	398,596,515
各種金属	88,000,698	85,388,201	-	-
金属 - 鉄	100,368,653	99,380,147	344,243,949	309,413,580
鉱業サービス	119,423,107	121,995,947	119,328,622	117,472,509
住宅ローン貸付銀行	153,222,889	149,539,016	175,537,787	155,652,670
マルチライン保険会社	227,442,257	231,620,642	544,698,902	453,642,450
マルチメディア	138,700,687	141,636,395	138,610,992	128,291,944
音楽	-	-	290,189,523	237,446,986
無害廃棄物	170,905,091	179,461,926	183,720,270	166,599,484
オフィス・オートメーション/事務用品	63,534,007	66,108,143	63,923,869	59,563,999
石油及びガス掘削	-	-	880,209,469	743,418,691
石油会社 - 探査及び生産	5,013,729,982	4,003,034,131	6,419,878,546	4,873,975,514
石油会社 - 総合	113,193,135	118,928,622	110,003,631	117,710,513
石油精製及びマーケティング	170,632,482	176,775,627	404,093,466	382,490,550
石油及びガス掘削	207,048,354	214,797,622		
石油 - 油田サービス	991,085,855	877,395,352	1,115,550,347	925,436,361
石油 - 油田用機械・機器	-	-	104,304,697	91,854,495
紙及び関連製品	-	-	386,749,982	379,289,144
畜産・農業	64,703,934	69,562,383	64,562,097	57,769,490
石油化学	61,383,061	56,547,400	194,211,715	174,622,943
理学療法/リハビリ費用	58,509,360	61,597,273	-	-
パイプライン	827,162,773	873,740,076	1,453,008,735	1,415,910,701
養鶏	59,401,040	62,112,059	45,723,750	45,543,794
貴金属	88,756,009	94,495,880	-	-
保護 - 保安	-	-	111,737,329	30,659,857
公道	60,382,504	56,257,557	108,202,304	91,225,631
出版	-	-	119,375,178	116,014,835
採石業	199,951,757	212,689,877	70,863,244	69,489,092
競馬場	210,622,420	218,693,794	221,595,800	195,210,030
ラジオ	179,241,844	192,657,754	502,642,405	463,743,637
不動産運営	171,868,727	143,614,179	109,956,614	98,606,082
レクリエーション・センター	-	-	104,617,310	103,851,008
再保険会社	-	-	127,372,760	123,445,832
REIT - 多種多様な商品	121,062,320	100,979,299	538,620,413	496,775,257
REIT - ヘルスケア	193,411,780	204,913,504	192,311,865	186,302,378
REIT - ホテル	34,661,760	37,989,321	111,221,151	103,736,767
レンタル自動車・機器	358,761,723	344,140,846	292,818,666	261,185,335
研究開発	-	-	122,436,658	112,851,094
リゾート・テーマパーク	202,555,652	217,654,096	301,164,785	305,922,723
小売 - 衣料品・靴	-	-	219,024,458	211,843,345
小売 - 電気器具	-	-	360,872,351	343,960,914

小売 - 自動車	291,339,089	296,476,094	148,690,585	138,935,945
小売 - 建物	148,416,254	143,304,496	221,637,561	191,898,118
小売 - コンビニエンスストア	-	-	73,798,829	70,302,081
小売 - ディスカウント	-	-	84,368,534	78,295,710
小売 - 多種多様な商品	-	-	73,144,956	74,811,367

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

損益を通じて公正価値で測定する金融資産（続き）

	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
<b>社債（続き）</b>				
小売 - 音楽ストア	¥ -	¥ -	¥ 137,140,612	¥ 132,288,861
小売 - 香水及び化粧品	96,758,824	99,998,557	73,545,549	68,309,382
小売 - ペットフード・用品	71,888,083	80,907,587	140,706,594	120,125,582
小売 - 石油製品	185,172,342	191,501,761	-	-
小売 - レストラン	581,092,118	598,966,638	1,035,830,017	934,835,983
衛星通信	481,710,539	477,578,033	422,587,247	391,048,946
学校	-	-	82,225,766	80,429,324
セキュリティ・サービス	156,945,349	162,687,924	446,354,626	388,621,091
半導体	74,360,773	73,336,724	74,573,889	65,630,827
銀鉱採掘	70,200,519	72,848,004	-	-
特定目的	129,717,541	132,676,633	138,021,099	122,639,427
鉄管	112,653,788	116,548,174	187,683,487	181,066,230
鉄鋼 - 製造業者	100,635,953	106,316,412	159,576,817	143,732,136
鉄鋼 - 特殊	-	-	107,515,639	99,516,168
倉庫	74,050,476	67,475,073	148,761,703	137,316,826
砂糖	-	-	140,469,208	7,764,578
広域地方銀行	93,727,530	102,335,010	147,999,444	140,322,057
通信サービス	233,880,094	233,276,057	704,398,445	670,469,329
電話 - 総合	553,640,248	567,958,665	1,847,949,569	1,708,880,794
テレビ	1,132,015,906	1,181,376,084	954,936,678	888,445,256
治療学	102,051,570	110,761,223	-	-
劇場	-	-	126,683,598	110,395,233
タバコ	-	-	100,411,837	79,809,434
玩具	298,570,502	291,863,151	249,616,028	201,662,337
運送 - 空輸	56,092,442	51,522,722	235,332,172	193,976,120
輸送 - 機器及びリース	-	-	154,974,161	140,632,687
運送 - 海運	211,878,281	205,960,489	462,861,876	373,808,654
運送 - サービス			249,869,383	242,440,113
運送 - 陸運	74,196,076	77,348,038	285,516,835	261,038,042
ベンチャーキャピタル	-	-	80,694,167	77,757,585
獣医診断	73,353,971	75,730,310	150,005,448	140,446,643

水	-	-	134,096,722	123,751,389
ワイヤレス機器	252,185,978	265,115,988	37,091,746	36,524,398
<b>社債合計</b>	<b>45,900,076,497</b>	<b>46,382,287,365</b>	<b>60,823,973,374</b>	<b>55,126,748,287</b>
<b>新株引受権・新株予約権</b>				
航空宇宙・防衛	3,496,626	39,011	3,496,626	39,384
<b>新株引受権・新株予約権合計</b>	<b>3,496,626</b>	<b>39,011</b>	<b>3,496,626</b>	<b>39,384</b>
<b>公債</b>				
地方債(群)	-	-	103,028,292	91,363,989
地方債(州)	64,917,188	65,892,369	120,898,430	102,163,865
国債	51,339,123	52,288,721	65,964,272	61,018,039
<b>公債合計</b>	<b>116,256,311</b>	<b>118,181,090</b>	<b>289,890,994</b>	<b>254,545,893</b>
	<b>¥ 48,442,816,056</b>	<b>¥ 49,107,025,848</b>	<b>¥ 63,844,652,277</b>	<b>¥ 57,987,255,307</b>

**LA米国ハイイールド債券ファンド**  
**MHAMアンブレラファンドのサブトラスト**

**財務諸表注記**

**2019年12月31日終了年度**

**損益を通じて公正価値で測定する金融資産（続き）**

投資には1933年証券法におけるルール144Aに準拠する制限有価証券が含まれるが、これは一定の適格機関投資家間でこれら証券の再販を認めるものである。2019年12月31日時点で所有するルール144A証券の取得原価と公正価値は、合計がそれぞれ29,121,990,440円と28,870,880,399円（2018年：36,965,198,482円と33,133,087,648円）で、クラスファンド純資産価額の56.11%（2018年：55.92%）を占める。

2019年12月31日時点で、投資の満期日は2020年1月15日から2168年9月8日（2018年：2019年1月15日から2167年12月15日）まで、また利率は0.13%から13.00%（2018年：0.00%から13.00%）までである。2019年12月31日及び2018年12月31日時点の投資ポートフォリオは、米ドル建ての有価証券で構成されている。

発行国別	2019年12月31日		2018年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
アルゼンチン	¥ 260,499,124	¥ 265,537,411	¥ 394,256,511	¥ 337,019,207
オーストリア	264,031,467	256,412,581	175,361,231	187,200,122
オーストラリア	-	-	264,820,899	229,641,388
パミューダ	245,285,926	256,313,073	144,291,129	134,415,687
ブラジル	82,047,611	86,084,393	77,589,372	80,499,651
英領バージン諸島	242,491,360	250,195,342	222,192,758	210,961,814
カナダ	2,311,804,885	2,413,705,341	2,733,930,792	2,574,967,230
ケイマン諸島	652,995,740	691,795,965	1,110,322,698	1,008,948,923
チリ	57,115,519	59,012,535	-	-
コスタリカ	60,382,504	56,257,557	108,202,304	91,225,631
デンマーク	184,458,246	186,796,725	154,603,574	150,610,169
フィンランド			37,091,746	36,524,398
フランス	623,134,267	665,718,622	483,214,112	439,812,326
ドイツ	100,345,395	111,434,255	-	-
イギリス	1,629,255,531	779,270,883	1,537,313,927	612,822,642
インド	148,481,648	155,712,448	-	-
アイルランド	118,797,610	124,712,697	67,717,660	69,007,735
イタリア	120,454,253	130,685,025	-	-
ジャージー島	419,611,446	415,129,466	208,664,631	197,827,116
リベリア	-	-	165,043,585	81,217,181
ルクセンブルグ	1,202,345,673	1,098,562,524	1,544,429,854	1,328,310,962
マーシャル諸島	302,739,430	316,647,867	297,818,291	292,591,473
モーリシャス	145,656,234	148,448,179	-	-
メキシコ	-	-	59,623,936	54,843,598
オランダ	766,700,194	800,229,605	906,457,677	835,152,791

パラグアイ	58,090,589	60,440,619	-	-
ペルー	-	-	82,650,305	85,217,901
プエルトリコ	151,945,306	158,912,037	106,526,312	103,970,777
シンガポール	-	-	273,121,611	255,221,632
スペイン	49,197,977	50,452,638	-	-
スウェーデン	74,849,829	77,264,858	74,281,854	68,766,619
トルコ	-	-	318,598,596	317,641,205
ウクライナ	51,339,123	52,288,721	-	-
アメリカ	38,118,759,169	39,439,004,481	52,295,826,912	48,202,837,129
	<u>¥ 48,442,816,056</u>	<u>¥ 49,107,025,848</u>	<u>¥ 63,843,952,277</u>	<u>¥ 57,987,255,307</u>

LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

為替予約

未決済為替予約の要約は以下の通りである。

2019年12月31日	満期日	未実現利益
クラスAUD 詳細		
買い AUD296,447,518、売り JPY21,895,487,880	2020年1月6日	¥ 746,634,929
買い AUD286,127,405、売り JPY21,533,495,084	2020年2月4日	299,958,144
買い USD2,049,441、売り JPY222,195,941	2020年1月6日	448,206
買い JPY102,351,378、売り USD933,991	2020年1月8日	849,931
買い JPY21,018,066,272、売り USD192,820,440	2020年2月4日	105,049,583
クラスBRL 詳細		
買い BRL660,304,922、売り JPY7,039,080,512	2020年1月6日	789,245,788
買い BRL635,535,341、売り JPY17,015,639,129	2020年2月4日	96,784,054
買い USD2,677,046、売り JPY290,293,913	2020年1月6日	530,997
買い JPY127,101,558、売り BRL4,705,339	2020年2月4日	405,611
買い JPY523,635,934、売り USD4,792,072	2020年1月6日	3,041,929
買い JPY127,101,558、売り USD1,159,844	2020年1月8日	1,055,458
買い JPY16,786,935,886、売り USD153,995,997	2020年2月4日	84,760,225
クラスJPY 詳細		
買い USD355,640、売り JPY38,575,585	2020年1月6日	59,917
買い JPY91,855,159、売り USD840,251	2020年1月6日	558,507
買い JPY20,152,237、売り USD183,896	2020年1月8日	167,346
買い JPY5,222,541,397、売り USD47,913,224	2020年2月4日	25,944,757
クラスUSD 詳細		
買い JPY41,629,492、売り USD380,439	2020年1月8日	285,329
クラスZAR 詳細		
買い ZAR64,447,756、売り JPY472,967,120	2020年1月6日	27,337,944
買い ZAR63,648,156、売り JPY484,503,471	2020年2月4日	6,883,134
買い USD44,138、売り JPY4,794,749	2020年1月6日	253
買い JPY14,873,109、売り USD135,969	2020年1月6日	101,946
買い JPY4,794,749、売り USD43,754	2020年1月8日	39,816
買い JPY481,813,086、売り USD4,419,921	2020年2月4日	2,435,028
		¥ 2,192,578,832





LA米国ハイイールド債券ファンド  
MHAMアンブレラファンドのサブトラスト

財務諸表注記

2019年12月31日終了年度

為替予約(続き)

2019年12月31日	満期日	未実現損失
クラスAUD 詳細		
買い USD196,391,740、売り JPY21,439,122,800	2020年1月6日	¥ (103,720,362)
買い USD2,657,550、売り JPY290,351,378	2020年2月4日	(2,117,496)
買い JPY22,316,720,390、売り AUD296,447,518	2020年1月6日	(325,402,419)
買い JPY290,351,378、売り AUD3,834,905	2020年2月4日	(2,277,783)
買い JPY21,240,086,232、売り USD196,155,282	2020年1月6日	(69,540,210)
クラスBRL 詳細		
買い USD156,468,214、売り JPY17,082,234,976	2020年1月6日	(83,884,177)
買い USD2,482,630、売り JPY271,101,558	2020年2月4日	(1,839,249)
買い JPY17,706,390,072、売り BRL660,304,922	2020年1月6日	(121,936,229)
買い JPY144,000,000、売り BRL5,388,193	2020年2月4日	(1,082,476)
買い JPY16,181,583,394、売り USD149,439,273	2020年1月6日	(52,978,632)
クラスJPY 詳細		
買い USD47,913,224、売り JPY5,230,351,252	2020年1月6日	(25,225,539)
買い USD1,080,180、売り JPY118,007,396	2020年2月4日	(852,702)
買い JPY5,177,071,678、売り USD47,811,009	2020年1月6日	(16,949,774)
クラスZAR 詳細		
買い USD4,419,681、売り JPY482,509,174	2020年1月6日	(2,364,716)
買い USD43,814、売り JPY4,794,749	2020年2月4日	(42,784)
買い JPY492,928,379、売り ZAR64,447,756	2020年1月6日	(7,376,685)
買い JPY4,794,749、売り ZAR623,237	2020年2月4日	(16,864)
買い JPY452,469,555、売り USD4,178,646	2020年1月6日	(1,484,021)
		¥ (819,092,118)

## 2【ファンドの現況】

### 【純資産額計算書】

米国ハイイールド債券ファンド 円コース

令和2年10月30日現在

資産総額	4,625,428,096円
負債総額	8,862,253円
純資産総額( - )	4,616,565,843円
発行済数量	6,102,307,671口
1口当たり純資産額( / )	0.7565円

米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース

令和2年10月30日現在

資産総額	5,797,738,016円
負債総額	13,824,231円
純資産総額( - )	5,783,913,785円
発行済数量	9,840,639,587口
1口当たり純資産額( / )	0.5878円

米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース

令和2年10月30日現在

資産総額	17,160,464,284円
負債総額	70,577,622円
純資産総額( - )	17,089,886,662円
発行済数量	50,621,787,274口
1口当たり純資産額( / )	0.3376円

米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース

令和2年10月30日現在

資産総額	331,446,025円
負債総額	4,664,609円
純資産総額( - )	326,781,416円
発行済数量	1,044,752,849口
1口当たり純資産額( / )	0.3128円

米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース

令和2年10月30日現在

資産総額	9,016,913,030円
負債総額	18,975,062円
純資産総額( - )	8,997,937,968円
発行済数量	57,232,587,088口
1口当たり純資産額( / )	0.1572円

(参考)

MHAM短期金融資産マザーファンド

令和2年10月30日現在

資産総額	204,401,258円
負債総額	27,240,030円
純資産総額( - )	177,161,228円
発行済数量	173,160,950口
1口当たり純資産額( / )	1.0231円



## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### (1) 受益証券の名義書換

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

### (2) 受益者等名簿

該当事項はありません。

### (3) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

### (4) 受益権の譲渡制限

譲渡制限はありません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

### (5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### (6) 受益権の再分割

委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1) 資本金の額(2020年10月30日現在)

資本金の額	20億円
発行する株式総数	100,000株 (普通株式 上限100,000株、A種種類株式 上限30,000株)
発行済株式総数	40,000株 (普通株式24,490株、A種種類株式15,510株)
種類株式の発行が可能	

直近5カ年の資本金の増減：該当事項はありません。

##### (2) 会社の機構(2020年10月30日現在)

###### 会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。

取締役は株主総会で選任されます。取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、その選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した取締役(監査等委員である取締役を除く。)の補欠として選任された取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、現任取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期の満了の時までとします。

また、監査等委員である取締役の任期は、その選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任された監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、決議によって代表取締役を選定します。代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役社長があたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、出席取締役の過半数をもって行います。

###### 投資運用の意思決定機構

###### 1. 投資環境見直しおよび運用方針の策定

経済環境見直し、資産別市場見直し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

## 2.運用計画、売買計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）ならびにその受益証券（受益権）の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っています。

2020年10月30日現在、委託会社の運用する投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除く）

基本的性格	本数	純資産総額（単位：円）
追加型公社債投資信託	26	1,349,996,407,143
追加型株式投資信託	852	13,896,345,858,304
単位型公社債投資信託	35	77,756,605,656
単位型株式投資信託	193	1,262,956,120,495
合計	1,106	16,587,054,991,598



### 3【委託会社等の経理状況】

- 1．委託会社であるアセットマネジメントOne株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。  
また、中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- 2．財務諸表及び中間財務諸表の金額は、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。
- 3．委託会社は、第35期事業年度（自2019年4月1日至2020年3月31日）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受け、第36期中間会計期間（自2020年4月1日至2020年9月30日）の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

## (1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金	41,087,475	32,932,013
金銭の信託	18,773,228	28,548,165
有価証券	153,518	996
未収委託者報酬	12,438,085	11,487,393
未収運用受託報酬	3,295,109	4,674,225
未収投資助言報酬	327,064	331,543
未収収益	56,925	11,674
前払費用	573,874	480,129
その他	491,914	2,815,351
流動資産計	77,197,195	81,281,494
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,461,316	1,278,455
1 建物	1,096,916	1,006,793
器具備品	1 364,399	1 270,768
建設仮勘定	-	894
無形固定資産		
ソフトウェア	2,411,540	3,524,781
ソフトウェア仮勘定	885,545	3,299,065
1,522,040	221,784	
電話加入権	3,931	3,931
電信電話専用施設利用権	23	-
投資その他の資産		
投資有価証券	9,269,808	9,482,127
関係会社株式	1,611,931	261,361
4,499,196	5,299,196	
長期差入保証金	1,312,328	1,302,402
繰延税金資産	1,748,459	2,508,004
その他	97,892	111,162
固定資産計	13,142,665	14,285,364
資産合計	90,339,861	95,566,859

(単位:千円)

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	2,183,889	3,702,906
未払金	5,697,942	4,803,140
未払収益分配金	1,053	966
未払償還金	48,968	9,999
未払手数料	4,883,723	4,582,140
その他未払金	764,196	210,034
未払費用	6,724,986	6,673,320
未払法人税等	3,341,238	4,090,268
未払消費税等	576,632	1,338,183
賞与引当金	1,344,466	1,373,328
役員賞与引当金	48,609	65,290
流動負債計	19,917,766	22,046,438
固定負債		
退職給付引当金	1,895,158	2,118,947
時効後支払損引当金	177,851	174,139
固定負債計	2,073,009	2,293,087
負債合計	21,990,776	24,339,526
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	19,552,957	19,552,957
資本準備金	2,428,478	2,428,478
その他資本剰余金	17,124,479	17,124,479
利益剰余金	45,949,372	49,674,383
利益準備金	123,293	123,293
その他利益剰余金	45,826,079	49,551,090
別途積立金	31,680,000	31,680,000
繰越利益剰余金	14,146,079	17,871,090
株主資本計	67,502,329	71,227,341
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	846,755	7
評価・換算差額等計	846,755	7
純資産合計	68,349,085	71,227,333
負債・純資産合計	90,339,861	95,566,859

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		第35期 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	営業収益			
委託者報酬	84,812,585		84,426,075	
運用受託報酬	16,483,356		16,912,305	
投資助言報酬	1,235,553		1,208,954	
その他営業収益	113,622		68,156	
営業収益計		102,645,117		102,615,492
営業費用				
支払手数料	36,100,556		34,980,736	
広告宣伝費	387,028		340,791	
公告費	375		375	
調査費	24,389,003		25,132,268	
調査費	9,956,757		10,586,542	
委託調査費	14,432,246		14,545,725	
委託計算費	936,075		698,723	
営業雑経費	1,254,114		990,002	
通信費	47,007		44,209	
印刷費	978,185		738,330	
協会費	63,558		71,386	
諸会費	22,877		22,790	
支払販売手数料	142,485		113,286	
営業費用計		63,067,153		62,142,897
一般管理費				
給料	10,859,354		10,817,861	
役員報酬	189,198		174,795	
給料・手当	9,098,957		9,087,800	
賞与	1,571,197		1,555,264	
交際費	60,115		40,436	
寄付金	7,255		8,906	
旅費交通費	361,479		320,037	
租税公課	588,172		651,265	
不動産賃借料	1,511,876		1,479,503	
退職給付費用	521,184		505,189	
固定資産減価償却費	590,667		882,526	
福利厚生費	45,292		44,352	
修繕費	16,247		1,843	
賞与引当金繰入額	1,344,466		1,373,328	
役員賞与引当金繰入額	48,609		65,290	
機器リース料	130		233	
事務委託費	3,302,806		3,625,424	
事務用消耗品費	131,074		104,627	
器具備品費	8,112		1,620	
諸経費	188,367		197,094	
一般管理費計		19,585,212		20,119,543
営業利益		19,992,752		20,353,050

(単位:千円)

	第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		第35期 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
営業外収益				
受取利息	1,749		4,440	
受取配当金	73,517		11,185	
時効成立分配金・償還金	8,582		49,164	
投資信託償還益	-		5,528	
受取負担金	177,066		297,886	
雑収入	24,919		7,394	
時効後支払損引当金戻入額	19,797		3,473	
営業外収益計		305,633		379,073
営業外費用				
為替差損	17,542		19,750	
投資信託償還損	-		1	
金銭の信託運用損	175,164		169,505	
システム解約料	-		31,680	
雑損失	5,659		104	
営業外費用計		198,365		221,042
経常利益		20,100,019		20,511,082
特別利益				
投資有価証券売却益	353,644		1,169,758	
特別利益計		353,644		1,169,758
特別損失				
固定資産除却損	1 19,121		1 16,085	
特別損失計		19,121		16,085
税引前当期純利益		20,434,543		21,664,754
法人税、住民税及び事業税		6,386,793		7,045,579
法人税等調整額		71,767		385,835
法人税等合計		6,315,026		6,659,743
当期純利益		14,119,516		15,005,011

## (3)【株主資本等変動計算書】

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金			
						別途 積立金	研究開発 積立金	運用責任準備 積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	24,580,000	300,000	200,000	19,146,562
当期変動額									
剰余金の配当									12,520,000
当期純利益									14,119,516
別途積立金の積立						7,100,000			
研究開発積立金の取崩							300,000		
運用責任準備積立金の取崩								200,000	
繰越利益剰余金の取崩									6,600,000
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	7,100,000	300,000	200,000	5,000,483
当期末残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	-	-	14,146,079

	株主資本		評価・換算差額等		純資産 合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	44,349,855	65,902,812	795,002	795,002	66,697,815
当期変動額					
剰余金の配当	12,520,000	12,520,000			12,520,000
当期純利益	14,119,516	14,119,516			14,119,516
別途積立金の積立	7,100,000	7,100,000			7,100,000
研究開発積立金の取崩	300,000	300,000			300,000
運用責任準備積立金の取崩	200,000	200,000			200,000
繰越利益剰余金の取崩	6,600,000	6,600,000			6,600,000
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			-	51,753	51,753
当期変動額合計	1,599,516	1,599,516	51,753	51,753	1,651,270
当期末残高	45,949,372	67,502,329	846,755	846,755	68,349,085

第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	14,146,079	45,949,372	67,502,329
当期変動額									
剰余金の配当							11,280,000	11,280,000	11,280,000
当期純利益							15,005,011	15,005,011	15,005,011
株主資本以外の 項目の当期 変動額(純額)									-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	3,725,011	3,725,011	3,725,011
当期末残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	17,871,090	49,674,383	71,227,341

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	846,755	846,755	68,349,085
当期変動額			
剰余金の配当			11,280,000
当期純利益			15,005,011
株主資本以外の 項目の当期 変動額(純額)	846,763	846,763	846,763
当期変動額合計	846,763	846,763	2,878,247
当期末残高	7	7	71,227,333

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 ：移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの：決算日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの：移動平均法による原価法</p>
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p>
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
5. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度について、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年または10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金は、時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>
6. 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。



## 注記事項

## （貸借対照表関係）

## 1. 有形固定資産の減価償却累計額

（千円）

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
建物	229,897	320,020
器具備品	927,688	949,984

## （損益計算書関係）

## 1. 固定資産除却損の内訳

（千円）

	第34期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	第35期 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)
建物	1,550	-
器具備品	439	9,609
ソフトウエア	17,130	6,475

## （株主資本等変動計算書関係）

## 第34期（自2018年4月1日至2019年3月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の総 額（千円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2018年6月20日 定時株主総会	普通株式	12,520,000	313,000	2018年3月31日	2018年6月21日
	A種種類 株式				

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の 種類	配当の 原資	配当金の総 額（千円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	11,280,000	282,000	2019年3月31日	2019年6月21日
	A種種 類株式					

## 第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の総 額(千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	11,280,000	282,000	2019年3月31日	2019年6月21日
	A種種類 株式				

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの  
2020年6月17日開催予定の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

決議	株式の 種類	配当の 原資	配当金の総 額(千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月17日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	12,000,000	300,000	2020年3月31日	2020年6月18日
	A種種 類株式					

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業を営んでおります。資金運用については、短期的な預金等に限定してあります。

当社が運用を行う投資信託の商品性を適正に維持するため、当該投資信託を特定金外信託を通じて、または直接保有しております。なお、特定金外信託を通じて行っているデリバティブ取引は後述するリスクを低減する目的で行っております。当該デリバティブ取引は、実需の範囲内でのみ利用することとしており、投機的な取引は行わない方針であります。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

金銭の信託の主な内容は、当社運用ファンドの安定運用を主な目的として資金投入した投資信託及びデリバティブ取引であります。金銭の信託に含まれる投資信託は為替及び市場価格の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（為替予約取引、株価指数先物取引及び債券先物取引）を利用して一部リスクを低減しております。

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されてあります。

有価証券及び投資有価証券は、主にその他有価証券（投資信託）、業務上の関係を有する企業の株式であり、発行体の信用リスクや市場価格の変動リスクに晒されてあります。

営業債務である未払手数料は、1年以内の支払期日であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金の預入先については、余資運用規程に従い、格付けの高い預入先に限定することにより、リスクの軽減を図っております。

営業債権の相手先の信用リスクに関しては、当社の信用リスク管理の基本方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な相手先の信用状況を把握する体制としております。

有価証券及び投資有価証券の発行体の信用リスクに関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

組織規程における分掌業務の定めに基づき、リスク管理担当所管にて、取引残高、損益及びリスク量等の実績管理を行い、定期的に社内委員会での報告を実施しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

取引実行担当所管からの報告に基づき、資金管理担当所管が資金繰りを確認するとともに、十分な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)参照)。

第34期(2019年3月31日現在)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	41,087,475	41,087,475	-
(2) 金銭の信託	18,773,228	18,773,228	-
(3) 未収委託者報酬	12,438,085	12,438,085	-
(4) 未収運用受託報酬	3,295,109	3,295,109	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	1,488,684	1,488,684	-
資産計	77,082,582	77,082,582	-
(1) 未払手数料	4,883,723	4,883,723	-
負債計	4,883,723	4,883,723	-

第35期(2020年3月31日現在)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	32,932,013	32,932,013	-
(2) 金銭の信託	28,548,165	28,548,165	-
(3) 未収委託者報酬	11,487,393	11,487,393	-
(4) 未収運用受託報酬	4,674,225	4,674,225	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	2,988	2,988	-
資産計	77,644,787	77,644,787	-
(1) 未払手数料	4,582,140	4,582,140	-
負債計	4,582,140	4,582,140	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、投資信託は基準価額によっております。また、デリバティブ取引は取引相手先金融機関より提示された価格によっております。

(3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

## 負債

## (1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(千円)

区分	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
非上場株式	276,764	259,369
関係会社株式	4,499,196	5,299,196

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第34期(2019年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金・預金	41,087,475	-	-	-
(2) 金銭の信託	18,773,228	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	12,438,085	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	3,295,109	-	-	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託)	153,518	1,995	996	-

第35期(2020年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金・預金	32,932,013	-	-	-
(2) 金銭の信託	28,548,165	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	11,487,393	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	4,674,225	-	-	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託)	996	994	997	-

## (有価証券関係)

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

関係会社株式(第34期の貸借対照表計上額4,499,196千円、第35期の貸借対照表計上額5,299,196千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

## 2. その他有価証券

第34期(2019年3月31日現在)

(千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,326,372	111,223	1,215,148
投資信託	158,321	153,000	5,321
小計	1,484,694	264,223	1,220,470
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
投資信託	3,990	4,000	9
小計	3,990	4,000	9
合計	1,488,684	268,223	1,220,460

(注)非上場株式(貸借対照表計上額276,764千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第35期(2020年3月31日現在)

(千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
投資信託	-	-	-
小計			
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
投資信託	2,988	3,000	11
小計	2,988	3,000	11
合計	2,988	3,000	11

(注)非上場株式(貸借対照表計上額259,369千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 3. 当該事業年度中に売却したその他有価証券

## 第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	394,222	353,644	-
投資信託	-	-	-

## 第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	1,298,377	1,169,758	-
投資信託	159,526	5,528	1

(注) 投資信託の「売却額」、「売却益の合計額」及び「売却損の合計額」は、償還によるものであります。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度(非積立型制度であります)を採用しております。確定拠出型の制度としては確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)	第35期 (自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,154,607	2,289,044
勤務費用	300,245	302,546
利息費用	1,918	2,087
数理計算上の差異の発生額	10,147	18,448
退職給付の支払額	158,018	187,749
その他	438	1,476
退職給付債務の期末残高	2,289,044	2,422,901

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(千円)

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
非積立型制度の退職給付債務	2,289,044	2,422,901
未積立退職給付債務	2,289,044	2,422,901
未認識数理計算上の差異	150,568	130,155
未認識過去勤務費用	243,317	173,798
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,895,158	2,118,947
退職給付引当金	1,895,158	2,118,947
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,895,158	2,118,947

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(千円)

	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)	第35期 (自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	300,245	302,546
利息費用	1,918	2,087
数理計算上の差異の費用処理額	43,920	38,861
過去勤務費用の費用処理額	69,519	69,519
その他	3,640	11,303
確定給付制度に係る退職給付費用	411,963	401,711

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
割引率	0.09%	0.09%
予想昇給率	1.00% ~ 4.42%	1.00% ~ 4.42%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度104,720千円、当事業年度103,477千円であります。



## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第34期	第35期
	(2019年3月31日現在)	(2020年3月31日現在)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
未払事業税	173,805	221,053
未払事業所税	10,915	10,778
賞与引当金	411,675	420,513
未払法定福利費	80,253	78,439
未払給与	7,961	10,410
受取負担金	138,994	47,781
運用受託報酬	102,490	331,395
資産除去債務	10,152	14,116
減価償却超過額(一括償却資産)	4,569	50,942
減価償却超過額	125,839	82,684
繰延資産償却超過額(税法上)	135,542	323,132
退職給付引当金	580,297	648,821
時効後支払損引当金	54,458	53,321
ゴルフ会員権評価損	7,360	7,360
関係会社株式評価損	166,740	166,740
投資有価証券評価損	28,976	28,976
その他	29,494	11,532
その他有価証券評価差額金	-	3
繰延税金資産小計	2,069,527	2,508,004
評価性引当額	-	-
繰延税金資産合計	2,069,527	2,508,004
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	321,067	-
繰延税金負債合計	321,067	-
繰延税金資産の純額	1,748,459	2,508,004

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳  
 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

## （企業結合等関係）

当社（以下「AMOne」という）は、2016年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社（以下「DIAM」という）、みずほ投信投資顧問株式会社（以下「MHAM」という）、みずほ信託銀行株式会社（以下「TB」という）及び新光投信株式会社（以下「新光投信」という）（以下総称して「統合4社」という）間の「統合契約書」に基づき、2016年10月1日付で統合いたしました。

## 1. 結合当事企業

結合当事企業	DIAM	MHAM	TB	新光投信
事業の内容	投資運用業務、投資助言・代理業務	投資運用業務、投資助言・代理業務	信託業務、銀行業務、投資運用業務	投資運用業務、投資助言・代理業務

## 2. 企業結合日

2016年10月1日

## 3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

## 4. 結合後企業の名称

アセットマネジメントOne株式会社

## 5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「MHFG」という）及び第一生命ホールディングス株式会社（以下「第一生命」という）の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

## 6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

会社名	DIAM （存続会社）	MHAM （消滅会社）
合併比率（*）	1	0.0154

（\*）普通株式と種類株式を合算して算定しております。

## 7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないIA種類株式15,510株を交付しました。

## 8. 経済的持分比率（議決権比率）

MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 50.00%

MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 20.00%

MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 70.00%

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

## 9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが被取得企業となるものです。

## 10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」(企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分)に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

## 11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

## (1) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	MHAMの普通株式	144,212,500千円
取得原価		144,212,500千円

## (2) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれん	金額	76,224,837千円
b. 発生原因	被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。	
c. のれんの償却方法及び償却期間	20年間の均等償却	

## (3) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

a. 資産の額	資産合計	40,451,657千円
	うち現金・預金	11,605,537千円
	うち金銭の信託	11,792,364千円
b. 負債の額	負債合計	9,256,209千円
	うち未払手数料及び未払費用	4,539,592千円

(注) 顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

## (4) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

a. 無形固定資産に配分された金額	53,030,000千円
b. 主要な種類別の内訳	
顧客関連資産	53,030,000千円
c. 全体及び主要な種類別の加重平均償却期間	
顧客関連資産	16.9年

## 12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

## (1) 貸借対照表項目

	第34期 (2019年3月31日現在)	第35期 (2020年3月31日現在)
流動資産	- 千円	- 千円
固定資産	104,326,078千円	94,605,736千円
資産合計	104,326,078千円	94,605,736千円
流動負債	- 千円	- 千円
固定負債	10,571,428千円	8,278,713千円
負債合計	10,571,428千円	8,278,713千円
純資産	93,754,650千円	86,327,023千円

(注) 固定資産及び資産合計には、のれん及び顧客関連資産の金額が含まれております。

のれん	66,696,733千円	62,885,491千円
顧客関連資産	39,959,586千円	34,810,031千円

## (2) 損益計算書項目

	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)	第35期 (自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日)
営業収益	- 千円	- 千円
営業利益	9,043,138千円	8,954,439千円
経常利益	9,043,138千円	8,954,439千円
税引前当期純利益	9,091,728千円	9,111,312千円
当期純利益	7,489,721千円	7,536,465千円
1株当たり当期純利益	187,243円04銭	188,411円64銭
(注) 営業利益には、のれん及び顧客関連資産の償却額が含まれております。		
のれんの償却額	3,811,241千円	3,811,241千円
顧客関連資産の償却額	5,241,252千円	5,149,555千円

(資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金(敷金)が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

(セグメント情報等)

1. セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)及び第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(1) サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

## ( 関連当事者情報 )

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 親会社及び法人主要株主等

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当はありません。

第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当はありません。

## (2) 子会社及び関連会社等

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当はありません。

第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当はありません。

## (3) 兄弟会社等

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有(被 所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼 任等	事業 上 の 関 係				
親 会 社 の 子 会 社	株式会社 みずほ銀 行	東京都 千代田 区	14,040 億円	銀行業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	6,048,352	未払 手数料	915,980
								子会社株式 の取得	1,270,000	-	-
	みずほ証 券株式会 社	東京都 千代田 区	1,251 億円	証券業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	10,215,017	未払 手数料	1,670,194

第35期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有(被 所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼 任等	事業 上 の 関 係				
親 会 社 の 子 会 社	株式会社 みずほ銀 行	東京都 千代田 区	14,040 億円	銀行業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	5,793,912	未払 手数料	1,112,061
								子会社株式 の取得	10,294,840	未払 手数料	1,231,431
	みずほ証 券株式会 社	東京都 千代田 区	1,251 億円	証券業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	10,294,840	未払 手数料	1,231,431

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 投資信託の販売代行手数料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。

(注2) 子会社株式の取得は、独立した第三者機関により算定された価格を基礎として協議の上、合理的に決定しております。

(注3) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### (1) 親会社情報

株式会社みずほフィナンシャルグループ  
(東京証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

### (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

## (1株当たり情報)

	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)	第35期 (自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,708,727円13銭	1,780,683円32銭
1株当たり当期純利益金額	352,987円92銭	375,125円27銭

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)	第35期 (自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日)
当期純利益金額	14,119,516千円	15,005,011千円
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額	-	-
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る当期純利益金額	14,119,516千円	15,005,011千円
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数	40,000株	40,000株
(うち普通株式)	(24,490株)	(24,490株)
(うちA種種類株式)	(15,510株)	(15,510株)

(注1) A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。



## (1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

		第36期中間会計期間末 (2020年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		27,281,363
金銭の信託		25,870,423
有価証券		996
未収委託者報酬		13,747,204
未収運用受託報酬		3,023,356
未収投資助言報酬		304,673
未収収益		24,940
前払費用		757,672
その他		2,912,168
	流動資産計	73,922,799
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	961,771
器具備品	1	237,569
無形固定資産		
ソフトウェア		3,099,921
ソフトウェア仮勘定		556,224
電話加入権		3,931
投資その他の資産		
投資有価証券		261,361
関係会社株式		5,299,196
長期差入保証金		1,295,930
繰延税金資産		2,294,343
その他		793,037
	固定資産計	14,803,286
資産合計		88,726,085

(単位:千円)

	第36期中間会計期間末 (2020年9月30日現在)
(負債の部)	
流動負債	
預り金	1,297,202
未払金	5,820,782
未払収益分配金	899
未払償還金	19,850
未払手数料	5,549,722
その他未払金	250,310
未払費用	7,902,650
未払法人税等	2,901,506
未払消費税等	824,900
前受収益	20,779
賞与引当金	1,126,713
役員賞与引当金	34,112
流動負債計	19,928,648
固定負債	
退職給付引当金	2,207,043
時効後支払損引当金	156,886
固定負債計	2,363,929
負債合計	22,292,578
(純資産の部)	
株主資本	
資本金	2,000,000
資本剰余金	19,552,957
資本準備金	2,428,478
その他資本剰余金	17,124,479
利益剰余金	44,880,558
利益準備金	123,293
その他利益剰余金	44,757,265
別途積立金	31,680,000
繰越利益剰余金	13,077,265
株主資本計	66,433,515
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	8
評価・換算差額等計	8
純資産合計	66,433,506
負債・純資産合計	88,726,085

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	第36期中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
営業収益		
委託者報酬	40,520,928	
運用受託報酬	6,813,891	
投資助言報酬	548,146	
その他営業収益	773,786	
	営業収益計	48,656,752
営業費用		
支払手数料	16,685,574	
広告宣伝費	116,359	
調査費	12,452,140	
調査費	4,305,114	
委託調査費	8,147,025	
委託計算費	269,176	
営業雑経費	450,999	
通信費	24,247	
印刷費	314,201	
協会費	20,394	
諸会費	32,852	
支払販売手数料	59,302	
	営業費用計	29,974,250
一般管理費		
給料	4,693,004	
役員報酬	75,939	
給料・手当	4,496,351	
賞与	120,714	
交際費	5,108	
寄付金	6,331	
旅費交通費	20,383	
租税公課	277,754	
不動産賃借料	734,008	
退職給付費用	267,068	
固定資産減価償却費	1 534,020	
福利厚生費	17,379	
修繕費	511	
賞与引当金繰入額	1,126,713	
役員賞与引当金繰入額	34,112	
機器リース料	139	
事務委託費	1,899,643	
事務用消耗品費	35,787	
器具備品費	265	
諸経費	66,792	
	一般管理費計	9,719,026
営業利益		8,963,474

(単位:千円)

	第36期中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
営業外収益		
受取利息	17,653	
受取配当金	2,356	
時効成立分配金・償還金	176	
時効後支払損引当金戻入額	16,343	
為替差益	8,484	
金銭の信託運用損益	1,367,091	
雑収入	1,361	
営業外収益計		1,413,467
経常利益		10,376,942
特別損失		
固定資産除却損	0	
特別損失計		0
税引前中間純利益		10,376,942
法人税、住民税及び事業税		2,957,106
法人税等調整額		213,661
法人税等合計		3,170,767
中間純利益		7,206,174

## (3) 中間株主資本等変動計算書

第36期中間会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金	
						別途 積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	17,871,090
当中間期変動額							
剰余金の配当							12,000,000
中間純利益							7,206,174
株主資本以外 の項目の 当中間期変 動額(純額)							
当中間期変動額 合計	-	-	-	-	-	-	4,793,825
当中間期末残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	13,077,265

	株主資本		評価・換算差額等		純資産 合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	49,674,383	71,227,341	7	7	71,227,333
当中間期変動額					
剰余金の配当	12,000,000	12,000,000			12,000,000
中間純利益	7,206,174	7,206,174			7,206,174
株主資本以外 の項目の 当中間期変 動額(純額)		-	0	0	0
当中間期変動額 合計	4,793,825	4,793,825	0	0	4,793,826
当中間期末残高	44,800,558	66,433,515	8	8	66,433,506

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 ：移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの：中間決算日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの：移動平均法による原価法</p>
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 …… 6～18年 器具備品 …… 2～20年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p>
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
5. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度について、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を費用処理しております。 数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年または10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金は、時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>
6. 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

## 注記事項

## （中間貸借対照表関係）

項目	第36期中間会計期間末 （2020年9月30日現在）	
1. 有形固定資産の減価償却累計額	建物	365,042千円
	器具備品	980,577千円

## （中間損益計算書関係）

項目	第36期中間会計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）	
1. 減価償却実施額	有形固定資産	79,115千円
	無形固定資産	454,905千円

## （中間株主資本等変動計算書関係）

第36期中間会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

## 2. 配当に関する事項

## （1）配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 （千円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
2020年6月17日 定時株主総会	普通株式	12,000,000	300,000	2020年3月31日	2020年6月18日
	A種種類 株式				

（2）基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間後となるもの  
該当事項はありません。

## (金融商品関係)

第36期中間会計期間末(2020年9月30日現在)

## 金融商品の時価等に関する事項

2020年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)参照)。

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	27,281,363	27,281,363	-
(2) 金銭の信託	25,870,423	25,870,423	-
(3) 未収委託者報酬	13,747,204	13,747,204	-
(4) 未収運用受託報酬	3,023,356	3,023,356	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	2,987	2,987	-
資産計	69,925,335	69,925,335	-
(1) 未払手数料	5,549,722	5,549,722	-
負債計	5,549,722	5,549,722	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

## (1) 現金・預金

これは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、投資信託は基準価額によっております。また、デリバティブ取引は取引相手先金融機関より提示された価格によっております。

## (3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、投資信託は基準価額によっております。



## 負債

## (1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	中間貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	259,369
関係会社株式	5,299,196

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

## (有価証券関係)

第36期中間会計期間末

(2020年9月30日現在)

## 1. 子会社株式

関係会社株式(中間貸借対照表計上額5,299,196千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

区分	中間貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 投資信託	-	-	-
小計	-	-	-
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	2,987	3,000	12
小計	2,987	3,000	12
合計	2,987	3,000	12

(注) 非上場株式(中間貸借対照表計上額259,369千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## （企業結合等関係）

当社（以下「AMOne」という）は、2016年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社（以下「DIAM」という）、みずほ投信投資顧問株式会社（以下「MHAM」という）、みずほ信託銀行株式会社（以下「TB」という）及び新光投信株式会社（以下「新光投信」という）（以下総称して「統合4社」という）間の「統合契約書」に基づき、2016年10月1日付で統合いたしました。

## 1. 結合当事企業

結合当事企業	DIAM	MHAM	TB	新光投信
事業の内容	投資運用業務、投資助言・代理業務	投資運用業務、投資助言・代理業務	信託業務、銀行業務、投資運用業務	投資運用業務、投資助言・代理業務

## 2. 企業結合日

2016年10月1日

## 3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

## 4. 結合後企業の名称

アセットマネジメントOne株式会社

## 5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「MHFG」という）及び第一生命ホールディングス株式会社（以下「第一生命」という）の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

## 6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

会社名	DIAM (存続会社)	MHAM (消滅会社)
合併比率(*)	1	0.0154

(\*) 普通株式と種類株式を合算して算定しております。

## 7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないIA種種類株式15,510株を交付しました。

## 8. 経済的持分比率（議決権比率）

MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 50.00%

MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 20.00%

MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 70.00%

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

## 9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが被取得企業となるものです。

## 10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」(企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分)に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

## 11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

## (1) 中間財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年4月1日から2020年9月30日まで

## (2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 MHAMの普通株式 144,212,500千円

取得原価 144,212,500千円

## (3) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれん金額 76,224,837千円

b. 発生原因 被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

c. のれんの償却方法及び償却期間 20年間の均等償却

## (4) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

a. 資産の額 資産合計 40,451,657千円

うち現金・預金 11,605,537千円

うち金銭の信託 11,792,364千円

b. 負債の額 負債合計 9,256,209千円

うち未払手数料及び未払費用 4,539,592千円

(注) 顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

## (5) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

a. 無形固定資産に配分された金額 53,030,000千円

## b. 主要な種類別の内訳

顧客関連資産 53,030,000千円

## c. 全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

顧客関連資産 16.9年

## 12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

## (1) 貸借対照表項目

流動資産	- 千円
固定資産	90,405,440千円
資産合計	90,405,440千円
流動負債	- 千円
固定負債	7,722,834千円
負債合計	7,722,834千円
純資産	82,682,605千円

(注) 固定資産及び資産合計には、のれんの金額60,979,870千円及び顧客関連資産の金額32,301,694千円が含まれております。

## (2) 損益計算書項目

営業収益	- 千円
営業利益	4,411,813千円
経常利益	4,411,813千円
税引前中間純利益	4,411,813千円
中間純利益	3,644,417千円
1株当たり中間純利益	91,110円42銭

(注) 営業利益には、のれんの償却額1,905,620千円及び顧客関連資産の償却額2,508,336千円が含まれております。

## (資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金(敷金)が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

(セグメント情報等)

第36期中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1.セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2.関連情報

(1)サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

第36期中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
1株当たり純資産額	1,660,837円67銭
1株当たり中間純利益金額	180,154円36銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第36期中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
中間純利益金額	7,206,174千円
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額	-
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る中間純利益金額	7,206,174千円
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数	40,000株
(うち普通株式)	(24,490株)
(うちA種種類株式)	(15,510株)

(注) A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

- (1) 定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項  
該当事項はありません。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項  
委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

## (1)受託会社

名称	みずほ信託銀行株式会社
資本金の額	247,369百万円(2020年3月末日現在)
事業の内容	日本において銀行業務および信託業務を営んでいます。

## (2)販売会社

販売会社の名称、資本金の額および事業内容は以下の通りです。

名 称	資本金の額 (単位:百万円)	事 業 の 内 容
株式会社みずほ銀行	1,404,065	日本において銀行業務を営んでおります。
株式会社十六銀行(1)	36,839	日本において銀行業務を営んでおります。
株式会社滋賀銀行(2)	33,000	日本において銀行業務を営んでおります。
株式会社みなと銀行	39,984	日本において銀行業務を営んでおります。
auカブコム証券株式会社	7,196	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
池田泉州TT証券株式会社	1,250	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
株式会社SBI証券	48,323	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
あかつき証券株式会社(3)	3,067	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
株式会社しん証券さかもと(4)	300	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
みずほ証券株式会社	125,167	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
大熊本証券株式会社	343	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
楽天証券株式会社	7,495	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
東海東京証券株式会社(1)	6,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
マネックス証券株式会社	12,200	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
丸國証券株式会社	601	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
ワイエム証券株式会社	1,270	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。

(注)資本金の額は2020年3月末日現在

- (1)「米ドルコース」、「南アフリカランドコース」の取扱いはありません。
- (2)「円コース」、「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」の新規の取得のお申込みの取扱いを行っていません。なお、「米ドルコース」、「南アフリカランドコース」の取扱いはありません。
- (3)「円コース」、「米ドルコース」以外の取扱いはありません。
- (4)「米ドルコース」、「豪ドルコース」以外の取扱いはありません。



## 2【関係業務の概要】

### (1) 受託会社

各ファンドの受託会社として、信託財産を保管・管理し、受益権設定にかかる振替機関への通知等を行います。

### (2) 販売会社

各ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付けならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

## 3【資本関係】

該当事項はありません。

持株比率5%以上を記載します。

## 第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類を提出いたしました。

提出年月日	提出書類
2020年4月27日	臨時報告書
2020年7月13日	有価証券報告書
2020年7月13日	有価証券届出書
2020年7月29日	臨時報告書

## 独立監査人の監査報告書

2020年5月27日

アセットマネジメントOne株式会社  
取締役会 御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山野 浩 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和2年11月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国ハイイールド債券ファンド 円コースの令和2年4月14日から令和2年10月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国ハイイールド債券ファンド 円コースの令和2年10月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和2年11月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコースの令和2年4月14日から令和2年10月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコースの令和2年10月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和2年11月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコースの令和2年4月14日から令和2年10月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコースの令和2年10月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。



## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和2年11月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコースの令和2年4月14日から令和2年10月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコースの令和2年10月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和2年11月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬 印  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコースの令和2年4月14日から令和2年10月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコースの令和2年10月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2020年11月26日

アセットマネジメントOne株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	丘本 正彦 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	長谷川 敬 印

#### 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第36期事業年度の中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

#### 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 中間財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注1) 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) X B R L データは中間監査の対象には含まれておりません。